【大学院共通科目】

講義コード	科目名 専修・科目	講義形態	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
9639001	ヘブライ語(初級)	語学	2	前期	火3	手島 勲矢	大学院共通科目	大学院共通科目1
9640001	ヘブライ語(中級)	語学	2	後期	火3	手島 勲矢	大学院共通科目	大学院共通科目2
9616001	ｻﾝｽｸﾘｯﾄ(2時間コース)	語学	4	通年	月4	山口 周子	大学院共通科目	大学院共通科目3
9617001	ｻﾝｽｸﾘｯﾄ(4時間コース)	語学	8	通年	月5,木5	Tao PAN	大学院共通科目	大学院共通科目4
9633001	ヒンディー語(初級)	語学	4	通年	金4,金5	虫賀 幹華	大学院共通科目	大学院共通科目5
9659001	ヒンディー語(中級)I	語学	2	前期	火3	西岡 美樹	大学院共通科目	大学院共通科目6
9660001	ヒンディー語(中級)II	語学	2	後期	火3	西岡 美樹	大学院共通科目	大学院共通科目7
9628001	チベット語(初級)	語学	2	前期	水1	宮崎 泉	大学院共通科目	大学院共通科目8
9629001	チベット語(初級)	語学	2	後期	水1	宮崎 泉	大学院共通科目	大学院共通科目9
9630001	チベット語(中級)	語学	2	前期	月1	高橋 慶治	大学院共通科目	大学院共通科目10
9630002	チベット語(中級)	語学	2	後期	月1	高橋 慶治	大学院共通科目	大学院共通科目11
9661001	ポーランド語(初級I)	語学	2	前期	木4	Bogna Sasaki	大学院共通科目	大学院共通科目12
9662001	ポーランド語(初級I)	語学	2	後期	木4	Bogna Sasaki	大学院共通科目	大学院共通科目13
9642001	ポーランド語(中級II)	語学	2	前期	木5	Bogna Sasaki	大学院共通科目	大学院共通科目14
9642002	ポーランド語(中級II)	語学	2	後期	木5	Bogna Sasaki	大学院共通科目	大学院共通科目15
9646001	ロシア語(初級)	語学	2	後期	水2	田中 大	大学院共通科目	大学院共通科目16
9647001	ロシア語(中級)	語学	2	前期	水2	田中 大	大学院共通科目	大学院共通科目17
9604001	アラブ語(初級)	語学	4	通年	木3	西尾 哲夫	大学院共通科目	大学院共通科目18
9608001	イラン語(初級)	語学	4	通年	金2	杉山 雅樹	大学院共通科目	大学院共通科目19
9620001	シュメール語(初級)	語学	4	通年	金1	森 若葉	大学院共通科目	大学院共通科目20
9624001	スワヒリ語(初級)	語学	2	前期	火3	井戸根 綾子	大学院共通科目	大学院共通科目21
9625001	スワヒリ語(中級)	語学	2	後期	火3	井戸根 綾子	大学院共通科目	大学院共通科目22
M450001	ギリシア語(初級Ⅰ)	語学	2	前期	金4	西村 洋平	大学院共通科目	大学院共通科目23
M451001	ギリシア語(初級Ⅱ)	語学	2	後期	金4	西村 洋平	大学院共通科目	大学院共通科目24
M452001	ラテン語(初級Ⅰ)	語学	2	前期	水2	勝又 泰洋	大学院共通科目	大学院共通科目25
M453001	ラテン語(初級Ⅱ)	語学	2	後期	水2	勝又 泰洋	大学院共通科目	大学院共通科目26
9610001	インドネシア語I(初級)	語学	2	前期	木5	柏村 彰夫		大学院共通科目27
9611001	インドネシア語II(初級)	語学	2	後期	木5	柏村 彰夫		大学院共通科目28
9626001	タイ語I(初級)	語学	2	前期	木5	弓庭 育子		大学院共通科目29
9627001	タイ語II(初級)	語学	2	後期	木5	弓庭 育子		大学院共通科目30
9631001	ビルマ(ミャンマー)語I(初級)	語学	2	前期	木3	本行 沙織		大学院共通科目31
9637001	ベトナム語I(初級)	語学	2	前期	水2	吉本 康子		大学院共通科目32
9638001	ベトナム語II(初級)	語学	2	後期	水2	吉本 康子		大学院共通科目33
9822001	タイ研修	特殊講義	2	前期	集中	張 子康		大学院共通科目34
9822002	ベトナム研修	特殊講義	2	後期	集中	張 子康		大学院共通科目35
9822005	インドネシア研修	特殊講義	2	後期	集中	張 子康		大学院共通科目36
9822003	戦争と植民地の歴史認識	特殊講義	2	後期	木2	小山 哲,谷川 穣		大学院共通科目37
9822015	次世代グローバルワークショップ	特殊講義	2	通年	集中	安里 和晃,Stephane Heim		大学院共通科目38
M603001	科学技術と社会に関わるｸﾘﾃｨｶﾙｼﾝｷﾝｸﾞ	特殊講義	2	後期	木2	伊勢田 哲治	大学院横断教育科目	大学院共通科目39
JK01001	Introduction-Transcultural Studies (Lecture)	特殊講義	2	前期	月3	安里,VASUDEVA, WADA-MARCIANO,KAMM		大学院共通科目40
JK02001	Introduction-Transcultural Studies (Tutorium)	演習	2	前期	月4	KAMM, Bjorn-Ole		大学院共通科目41
JK31001	Introduction-Focus I Seminar (KBR) A	演習	2	前期	火2	VASUDEVA,Somdev		大学院共通科目42
JK32001	Introduction-Focus I Seminar (SEG) A	演習	2	前期	金2	安里 和晃		大学院共通科目43
JK33001	Introduction-Focus I Seminar (VMC) A	演習	2	前期	水3	KAMM, Bjorn-Ole		大学院共通科目44
JK35001	Introduction-Focus I Seminar (SEG) B	特殊講義	2	前期	水6	ERICSON, Kjell David		大学院共通科目45
JK36001	Introduction-Focus I Seminar (VMC) B	演習	2	前期	火4,火5	WADA-MARCIANO, Mitsuyo		大学院共通科目46
JK06001	Introduction-Research Skills	演習	2	前期	水4	KAMM, Bjorn-Ole		大学院共通科目47
JK07001	Skills for Transcultural Studies I-English	演習	2	前期	水2	ERICSON, Kjell David		大学院共通科目48
JK09001	Foundations I-Seminar (KBR)	特殊講義	2	前期	水5	PAN, Tao		大学院共通科目49
JK09002	Foundations I-Seminar (KBR)	特殊講義	2	前期	水3	LE FLOC'H, Justine		大学院共通科目50
JK10001	Foundations I-Seminar (SEG)	特殊講義	2	前期	金1	ERICSON, Kjell David		大学院共通科目51
JK10003	Foundations I-Seminar (SEG)	特殊講義	2	前期	木2	KNAUDT, Till		大学院共通科目52
JK10004	Foundations I-Seminar (SEG)	特殊講義	2	前期	木4	張 子康		大学院共通科目53
JK10005	Foundations I-Seminar (SEG)	特殊講義	2	前期	集中	久野 秀二		大学院共通科目54
JK11001	Foundations I-Seminar (VMC)	特殊講義	2	前期	火2	ROTH, Martin Erwin		大学院共通科目55
JK11002	Foundations I-Seminar (VMC)	特殊講義	2	前期	集中	想田 和弘		大学院共通科目56
JK11003	Foundations I-Seminar (VMC)	特殊講義	2	前期	月2	KITSNIK, Lauri		大学院共通科目57
JK11004	Foundations I-Seminar (VMC)	特殊講義	2	前期	集中	森下 達		大学院共通科目58
JK12001	Foundations I-Seminar (KBR/SEG)	特殊講義	2	前期	金2	伊勢田 哲治		大学院共通科目59
JK14001	Foundations I-Seminar (SEG/VMC)	演習	2	後期	金4,金5	菅野 優香		大学院共通科目60
JK14002	Foundations I-Seminar (SEG/VMC)	演習	2	前期	金4,金5	FEDROVA, Anastasia	前期後半8週	大学院共通科目61
JK15001	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)	特殊講義	2	後期	月5	海田 大輔		大学院共通科目62
JK15002	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)	特殊講義	2	後期	金4	川島 隆		大学院共通科目63
JK15003	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)	特殊講義	2	後期	月3	湯川 志貴子		大学院共通科目64
JK15004	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)	特殊講義	2	後期	木2	CAMPBELL, Michael		大学院共通科目65
JK15005	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)	特殊講義	2	後期	水5	PAN, Tao		大学院共通科目66
JK15006	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)	特殊講義	2	後期	金2	VASUDEVA,Somdev		大学院共通科目67
JK16001	Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquium)	演習	2	後期	火2	VASUDEVA,Somdev		大学院共通科目68
JK16002	Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquium)	演習	2	後期	火5	南谷 奉良		大学院共通科目69

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
JK17001	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	金2	安里 和晃		大学院共通科目70
JK17002	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	木2	KNAUDT, Till		大学院共通科目71
JK17003	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	金2,金3	久野 秀二,久野 愛		大学院共通科目72
JK17005	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	木2	佐野 真由子		大学院共通科目73
JK17006	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	水2	河合 淳子		大学院共通科目74
JK17007	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	集中	久野 秀二		大学院共通科目75
JK17008	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	水4,水5	小林 舞		大学院共通科目76
JK17009	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	前期	火4	IVINGS, Steven		大学院共通科目77
JK17010	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	木4	張 子康		大学院共通科目78
JK19003	Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)	特殊講義	2	後期	火5	ROTH, Martin		大学院共通科目79
JK19004	Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)	特殊講義	2	後期	木4,木5	Duretto, Ida		大学院共通科目80
JK19005	Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)	特殊講義	2	後期	集中	吉田 寛		大学院共通科目81
JK21001	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	火2	村上 衛,ERICSON, Kjell David		大学院共通科目82
JK21002	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	水3	KAMM, Bjorn-Ole		大学院共通科目83
JK21003	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	木3	ERICSON, Kjell David		大学院共通科目84
JK21005	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	木2	ERICSON, Kjell David		大学院共通科目85
JK22001	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG) (Colloquium)	演習	2	後期	水3	児玉 聡		大学院共通科目86
JK23001	Research 1~3-Seminar (KBR/VMC)(Lecture)	特殊講義	2	後期	月5	吉井 秀夫,下垣 仁志,FORTE, Erika		大学院共通科目87
JK26001	Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Colloquium)	演習	2	後期	水4	KAMM, Bjorn-Ole		大学院共通科目88
JK30001	Research 2-Advanced English	実習	1	後期	火3	ERICSON, Kjell David		大学院共通科目89
9829001	Heidelberg-Strasbourg Student Workshop	演習	1	後期	不定	KAMM, Bjorn-Ole,Sandra Schaal		大学院共通科目90
JK29002	Research 3&MA Thesis-Research Colloquium	演習	2	前期	不定	安里,VASUDEVA,WADA-MARCIANO,KAMM	前期修論提出者向け	大学院共通科目91
JK29001	Research 3&MA Thesis-Research Colloquium	演習	2	後期	不定	安里,VASUDEVA,KAMM	後期修論提出者向け	大学院共通科目92
J980001	Oral Master Examination - Oral Examination			前期	不定	安里,VASUDEVA,WADA-MARCIANO,KAMM		大学院共通科目93
J980002	Oral Master Examination - Oral Examination			後期	不定	安里,VASUDEVA,KAMM		大学院共通科目94

大学院共通科目1

科目ナンバリング	G-LET49 89639 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ヘブライ語（初級）(語学) Hebrew					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 手島　勲矢				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火3	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ヘブライ語文法（初級）										

[授業の概要・目的]

ヘブライ語の文字、母音記号、聖書テキストの伝統、ラビ文学を含む歴史的な言語文化の概要とともに、文法の基礎（母音記号、名詞、人称代名詞、形容詞、前置詞、語根、分詞ほか）を教える。16－17世紀の文法学者の意見も紹介しながら、品詞の区別の意義や名詞文の特徴的構造に親しみ、さらに個々の文法事項がもつ聖書解釈上の意義についても解説する。

[到達目標]

ヘブライ語の文字と母音記号を認識して、文章を声に出して読めること。ヘブライ語作文ができること。辞書を使えるようになること。また簡単な名詞文の和訳ができること。

[授業計画と内容]

１．ヘブライ語の歴史（概観）、２．文字と母音記号、３.音節と区切り、４．形容詞と名詞（単数と複数）、５．形容詞と名詞（ジェンダーと性別他）、６．存在詞と非存在詞、７．現在分詞と名詞、８．語根とビニヤン（導入）、９．カルとニフアル、１０．ピエルとプアル、１１．ヒフィルとフファル、１２．ヒトパエルとニフアル、１３．人称代名詞と接尾辞、１４．一般と唯一、１５．まとめ

＊１課題あたり１～２回を当てる場合もある。
＊＊内容や順番は授業の進捗状況で多少変化することもある。
＊＊＊確認クイズは２～３回、学習の区切りで行う。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価・・・・宿題（２０％）、クイズ（３０％）、小テスト（５０％）

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に指示する暗記課題や練習問題をすること。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目2

科目ナンバリング	G-LET49 89640 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ヘブライ語（中級）(語学) Hebrew					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 手島　勲矢				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火3	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ヘブライ語文法（中級）										

[授業の概要・目的]

動詞（完了形・未完了形・命令形、時制など）のシステム及び動詞を含む文章構造の理解を中心にヘブライ語文法の基礎を学ぶ。語根別の共通変化パターン、および歴史的な語根の混同また時制システムの歴史的な問題を学ぶ。聖書テキストを含む色々な時代のテキストを声に出して読み、テキスト翻訳の中で注意するべき文法的な事項の認識を深める。また聖書テキストの中にある、言葉の結びつきと切り離しの伝統（タアメイ・ミクラー）の重要性も解説する。動詞の理解においては、16－17世紀の文法学者の意見も紹介する。

[到達目標]

動詞／完了・未完了の基本活用を覚えること。語根パターンが生む不規則変化を認識できること。完了・未完了・分詞を含むヘブライ語の文構造を理解し翻訳できること。聖書ヘブライ語の特殊な時制構造を理解すること。辞書を効果的に用いてテキストが複数の可能性で読めること。

[授業計画と内容]

１．名詞文と動詞の確認、２．名詞と動詞パラダイムの諸問題、３．完了形（基本）、４．未完了形（基本）、５．不定詞と命令形、６．レヴィータ文法（自動詞、他動詞）、７．レヴィータ文法（時制と時間）、８．語根／ギズラー、９．W倒置と北西セム語、１０．読解聖書、１１．読解ラビ文献、１２．読解中世文献、１３．読解近代文献、１４．読解現代文、１５．まとめ

＊１課題あたり１～２回の授業を要する場合もある。
＊＊進捗状況をみながら内容や順番は多少変化する。
＊＊＊学習の区切りで、2～3回の確認クイズをする。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価・・・宿題（２０％）、クイズ（３０％）、注解レポート（５０％）

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

ヘブライ語（中級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

ヘブライ語（中級）(語学)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に指示する暗記課題やテキスト読解の予習をすること。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目3

科目ナンバリング	G-LET49 89616 LJ48										
授業科目名 <英訳>	サンスクリット（２時間コース）(語学) Sanskrit(2H)					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 山口　周子				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	月4	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	サンスクリット初級文法（２時間コース）										

[授業の概要・目的]

サンスクリット語は南アジア（インド）において、古くは紀元前1200年頃より、多くの文献資料を残してきた言語である。サンスクリット語の習得は、インドの宗教（仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教等）や哲学文献、文学の研究へと道を開く。また、サンスクリット語は、インド・ヨーロッパ語族に属し、その古さと文法・音韻の保守性から、インド・ヨーロッパ祖語の解明・理解に欠かせない重要言語であるため、言語学、西洋古典の学生、研究者にも有益である。

[到達目標]

このコースでは古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。

[授業計画と内容]

以下の文法事項の解説と、各項目に関する練習問題による読解演習とを平行して行います。

前期
サンスクリット語概論、音論・連声(第1-3回)
名詞・形容詞曲用(母音語幹:第4-8回、子音語幹:第9-13回)
代名詞、数詞、複合語(第14-15回)

後期
動詞現在活用(第1種活用:第16-18、第2種活用:第19-22回)
未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞(第23-29回)
年度末テスト（テスト期間）
フィードバック期間：フィードバック（第30回）

※ 授業の進行は受講生の理解度に応じて変更する場合があります。

サンスクリット（２時間コース）(語学)(2)へ続く↓↓↓

サンスクリット（２時間コース）(語学)(2)

[履修要件]

予備知識は特に必要としません。幅広い専攻からの受講を歓迎します。

[成績評価の方法・観点]

・平常点(練習問題への理解度（授業期間中に「確認テスト」を実施）、40点)
・年度末筆記試験(60点)

[教科書]

吹田隆道（編著）『実習サンスクリット文法：萩原雲来『実習梵語学』新訂版』（春秋社, 2015）ISBN:978-4393101728

[参考書等]

（参考書）
辻　直四郎 『サンスクリット文法』（岩波書店, 1974）ISBN:978-4000202220

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：各回の進捗状況に合わせて、原則として次の２つのいずれかを授業中に指示します。
・宿題として出された練習問題の解答（訳）を準備してくること。
・次回の学習テーマとなる文法事項について、テキストの解説に目を通しておくこと。

復習:授業内容を見直すこと（特に、練習問題で正解できなかった点を中心に見直す）。

※ 授業の進捗状況や受講生の理解度によって、変更する場合があります。基本的には、毎回の授業で指示します。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目4

科目ナンバリング	G-LET49 89617 LJ48										
授業科目名 <英訳>	サンスクリット（４時間コース）(語学) Sanskrit(4H)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定講師 Tao PAN				
配当学年	1回生以上	単位数	8	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	月5,木5	授業形態	語学	使用言語	英語
題目	Sanskrit Grammar										

[授業の概要・目的]

This course targets at students with no prior knowledge of Sanskrit and offers a systematic introduction to the Sanskrit language and its linguistic background. The course content basically include: (1) Learn the Sanskrit grammar and check the linguistic remarks in the textbook (see below); (2) Historical grammar of Sanskrit (for example cognate words in other language families including Iranian, Greek and Germanic languages); (3) Translate Sanskrit sentences into English (exercises in the textbook + Buddhist Sanskrit texts); (4) Occasional exercise of English to Sanskrit translation.

[到達目標]

(1) to read and write in Devanagari-script (also used for Hindi)
(2) to gain a systematic overview of basic and intermediate grammar of Classical Sanskrit
(3) to develop skills of reading and interpreting simple prose and verse in Classical Sanskrit
(4) to understand the history and linguistic background of Sanskrit
(5) to develop basic skills in composing prose sentences in Classical Sanskrit

[授業計画と内容]

The overall duration of the course is 30 weeks (15 + 15). Based on the plan laid out in the Japanese version of Perry’s Sanskrit Primer, the first semester covers lessons 1 to 22 and the second semester covers lessons 23 to 45.
First semester
Week #01 Introduction to Sanskrit language
Week #02 to #14: Grammar and exercises in lessons 1 to 22.
Week #15: Feedback

Second semester
Week #01 Review course content of lessons 1 to 22
Week #02 to #14: Grammar and exercises in lessons 23 to 45.
Week #15: Feedback

[履修要件]

Classes will be held in English with translational help provided by a Japanese TA.

サンスクリット（4時間コース）(語学)(2)へ続く↓↓↓

サンスクリット（４時間コース）(語学)(2)

[成績評価の方法・観点]

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.
Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

[教科書]

Edward Perry 『A Sanskrit Primer』（Orient Book Distributors, 1986）ISBN:978-8120802070（both English and Japanese version will be used）
Antonia Ruppel 『Cambridge Introduction to Sanskrit』（Cambridge University Press, 2017）ISBN:978-1107459069（https://www.cambridge-sanskrit.org）
Manfred Mayrhofer 『Sanskrit-Grammatik mit sprachvergleichenden Erlauterungen』（de Gruyter, 1978）ISBN:978-3110071771
The books by Perry and Ruppel can be purchased at the department room of Indological Study.

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連ＵＲＬ）

https://www.sanskrit-lexicon.uni-koeln.de/scans/MWScan/2014/web/webtc2/index.php(Sanskrit-English Dictionary)
https://www.sanskrit-lexicon.uni-koeln.de/scans/AEScan/2014/web/webtc/indexcaller.php (English-Sanskrit Dictionary)
https://vedaweb.uni-koeln.de/rigveda/view/id/2.1.1(Rigveda explained)
http://dsal.uchicago.edu/dictionaries/(Dictionaries of Indian languages)
http://www.indoskript.org/letters (Scripts)

[授業外学修（予習・復習）等]

Homework involves preparing translations from Sanskrit into English. Weekly review of grammatical categories and memorization of vocabulary. The expected preparation time is approximately two to three hours per week.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目5

科目ナンバリング	G-LET49 89633 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ヒンディー語（初級）(語学) Hindi					担当者所属・職名・氏名	白眉センター 特定助教 虫賀　幹華				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	金4,5	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ヒンディー語（初級）										

[授業の概要・目的]

インドは多言語国家であり、それぞれの州で公用語が定められている。その中でヒンディー語は、憲法第343条でインド全体の唯一の公用語とされている。中国語、英語に次いで世界で3番目に多く話されている言語であり、第一言語でなくともヒンディー語を解する人や、文法や基本語彙が同じ、パキスタンの国語であるウルドゥー語話者までを含めると、ヒンディー語でコミュニケーションを取れる相手は膨大な数になる。本授業では、今後世界の中でますます存在感を増すインドの公用語であるヒンディー語の初等文法を学び、簡単な文章の講読や会話の練習をする。
講師は北インドでの5年間の留学経験がある。ヒンディー語の独特の言い回しや語彙、ヒンディー語ならではの思考方法、文章の組み立て方があると実感した。日本語で考えてそれを「翻訳」するのでは全くしっくりこない。インドでは英語が通じると言われるが、英語を媒介にして行われるコミュニケーションはヒンディーで行われるそれとは別物である。インド人と深い意思疎通をしたいのならば、ヒンディー語を知ることが近道だろう。そして嬉しいことに、ヒンディー語を学べば「インド英語」も断然聞き取りやすくなる。インドや南アジアについて知りたい・関わりたい人はもちろん、将来国際的に活躍したい人にぜひ受講してもらいたい。今後、世界中のどこにいてもインド人と出会うだろうから。

[到達目標]

1. ヒンディー語の初等文法を習得する。
2. ヒンディー語の文章を、辞書を引きながら自力で読めるようになる。
3. 簡単なヒンディー会話ができるようになる。
4. ヒンディー語を通してインドの文化に触れ、世界認識の幅を広げる。

[授業計画と内容]

全20課から成る教科書を、原則として1課ずつ進めていく。各課は、新出単語、文法事項、文章から成り、それぞれを丁寧に解説する。他の参考書を使って補足説明をすることもある。毎回宿題を課し、次回授業で答え合わせをする。
教科書が一通り終われば、新聞や物語などヒンディー語の文章を読んだり、ヒンディー会話に挑戦してもらう。教材は、履修者の希望に応じて決める。例えば、ボリウッド映画に関心があれば映画の挿入歌を翻訳したり、インド料理に関心があればレシピを読解する。インドの社会問題に興味を持っているのならば関連の新聞記事を読む。インド旅行を計画している人がいればテーマを設定して会話の練習をする。

※注意※
前期は、講師の都合で1日に2コマ連続（金曜４・５限）で授業を行い、6月9日に試験とフィードバック（15回目授業）を行う。後期は通常通りで、毎週金曜5限に授業を行う。

前期
1. イントロダクション、文字

ヒンディー語（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

ヒンディー語（初級）(語学)(2)

2~3. 文字と発音
4~14. 文法の解説と文章の講読を教科書に沿って進める
＜前期・期末試験＞
15. フィードバック

後期
1~10. 文法の解説と文章の講読を教科書に沿って進める
11~14. ヒンディー語文章講読や会話の練習
＜後期・期末試験＞
15. フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（40%）と2回の筆記試験（30%ずつ）で評価する。授業への積極的な参加を期待する。

[教科書]

田中敏雄・町田和彦 『エクスプレス　ヒンディー語』（白水社、1986年）ISBN:4-560-00768-3（絶版のため入手困難。授業で配布する。）

[参考書等]

（参考書）
古賀勝朗・高橋明 『ヒンディー語＝日本語辞典』（大修館書店、2006年）ISBN:978-4-469-01275-0（履修前に辞書を購入する必要はない。）
町田和彦 『ニューエクスプレス　ヒンディー語』（白水社、2008年）ISBN:978-4-560-06791-8
Snell, Rupert and Simon Weightman 『Teach Yourself, Complete Hindi』（London: Hodder Education, 1989）ISBN:978-1-444-10609-1

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回課される宿題をきちんと行う。授業を受け、復習して宿題を行い、次回授業で答え合わせというサイクルで学習を進めること。ヒンディー語に限らず、インドの話題に関心を持ち、授業で共有してもらえると嬉しい。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目6

科目ナンバリング	G-LET49 89659 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ヒンディー語（中級）I Hindi					担当者所属・職名・氏名	大阪大学言語文化研究科　講師 西岡　美樹				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火3	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ヒンディー語中級I										

[授業の概要・目的]

本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。

[到達目標]

1. 複雑な文章を精読できるようになる。
2. 日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。
3. 自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。
4. 単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。

[授業計画と内容]

本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。

第 1～ 5週目：アクバルとビールバル、パンチャタントラ、小話ほか
第 6～10週目：インド神話関連の物語
第11～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（マハーバーラタ、カター・サーガルなど）

なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。
また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。

[履修要件]

・語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。
・ヒンディー語初級文法を一通り（目安は下記URLの『初級ヒンディー語文型練習帳』の第1課－第15課の文法項目）習得していること。
・毎年、初級ヒンディー語の進度が全20課中11課あたりで終了しているが、本授業で未習の初級の文法項目については改めて説明しないので、受講する場合はその旨留意すること。

[成績評価の方法・観点]

授業への積極的な参加（40%）
期末試験あるいはレポート（60%）

ヒンディー語（中級）I(2)へ続く↓↓↓

ヒンディー語（中級）I(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連ＵＲＬ）

https://www.youtube.com/channel/UCsyoNsqE37tZIkuvqVPTa7g(Hindi Fairy Tales)
https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ(Hindi Aacharya)
https://www.youtube.com/channel/UCR22sCPCRx3J9nfCUV4htGw(Akbar Birbal Stories)
https://www.youtube.com/channel/UCVP73_P70GlqgG618HNX8qg(Panchatantra Stories in Hindi)
https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzlO0B-ltIZoCg(Gyan Manthan)
http://www.jansatta.com/(Jansatta（インドのヒンディー語新聞）)
http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/(Nav Bharat Times（インドのヒンディー語新聞）)
https://www.youtube.com/user/abpnewstv(ABP NEWS（インドのニュース・報道専門番組）)
http://khabar.ndtv.com/(NDTV （インドのニュース・報道専門番組）)
https://www.youtube.com/user/aajtaktv(Aaj Tak（インドのヒンディー語 新聞）)
https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtwcyHcFJyyMfw(Doordarshan National)
https://publication.aa-ken.jp/(西岡美樹（2017）『現代ヒンディー語文法概説　初級～初中級編』、『初級ヒンディー語文型練習帳』)
https://flipgrid.com/(FLIPGRID（教育用Video SNSサービス）)
https://www.bookwidgets.com/(BookWidgets（復習用オンライン・アプリケーション）)

[授業外学修（予習・復習）等]

・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

（その他（オフィスアワー等））

今年度の本授業は中上級レベルの予定である。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目7

科目ナンバリング	G-LET49 89660 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ヒンディー語（中級）II Hindi					担当者所属・職名・氏名	大阪大学言語文化研究科　講師 西岡　美樹				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火3	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ヒンディー語中級 II										

[授業の概要・目的]

本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。

[到達目標]

1. 複雑な文章を精読できるようになる。
2. 日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。
3. 自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。
4. 単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。

[授業計画と内容]

本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。

第 1～ 5週目：現代の短篇小説、ヒンディー語映画の詩歌
第 6～10週目：新聞記事、TVニュース
第11～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（マハーバーラタ、カター・サーガルなど)

なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。
また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。

[履修要件]

・語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。
・ヒンディー語初級文法を一通り（目安は下記URLの『初級ヒンディー語文型練習帳』の第1課－第15課の文法項目）習得していること。
・毎年、初級ヒンディー語の進度が全20課中11課あたりで終了しているが、本授業で未習の初級の文法項目については改めて説明しないので、受講する場合はその旨留意すること。

[成績評価の方法・観点]

授業への積極的な参加（40%）
期末試験あるいはレポート（60%）

ヒンディー語（中級）II(2)へ続く↓↓↓

ヒンディー語（中級）II(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

（関連ＵＲＬ）

https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ(Hindi Aacharya)
https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR_Vw(Indian Stories For Kids)
https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzlO0B-ltIZoCg(Gyan Manthan)
https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtwcyHcFJyyMfw(Doordarshan National)
https://www.youtube.com/user/abpnewstv(ABP NEWS（インドのニュース・報道専門番組）)
http://khabar.ndtv.com/(NDTV （インドのニュース・報道専門番組）)
https://www.youtube.com/user/aajtaktv(Aaj Tak（インドのニュース・報道専門番組）)
http://www.jansatta.com/(Jansatta （インドのヒンディー語新聞）)
http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/(Nav Bharat Times （インドのヒンディー語新聞）)
https://publication.aa-ken.jp(西岡美樹（2017）『現代ヒンディー語文法概説　初級～初中級編』、『初級ヒンディー語文型練習帳』)
https://flipgrid.com/(FLIPGRID（教育用Video SNSサービス）)
https://www.bookwidgets.com/(BookWidgets（復習用オンライン・アプリケーション）)

[授業外学修（予習・復習）等]

・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

（その他（オフィスアワー等））

今年度の本授業は中上級レベルの予定である。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目8

科目ナンバリング	G-LET49 89628 LJ48										
授業科目名 <英訳>	チベット語（初級）(語学) Tibetan					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　宮崎　泉				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水1	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	チベット語初級										

[授業の概要・目的]

この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。

チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。

1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。

[到達目標]

前期はチベット文字およびその読み方を習得し、チベット語の名詞の構造、文での使い方を理解する。

[授業計画と内容]

授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。

1. イントロダクション（1週）
2. 文字と発音（4週）
3. 名詞（4週）
4. 形容詞（1週）
5. 助動詞（3週）
6. まとめ（1週）
7. フィードバック（1週）

「概要・目的」欄に書いたように、日本語話者にとってチベット語はとくに難しい言語ではない。授業は、文字の習得から始め、日本語と異なる特徴を示す点についてはできる限り丁寧に説明を加えながら、段階的に文法の複雑なレベルに進む。

受講生は、理解できない点を積極的に質問することが期待される。

チベット語（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

チベット語（初級）(語学)(2)

[履修要件]

特にないが、後期のチベット語（初級）をあわせて受講することが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

成績は、平常点（100%）によって評価する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目9

科目ナンバリング	G-LET49 89629 LJ48										
授業科目名 <英訳>	チベット語（初級）(語学) Tibetan					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　宮崎　泉				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水1	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	チベット語初級										

[授業の概要・目的]

この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。

チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。

1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。

[到達目標]

後期は動詞の屈折を中心として学び、文の構造を理解する。

[授業計画と内容]

前期のチベット語（初級）に引き続き、チベット語初級文法を解説する。授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。

1. 動詞（5週）
2. 複文他（5週）
3. チベット語テキスト演習（4週）
4. フィードバック（1週）

基本的な文法の解説を終えた後は、性格の異なる短い文章をできる限り読み、実践的なチベット語の習得を目指す。

[履修要件]

前期のチベット語（初級）を受講していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

成績は、平常点（100%）によって評価する。

チベット語（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

チベット語（初級）(語学)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目10

科目ナンバリング	G-LET49 89630 LJ48										
授業科目名 <英訳>	チベット語（中級）(語学) Tibetan					担当者所属・職名・氏名	愛知県立大学　外国語学部　教授 高橋　慶治				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月1	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	チベット語（中級）										

[授業の概要・目的]

この授業では、チベット語初級を終えた学生が次の課題として取り組みうる程度の現代チベット語の物語を読む。現代チベット語の読み物を通して中級レベルのチベット語を学ぶ。また、チベット語の読解を通じて、初級文法の復習を行う。

[到達目標]

チベット語文法に対する理解を深め、現代チベット語を読解する能力を習得することを目的とする。

[授業計画と内容]

この授業で使用するテキストは、中国から出版された笑い話集である。同書は、比較的短い物語を集めており、文法的にも容易で読みやすい。同時に、チベット人が持つユーモアや皮肉を含んでおり、たんに文法を学ぶだけではなく、その精神世界の一部をかいま見ることができよう。

前期の授業は、テキストを丁寧に読みながら、文法事項を確認することで進められる。テキストは毎回1-2話ずつのペースで読む予定である。受講生は、内容を把握するだけではなく、文法事項についても理解することが求められる。助詞や助動詞の用法、また動詞の形態変化などの理解を深めることが目標の一つである。

第1回 イントロダクション
第2〜14回 チベット語テキストの輪読
第15回 フィードバック

[履修要件]

チベット語初級文法を終えていること。後期のチベット語（中級）をあわせて受講することが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（担当個所について十分に予習しているかどうか、また非担当個所についての担当者への質問など）。必要に応じて、学期末に試験を行うか、レポートの提出を求めることがある。

[教科書]

テキストは、プリントとして配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

チベット語（中級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

チベット語（中級）(語学)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

担当箇所について、十分に予習するとともに、担当箇所以外も予習をして内容についての議論に参加できるようにすること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目11

科目ナンバリング	G-LET49 89630 LJ48										
授業科目名 <英訳>	チベット語（中級）(語学) Tibetan					担当者所属・職名・氏名	愛知県立大学　外国語学部　教授 高橋　慶治				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月1	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	チベット語（中級）										

[授業の概要・目的]

この授業では、チベット語初級を終えた学生が次の課題として取り組みうる程度の現代チベット語の物語を読む。現代チベット語の読み物を通して中級レベルのチベット語を学ぶ。また、チベット語の読解を通じて、初級文法の復習を行う。

[到達目標]

チベット語文法に対する理解を深め、現代チベット語を読解する能力を習得することを目的とする。

[授業計画と内容]

この授業で使用するテキストは、中国から出版された笑い話集である。同書は、比較的短い物語を集めており、文法的にも容易で読みやすい。同時に、チベット人が持つユーモアや皮肉を含んでおり、たんに文法を学ぶだけではなく、その精神世界の一部をかいま見ることができよう。

後期の授業は、テキストを丁寧に読みつつ、前期よりもペースを上げて読む予定である。受講生は、文法事項を正確に把握しつつ、内容をより深く理解することが求められる。

第1回 イントロダクション
第2〜14回 チベット語テキストの輪読
第15回 フィードバック

[履修要件]

チベット語初級文法を終えていること。後期のチベット語（中級）をあわせて受講することが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（担当個所について十分に予習しているかどうか、また非担当個所についての担当者への質問など）。必要に応じて、学期末に試験を行うか、レポートの提出を求めることがある。

[教科書]

テキストは、プリントとして配布する。

チベット語（中級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

チベット語（中級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

担当箇所について、十分に予習するとともに、担当箇所以外も予習をして内容についての議論に参加できるようにすること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 69661 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ポーランド語（初級I） Polishnbsp (Lectures)nbsp					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木4	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ポーランド語初級 I										

[授業の概要・目的]

ポーランド語の初級文法を習得する。

[到達目標]

ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。
前期では、名詞と動詞の活用を学ぶとともに、ポーランド語になれていきます。一年間で『ニューエクスプレス　ポーランド語＋』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、前期ではその前半分を学習します。
期末に映画も鑑賞し、ポーランドの文化に触れます。

[授業計画と内容]

１．ポーランド語の基礎知識（文字、アクセント、語尾変化、発音など）【１週】
２．基本的な構文、格の基礎知識、名詞の主格、挨拶や自己紹介に関する語彙【１週】
３．基本動詞bycの変化、名詞の性の見極め方と性による形容詞の変化【１週】
４．ここまでの内容の確認と練習【１週】
５．名詞と形容詞の単数複数造格、日本語の「～である」に相当する主格と造格の使い分け【１週】
６．名詞の単数生格、panとpaniの用法【１週】
７．名詞と形容詞の複数主格、「あなたがた、皆さん」の言い方【１週】
８．ここまでの総復習、基本的な構文や語彙の確認【１週】
９．名詞の単数複数対格、動詞の第１変化（-m,-sz型）【１週】
１０．動詞の第２変化（-e,-isz型）、名詞の単数複数与格、「知っている」に当たる表現【１週】
１１．動詞の第３変化（-e,-esz型）、現在形の動詞変化のまとめ、名詞の単数複数前置格【１週】
１２．sie動詞、ktoとcoの格変化、名詞の複数生格、数量を表す言葉【１週】
１３．前期の総復習、格の使い分けや、基本的な構文の確認、語彙の復習【１週】
１４．映画を鑑賞し、ポーランドの文化に触れる 【１週】
１５．定期試験【１週】
１６．フィードバック【１週】

[履修要件]

特になし

ポーランド語（初級I）(2)へ続く↓↓↓

ポーランド語（初級I）(2)

[成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

[教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス　ポーランド語＋』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4
2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス＋（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス　ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス　ポーランド語』を使っても問題ありません。
授業中にプリントも配布します。

[参考書等]

（参考書）
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正［編］　『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 69662 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ポーランド語（初級I） Polish (Lectures)					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木4	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ポーランド語初級 I										

[授業の概要・目的]

ポーランド語の初級文法を習得する。

[到達目標]

ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。
後期では、動詞の時制や、ポーランド語における様々な構文を学びます。一年間で『ニューエクスプレス　ポーランド語＋』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、後期ではその後半分を学習
します。
期末に映画の鑑賞などをして、ポーランドの文化に触れます。

[授業計画と内容]

１．否定生格という現象、呼格、基本的な助動詞の使い方【１週】
２．動詞の過去形、非人称文の過去時制、人称代名詞と再帰代名詞の格変化【１週】
３．動詞bycと一般動詞の合成未来形、時刻に関する表現、非人称文の未来時制、nie maの過去形と未来形【１週】
４．動詞のアスペクト、命令法、数詞と名詞の総合規則【１週】
５．命令法の続き、仮定法、miecの助動詞的な用法【１週】
６．移動の動詞isc/chodzic, jechac/jezdzicの用法、場所と移動の起点を表す前置詞【１週】
７．関係代名詞ktoryの用法【１週】
８．ここまでの総復習、動詞の時制などの学習内容の確認【１週】
９．仮定法の用法の続き、関係副詞による複文の作り方、能動形容分詞、非人称動詞【１週】
１０．sieによる非人称構文、形容詞と副詞の比較変化【１週】
１１．副分詞の作り方と用法、受動形容分詞と受動構文【１週】
１２．非人称能動過去形と完了体動詞の副分詞、年月日の言い方【１週】
１３．一年間の総復習、分かりにくかった点などを確認する【１週】
１４．ポーランドの文化に触れる 【１週】
１５．定期試験【１週】
１６．フィードバック【１週】

[履修要件]

前期のポーランド語（初級I）の受講など、ポーランド語の基礎知識が要求されます。

ポーランド語（初級I）(2)へ続く↓↓↓

ポーランド語（初級I）(2)

[成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

[教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス　ポーランド語＋』（白水社）ISBN:978-4-560-08849-4
2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス＋（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス　ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス　ポーランド語』を使っても問題ありません。
授業中にプリントも配布します。

[参考書等]

（参考書）
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正［編］ 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 89642 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ポーランド語（中級II）(語学) Polish					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木5	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ポーランド語中級II										

[授業の概要・目的]

初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。

[到達目標]

この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。

[授業計画と内容]

受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。
テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。

授業計画：
１．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【１週】
２．テキストI－翻訳と解説【３週間】
３．テキストII－翻訳と解説【３週間】
４．テキストIII－翻訳と解説【３週間】
５．テキストIV－翻訳と解説【３週間】
６．総復習とまとめ【１週】
７．定期試験【１週】
８．フィードバック【1週】

[履修要件]

ポーランド語の文法の基礎知識、１年間以上の学習歴が要求されます。

[成績評価の方法・観点]

基本的に定期試験（筆記）（90%）での評価となります。授業へのぞむ姿勢（10%）も考慮します。
定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。

[教科書]

授業中に受講生と話し合って決めた資料を用意し配布します。

[参考書等]

（参考書）
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正［編］『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

ポーランド語（中級II）(語学)(2)へ続く↓↓↓

ポーランド語（中級II）(語学)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目15

科目ナンバリング	G-LET49 89642 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ポーランド語（中級II）(語学) Polish					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木5	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ポーランド語中級II										

[授業の概要・目的]

初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。

[到達目標]

この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。

[授業計画と内容]

受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。
テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。

授業計画：
１．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【１週】
２．テキストI－翻訳と解説【３週間】
３．テキストII－翻訳と解説【３週間】
４．テキストIII－翻訳と解説【３週間】
５．テキストIV－翻訳と解説【３週間】
６．総復習とまとめ【1週】
７．定期試験【1週】
８．フィードバック【1週】

[履修要件]

ポーランド語の文法の基礎知識、１年間以上の学習歴が要求されます。

[成績評価の方法・観点]

基本的に定期試験（筆記）（90%）での評価となります。授業へのぞむ姿勢（10%）も考慮します。
定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。

[教科書]

授業中に受講生と話し合って決めた資料を用意し配布します。

[参考書等]

（参考書）
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正［編］『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

ポーランド語（中級II）(語学)(2)へ続く↓↓↓

ポーランド語（中級II）(語学)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 69646 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ロシア語（初級） Russian I					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 田中　大				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水2	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ロシア語の基礎 I										

[授業の概要・目的]

ロシア語やロシア文化に関心のある学生を対象として、ロシア語を一から勉強していきます。日本ではあまりなじみのない文字の書き方と発音から始めて、意外に日本語との類推が利く基本的な文法と構文、語彙を学習していきます。

[到達目標]

１）ロシア語で使用されているキリル文字とその発音を習得する。
２）ロシア語の基礎的な文法を習得する。

[授業計画と内容]

授業は配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。
序：文字と発音
第1課　「これはナターシャです」：平叙文
第2課　「私はナターシャではありません」：人称代名詞・疑問文・否定文
第3課　「これは私のスーツケースです」：所有代名詞・指示代名詞
第4課　「あそこに古い写真があります」：形容詞と名詞の性
第5課　「雑誌を読んでいます」：動詞現在形第1変化
第6課　「日本語を話します」：動詞現在形第2変化・複数形
第7課　「彼女はどこに住んでいるのですか」：不規則動詞と前置格
第8課　「電話を持っていますか」：所有の表現・命令形
第9課　「音楽を聴いているのですか」：不規則動詞と対格
第10課　「小包を送りたい」：運動の動詞と行先の表現
第11課　「日本文学を勉強していました」：動詞の過去形
第12課　「家にいました」：様々な過去時制
第13課　「今晩はお客が来ます」：動詞の未来形・不規則動詞
第14課　「カサがありません」：生格の用法

フィードバックについては授業中に指示します。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点30%、試験70%で評価します。

[教科書]

プリントを配付します。

ロシア語（初級）　(2)へ続く↓↓↓

ロシア語（初級） (2)

[参考書等]

（参考書）
開講時および授業中に紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

（その他（オフィスアワー等））

詳細は開講時に指示します。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 69647 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ロシア語（中級） Russian II					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 田中　大				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水2	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ロシア語の基礎Ⅱ										

[授業の概要・目的]

ロシア語の初級を前年度に履修したか、それと同程度の基礎運用能力を習得している学生を対象として、ロシア語の基本文法の完成をめざします。

[到達目標]

１）ロシア語の基礎文法を完成させる。
２）辞書を引けば、平易なロシア語を読めるようになる。

[授業計画と内容]

授業は、前年度初級に引き続き、配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。（第1回～第6回）
第15課　「夫にプレゼントを買いたいのです」：与格の表現
第16課　「紅茶は普通ミルクを入れて飲みます」：造格の表現
第17課　「日本料理店でアントンを見かけました」：活動体名詞の対格・形容詞の格変化
第18課　「それがアントンでないとどうして分かるのですか？」：動詞の完了体と不完了体
第19課　「捨てるのなら手伝います」：時制のまとめ・助動詞的用法
第20課　「もし私が鳥だったら」：仮定法

その後、ロシア語の文章を読むのに必要な文法事項をさらに学びます。（第7回～12回）
・関係詞　・副動詞　・形動詞　・被動相

文法事項の確認を兼ねて、平易なロシア語の文章を読みます。（第13回～第14回）

第15回　まとめ

フィードバックについては授業中に指示します。

[履修要件]

ロシア語（初級）を前年度に履修したか、それと同程度のロシア語能力を有していること。

[成績評価の方法・観点]

平常点30%、試験70%で評価します。

ロシア語（中級）　(2)へ続く↓↓↓

ロシア語（中級） (2)

[教科書]

プリントを配付します。

[参考書等]

（参考書）
開講時および授業中に紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

（その他（オフィスアワー等））

詳細は開講時に指示します。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 89604 LJ48										
授業科目名 <英訳>	アラブ語（初級）(語学) Arabic					担当者所属・職名・氏名	国立民族学博物館 グローバル現象研究部 教授 西尾　哲夫				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	木3	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	アラビア語の初級										

[授業の概要・目的]

アラビア語は、西はモロッコから東はイラクまでの中東・北アフリカ諸国で使われており、およそ一億五千万人の母語となっている。またイスラム教（イスラーム）の聖典『コーラン（クルアーン）』はアラビア語で書かれているため、南アジア・東南アジア・中国などのムスリム（イスラム教徒）もアラビア語の知識をもっている。
この授業では、アラビア語の文字の書き方からはじめ、初級程度の文法事項をおしえる。

[到達目標]

アラビア文字が読めて書けるようになる。また基本的単語については、弱子音を語根に含む単語についてアラビア語の辞書が引けるようになる。基本的な文章表現について読む・書く・話すができるようになる。

[授業計画と内容]

（１）アラビア語についての概説（１回目）
（２）アラビア語学習法の概説（１回目）
（３）アラビア文字（２回目から５回目）
（４）名詞（３回目）
（５）冠詞（４回目）
（６）名詞の格変化（５回目）
（７）規則複数（６回目）
（８）形容詞の用法（７回目）
（９）疑問文（８回目）
（１０）場所の前置詞（９回目）
（１１）これまでの復習（１０回目）
（１２）存在文（１１回目）
（１３）国名とニスバ形容詞（１２回目）
（１４）数字の書き方と１～１０までの数詞（１３回目）
（１５）不規則複数（１）（１４回目）
（１６）色の表現（１５回目）
（１７）動詞完了形（１６回目）
（１８）辞書の引き方（１７回目）
（１９）不規則複数（２）（１８回目）
（２０）１１～１００までの数詞（１９回目）
（２１）これまでの復習（２０回目）
（２２）曜日の表現（２１回目）
（２３）動詞未完了形（２２回目）
（２４）名詞文と動詞文（語順）（２３回目）

アラブ語（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

アラブ語（初級）(語学)(2)

（２５）時間表現（２４回目）
（２６）比較表現（２５回目）
（２７）弱動詞（２６回目）
（２８）動詞派生形（１）（２７回目）
（２９）未来表現（２８回目）
（３０）動詞派生形（２）（２９回目）
（３１）これまでの復習と今後の学習方法（３０回目）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点で評価する。出席を重視し、欠席が多い場合には単位を認めない。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
西尾哲夫 『言葉から文化を読む―アラビアンナイトの言語世界』（臨川書店）（とくに現代アラブ世界の言語状況についてふれた第１章）
西尾哲夫・東長靖 『中東・イスラーム世界への３０の扉』（ミネルヴァ書店）（中東・イスラーム世界の理解のために必読）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業毎に指示する。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 89608 LJ48										
授業科目名 <英訳>	イラン語（初級）(語学) Iranian					担当者所属・職名・氏名	京都外国語大学 外国語学部 非常勤講師 杉山　雅樹				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	金2	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	イラン語（初級）										

[授業の概要・目的]

この授業の目的は、現在イランの公用語であるペルシア語（新ペルシア語）の基本文法や基礎単語を修得し、ペルシア語の古典文を読解するための基礎的な能力を獲得することである。

[到達目標]

基本的なペルシア語の文法規則・単語を習得することにより、平易な文章であれば自分で辞書を使用しつつ読むことができるようになる。また、ペルシア語による現代文と古典文との表現や文法的な違いを理解し、ペルシア語で書かれた歴史史料を読むための基礎的な能力を獲得する。

[授業計画と内容]

（前期）
第1回　イントロダクション、文字
第2回　発音と表記の注意点
第3回　名詞、基本的な文章、疑問詞
第4回　形容詞、エザーフェ、人称代名詞①
第5回　過去形、前置詞
第6回　現在形①、複合動詞①
第7回　現在形②、未来形、副詞①
第8回　現在完了形、命令形
第9回　仮説法、助動詞①
第10回　助動詞②、人称代名詞②、受動態
第11回　接続詞①②
第12回　関係詞、祈願文、副詞②
第13回　接続詞③、複合動詞②、過去分詞、現在分詞、その他
第14回　数詞
第15回　確認テスト、前期のまとめ、後期のテキストや予習の仕方について
（後期）
第16～18回　現代文（物語）の読解（1）～（3）
第19～21回　現代文（イランの教科書）の読解（1）～（3）
第22～29回　古典文（歴史史料）の読解（1）～（8）
第30回　フィードバック（詳細については授業内で指示する）

前期は、文字の読み方や書き方を練習しつつ、基本的な文法や単語を学ぶ。
後期は、まずイランの物語や教科書など現代のペルシア語で書かれたものを扱い、ペルシア語の文章を読むことに慣れておく。その後、前近代に書かれたペルシア語の歴史史料の中から比較的読み易い作品をテキストとして採り上げ、古典文を読むための基本的な能力を身に付ける。
原則として、前期の文法の授業では毎回復習のための小テストを行う。

イラン語（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

イラン語（初級）(語学)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価（前期と後期の合計で100点）
前期（基礎文法）：小テスト（25点）、確認テスト（25点）
後期（テキスト読解）：予習の取り組み（50点）

※各期で5回以上欠席した場合には、単位を認めない。

[教科書]

前期は文法事項をまとめたレジュメを毎回配布する。後期は講読するテキストのコピーをある程度まとめて事前に配布する。

[参考書等]

（参考書）
特に後期の授業では、黒柳恒男『新ペルシア語大辞典』(大学書林)などペルシア語辞書を用いて予習する必要がある。
その他の辞書や文法書など参考文献については、授業内で指示する。

[授業外学修（予習・復習）等]

文字の書き方、基本文法、基礎単語の修得が中心となる前期においては、毎授業後十分に復習をし、次の授業の冒頭に行われる小テストに備えること。
実際のテキストを使用して講読を行う後期においては、各自辞書で単語を調べて訳文を作成しておくなど、毎回時間をかけて予習することが必須である。

（その他（オフィスアワー等））

質問等があれば、sugiyama.masaki.25z@st.kyoto-u.ac.jpにご連絡下さい。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 89620 LJ48										
授業科目名 <英訳>	シュメール語（初級）(語学) Sumerian					担当者所属・職名・氏名	国士舘大学イラク古代文化研究所 特別研究員 森　若葉				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	金1	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	シュメール語文法と楔形文字書記体系のしくみ、楔形文字文献の講読および内容の紹介										

[授業の概要・目的]

古代メソポタミア文明で話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末からおよそ三千年間にわたって数多くの資料を残す楔形文字言語である。

この言語は、複雑な動詞組織をもち、系統関係が不明な膠着語であることが知られている。本授業は、楔形文字で記されるシュメール語の文法と楔形文字文献について学ぶことを目的とする。

文法の解説とともに、最古の文字である楔形文字の成立としくみ、および系統不明の古代語であるシュメール語ほか楔形文字言語の解読についてもふれる。

比較的簡単なシュメール語資料の講読を行い、適宜、そのほかの資料についても内容の紹介をおこなう。死語となってのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点などもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキストを予定しているが、受講学生と相談し変更することもある。

[到達目標]

世界最古の文字で、その後三千年間古代メソポタミア世界の様々な言語を書き記した楔形文字の書記体系、およびシュメール語の基本的文法構造を理解する.

また、楔形文字で記されたシュメール語のさまざまな文献を実際に講読し、その内容を知ることにより、シュメール語文法と楔形文字についての知識を深める。

[授業計画と内容]

基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいや受講学生の希望に応じ、順序やテーマは変更されうる。

＜前期＞楔形文字およびシュメール語文法の概説とともに、簡単な資料の講読を行う。粘土板および円筒印章を作成する実習を行う。

第1回　シュメール語の背景－メソポタミア文明の世界について
第2回　シュメール語と楔形文字について
第3回　楔形文字の解読と楔形文字で書かれた諸言語について（第3回）
第4回　楔形文字の成立としくみについて（第4-5回）
第5回　シュメール語文法（１）、楔形文字文献について
第6回　シュメール語文法（２）、王碑文を読む
第7回　シュメール語文法（３）、王碑文を読む
第8回　シュメール語文法（４）、行政文書を読む
第9回　楔形文字粘土板実習－粘土板を作成
第10回　シュメール語文法（５）、行政文書を読む
第11回　シュメール文学について
第12回　シュメール文学作品を読む（１）
第13回　シュメール・メソポタミアの「法典」紹介
第14回　裁判文書、行政文書を読む
第15回　シュメール文学作品を読む（２）

シュメール語（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

シュメール語（初級）(語学)(2)

＜後期＞
　文法概説と並行して下記文献の講読、資料の紹介を進めていく。総合博物館の許可のもと、博物館が所蔵する楔形文字粘土板の見学実習を行う予定である。
第1回　文献から見るシュメールの生活
第2回　シュメール語文法（６）、行政文書を読む
第3回　シュメール語文法（７）、行政文書を読む
第4回　シュメール語文法（８）、行政文書を読む
第5回　シュメール文学作品を読む（３）
第6回　シュメール語文法（９）、行政文書を読む
第7回　シュメール語文法・語彙文書概説、王碑文を読む
第8回　京都大学総合博物館所蔵資料紹介
第9回　京都大学総合博物館所蔵資料を読む
第10回　京都大学総合博物館粘土板見学実習
第11回　シュメール文学作品を読む（４）
第12回　シュメール文学作品を読む（５）
第13回　行政文書、王碑文を読む
第14回　行政文書、王碑文を読む
第15回　まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（講読の状況・授業中の発言）[20%]および学年末レポート（シュメール語文献の翻字・翻訳）[80%]を予定.

[教科書]

使用しない
　授業時に資料およびテキストのコピーを配布する.
　楔形文字粘土板実習の際、粘土等を各自用意してもらう必要がある。

[参考書等]

　（参考書）
授業中に紹介する
　授業時に資料およびテキストのコピーを配布する.

[授業外学修（予習・復習）等]

　事前に授業中に配布する資料に目を通してもらうことがある。また、文献講読については、授業前にシュメール語テキストの文字や単語について調べてきてもらうことがある。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

シュメール語（初級）(語学)(3)へ続く↓↓↓

シュメール語（初級）(語学)(3)

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目21

科目ナンバリング	G-LET49 89624 LJ48										
授業科目名 <英訳>	スワヒリ語（初級）(語学) Swahili					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 井戸根　綾子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火3	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	スワヒリ語（初級）										

[授業の概要・目的]

バンツー諸語に属すスワヒリ語はタンザニアやケニアなど東アフリカを代表する共通語である。バンツー諸語の特徴である名詞クラスなどのスワヒリ語の標準文法、語彙、文型に加えて実際の会話表現も学ぶことで、基本的な文法事項の習得と日常的な会話の理解をめざす。テキストを用いた会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行うことで、自分で文を組み立てる能力を身につける。またテキストの会話表現には、衣食住の生活習慣など文化的あるいは社会的な事柄が多く含まれる。その背景について授業中に説明を加えることで、言語だけでなくその地域の文化やものの考え方に関しても知識を深める。関連する実物や画像、映像は授業中に紹介される。

[到達目標]

１：スワヒリ語の名詞クラスと基本文型を理解する
２：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てることができる
３：短い日常会話の流れを把握できる
４：東アフリカの文化やものの考え方に関する知識を深める

[授業計画と内容]

第1回　イントロダクション／スワヒリ語文法の概要
第2回　第1課／現在時制
第3回　第2課／コピュラ文
第4回　第4課／所有表現
第5回　第5課／未来時制
第6回　名詞クラス
第7回　第3課／存在表現
第8回　第1～5課の復習と補足説明
第9回　第6課／あいさつ表現
第10回　第7課／過去時制
第11回　第8課／完了時制
第12回　第9課／形容詞
第13回　第10課／接続形
第14回　第6～10課の復習と補足説明
第15回　期末試験
第16回　フィードバック
なお、授業の進度は適宜調整する

スワヒリ語（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

スワヒリ語（初級）(語学)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

予習・復習・課題の提出など授業への参加状況（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

[教科書]

竹村景子 『ニューエクスプレス+　スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。各レッスンのスキットについては、予め付属のＣＤを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。
課題の提出を求められる場合がある。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 89625 LJ48										
授業科目名 <英訳>	スワヒリ語（中級）(語学) Swahili					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 井戸根　綾子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火3	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	スワヒリ語（中級）										

[授業の概要・目的]

テキストはスワヒリ語初級と同じものを引き続き使用し、会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行う。スワヒリ語初級で習得した内容を再確認しながら、さらなる文法事項や新たな語彙・慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力と基礎的な表現力の習得をめざす。テキストの基本的な表現に基づいた応用練習を行うことで、スワヒリ語を用いて自ら表現する技能を習得することができる。スワヒリ語独特の表現をより理解するためにその文化的背景についても説明し、関連する実物や画像、映像を紹介する。これにより東アフリカの言語だけでなく文化やものの考え方についての知識も深める。

[到達目標]

１：スワヒリ語の基本文法を総合的に理解する
２：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てて話すことができる
３：短い日常会話の流れ全体を把握して、その内容を要約できる
４：東アフリカの文化やものの考え方に関する知識を深める

[授業計画と内容]

第1回　イントロダクション／第1～10課の復習
第2回　第11課／時間
第3回　第12課／指示詞
第4回　第13課／使役
第5回　第14課／条件節
第6回　関係節
第7回　第15課／受身
第8回　第11～15課の復習と補足説明
第9回　第16課／相互形
第10回　第17課／仮想時制
第11回　第18課／複合時制
第12回　第19課／ことわざ・なぞなぞ
第13回　第20課／手紙の書き方
第14回　第16～20課の復習と補足説明
第15回　期末試験
第16回　フィードバック
なお、授業の進度は適宜調整する

スワヒリ語（中級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

スワヒリ語（中級）(語学)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

予習・復習・課題の提出など授業への参加状況（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。 なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

[教科書]

竹村景子 『ニューエクスプレス+　スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。各レッスンのスキットについては、予め付属のＣＤを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。
課題の提出を求められる場合がある。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目23

科目ナンバリング	G-LET01 8M450 LJ48										
授業科目名 <英訳>	哲学（語学） Greek					担当者所属・職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学部 准教授 西村　洋平				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金4	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	古典ギリシア語を学ぶ										

[授業の概要・目的]

古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。

哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門とはしない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。

[到達目標]

古典ギリシア語の基礎文法を理解する。
簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。
古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。

[授業計画と内容]

第1回　イントロダクション、ギリシア文字の読み方・書き方
第2回から第14回　古典ギリシア語初歩の解説
教科書の第3課から第17課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また活用・変化を覚えてもらうために小テストを2・3回実施する。
期末試験
第15回　フィードバック（試験の解説、前期の復習）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

練習問題への取り組み（30%）、小テスト（20%）、試験（50%）で評価する。

[教科書]

水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回課される練習問題に取り組み、活用・変化を覚えるために繰り返し自習することが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET01 8M451 LJ48										
授業科目名 <英訳>	哲学（語学） Greek					担当者所属・職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学部 准教授 西村　洋平				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金4	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	古典ギリシア語を学ぶ										

[授業の概要・目的]

古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。

哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門とはしない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。

[到達目標]

古典ギリシア語の基礎文法を理解する。
簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。
古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。

[授業計画と内容]

第1回　イントロダクション
第2回から第15回　古典ギリシア語初歩の解説

教科書の第18課から第36課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また最後の3回は哲学・文学・歴史など履修者の関心に合わせて、短いテキストを講読する。

[履修要件]

前期の「ギリシア語（初級I）」を履修しているか、それに相当する文法知識を持っていること。
詳しくは初回のイントロダクションの際に相談すること。

[成績評価の方法・観点]

練習問題・講読への取り組みで評価する。また履修者数や学習状況によっては、授業内試験を実施する。

[教科書]

水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）

哲学（語学）(2)へ続く↓↓↓

哲学（語学）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回課される練習問題に取り組み、語形変化・活用を覚えるための自習を行い、講読のために予習してくること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET01 8M452 LJ48										
授業科目名 <英訳>	哲学（語学） Latin					担当者所属・職名・氏名	京都大学文学部　非常勤講師 勝又　泰洋				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水2	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ラテン語文法										

[授業の概要・目的]

ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語やフランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。

[到達目標]

ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらをある程度運用できるようになる。

[授業計画と内容]

下記教科書（全19課・82節（＋付録分の2節））の前半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。

第1回～第14回：教科書第1節～第42節
定期試験
第15回：試験フィードバック

毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。

[履修要件]

後期開講の「哲学（語学）」（ラテン語文法）とセットで受講することが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。

[教科書]

中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

哲学（語学）(2)へ続く↓↓↓

哲学（語学）(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。また、同じく第1回から具体的な学習を進めるので、事前に必ず教科書を用意しておくこと。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET01 8M453 LJ48										
授業科目名 <英訳>	哲学（語学） Latin					担当者所属・職名・氏名	京都大学文学部　非常勤講師 勝又　泰洋				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水2	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ラテン語文法										

[授業の概要・目的]

ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語やフランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。

[到達目標]

ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらをある程度運用できるようになる。

[授業計画と内容]

下記教科書（全19課・82節（＋付録分の2節））の後半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。

第1回～第14回：教科書第43節～第82節
定期試験
第15回：試験フィードバック

毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。

[履修要件]

前期開講の「哲学（語学）」（ラテン語文法）とセットで受講することが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。

[教科書]

中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

哲学（語学）(2)へ続く↓↓↓

哲学（語学）(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。また、同じく第1回から具体的な学習を進めるので、事前に必ず教科書を用意しておくこと。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 89610 LJ48										
授業科目名 <英訳>	インドネシア語I（初級）(語学) Indonesian					担当者所属・職名・氏名	京都外国語専門学校　専任講師 柏村　彰夫				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木5	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	インドネシア語Ｉ(初級）										

[授業の概要・目的]

インドネシア語に関する基礎知識を習得し、基本的な運用能力の養成を目的とする。基本的には、インドネシア語の学習歴の無い者を対象とする。

[到達目標]

日常会話での慣用表現の発話・聞き取りができるようになる。また、基本的な文の創出ができるようになることを目指す。

[授業計画と内容]

基本的には教科書に則り、以下の項目について学習する。
なお、授業冒頭に語彙に関する小テストを（全10回）実施する。

1.イントロダクション
2.名詞文
3.発音と表記法
4.人称代名詞
5.基語動詞
6.ber-動詞
7.meN動詞
8.7回までの学習内容の確認
9.アスペクト、助数詞
10.疑問文、疑問詞
11.受動
12.時間表現
13.接尾辞 -an
14.接頭辞 pe-, peN-
15.前期学習内容の確認

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価100%
なお平常点評価には、語彙小テスト（10回、各5点）の評価を含む。

[教科書]

森山幹弘・柏村彰夫 『教科書インドネシア語』（めこん）ISBN:4-8396-0159-3

インドネシア語I（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

インドネシア語I（初級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に適宜紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

初歩段階では語彙数を増やすことが最も重要である。従って初出単語の暗記を中心とする復習が必要。

（その他（オフィスアワー等））

第一回目の授業では、学習上必要な文献などの紹介を行う予定であるので、教科書や辞書を用意する必要は無い。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 89611 LJ48										
授業科目名 <英訳>	インドネシア語II（初級）(語学) Indonesian					担当者所属・職名・氏名	京都外国語専門学校　専任講師 柏村　彰夫				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木5	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	インドネシア語Ⅱ（初級）										

[授業の概要・目的]

インドネシア語Iでの学習内容を踏まえ、インドネシア語の運用能力の養成を目的とする。

[到達目標]

日常会話レベルの基本的表現の創出能力を習得する。

[授業計画と内容]

基本的には教科書に則り、以下の項目について学習する。
なお、授業冒頭に語彙に関する小テストを（全10回）実施する。

1. 基本的表現の復習
2. 程度の副詞、接頭辞 se-
3. 比較級、最上級
4. 接頭辞 ter-
5. 前置詞
6. 接続詞
7. 関係詞 yang
8. 7回までの授業内容の確認
9. 接辞 peN-an、 per-an
10. 複合語、接辞 ke-an
11. 命令文
12. meN-kan動詞、meN-i 動詞
13. memper 動詞
14. 畳語
15. 後期の授業内容の確認

[履修要件]

インドネシア語Iの履修または同程度のインドネシア語能力を前提とする。

[成績評価の方法・観点]

平常点100%。
なお平常点には語彙小テスト（10回、各5点）の評価を含む。

インドネシア語II（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

インドネシア語II（初級）(語学)(2)

[教科書]

森山幹弘・柏村彰夫 『教科書インドネシア語』（めこん）ISBN:4-8396-0159-3

[参考書等]

（参考書）
授業中に適宜紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

語彙習得が重要であり、既出単語を身につけるための復習が重要となる。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目29

科目ナンバリング	G-LET49 89626 LJ48										
授業科目名 <英訳>	タイ語I(初級）(語学) Thai					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 弓庭　育子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木5	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	初めてタイ語にふれる人のためのタイ語学習										

[授業の概要・目的]

臨地研究に備えて、暮らしの中で交わされる基本的なタイ語会話の知識を身につける。

[到達目標]

発音と声調の基礎が身についている。約100語の生活語彙と約20項目の基本文法が身についている。
生活場面や話題に応じたタイ語表現を用いて意思疎通を図れる。

[授業計画と内容]

【学習方法】
講義形式による文法解説、単語、例文の口頭練習、文法事項の反復練習、ロールプレイ活動を行う。

【学習内容：会話】
１．オリエンテーション　学習内容、方法、テキスト、評価方法の確認
２．発音練習　母音、声調、子音
３．第１課１．１～１．３　挨拶、国籍を紹介する、尋ねる
４．第１課１けたの数字、
５．第２課２．１～２．３　挨拶、名前を紹介する、尋ねる
６．第２課２．４～３けたの数字　挨拶、否定の表現
７．第３課３．１～３．３　職業を紹介する、尋ねる
８．第３課３．４～３．６　完了、予定の表現
９．第３課数字に関する表現
１０．第４課４．１～４．３　継続の表現
１１．第４課職業の表現
１２．第５課５．１～５．２　品詞と語順
１３．第５課５．３～親族名称　可能の表現
１４．総復習
１５．フィードバック

[履修要件]

効果的に語学を習得するため、履修期間中は①全講義に出席し、②テキスト付録のCDを用いてタイ人の発音をまねること、を学習習慣にすること。

タイ語I(初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

タイ語I(初級）(語学)(2)

[成績評価の方法・観点]

各課学習後の課題（およそ５００点）、総合の課題（およそ１００点）を合計し、１００点満点に換算して評価する。

[教科書]

宮本マラシー・村上忠良 『世界の言語シリーズ９　タイ語』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-333-4 C3087
授業時間に参加できないときには、記録動画を後日閲覧して授業内容を理解すること。

[参考書等]

（参考書）
中島マリン著　赤木攻監修 『挫折しないタイ文字レッスン』（めこん）ISBN:4-8396-0197-6 C0387
（タイ文字の個人学習に関心のある学生に勧める）

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：テキスト付録のCDを活用してタイ語の発音に親しむこと。
復習：既習内容はテキストを用いて見直し、CDで繰り返し発音を真似て再現を試みること。

（その他（オフィスアワー等））

上述と異なる学習レベルや学習内容を希望する場合には、第1回目授業日のオリエンテーションにて申し出ること。可能であれば対応する。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 89627 LJ48										
授業科目名 <英訳>	タイ語II(初級）(語学) Thai					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 弓庭　育子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木5	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	タイ語II(初級）										

[授業の概要・目的]

【学習目的】
臨地研究に備えて、暮らしの中で交わされる基本的なタイ語会話の知識を身につける。

[到達目標]

発音と声調の基礎が身についている。約200語の生活語彙と約38項目の基本文法が身についている。生活場面や話題に応じたタイ語表現を用いて意思疎通を図れる。タイ文字の子音字、母音符号の組み合わせの基礎が身についている。

[授業計画と内容]

【学習方法】
会話：講義形式による文法解説、単語、例文の口頭練習、文法事項の反復練習、ロールプレイ活動を行う。

【学習内容：会話】
１．オリエンテーション　学習内容、方法、テキスト、評価方法の確認
２．第６課６．１～６．２　指示代名詞
３．第６課６．３～６．４　程度の表現
４．第６課味覚表現
５．第７課７．１～７．２　希望、要求の表現
６．第７課７．３～７．５　許可の表現
７．第７課交通機関の名称
８．第８課８．１～８．２　指示形容詞
９．第８課８．３～８．４　義務の表現
１０．第８課時刻の表現
１１．第９課９．１～９．２　順序の表現
１２．第９課９．３～方向、方角の表現
１３．第１０課１０．１～１０．２　目的の表現
１４．総復習
１５．フィードバック

タイ語II(初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

タイ語II(初級）(語学)(2)

[履修要件]

タイ語I(初級)を履修していることが望ましい。
効果的に語学を習得するため、履修期間中は①全講義に出席し、②テキスト付録のCDを用いてタイ人の発音をまねること、を学習習慣にすること。

[成績評価の方法・観点]

講義中の小テスト（およそ５００点）、学期末テスト（およそ１００点）を合計し、１００点満点に換算して評価する。

[教科書]

宮本マラシー・村上忠良 『大阪大学外国語学部　世界の言語シリーズ９　タイ語』（大阪大学出版会）ISBN:ISBN:978-4-87259-333-4 C3087

[参考書等]

（参考書）

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：テキスト付録のCDを活用してタイ語の発音に親しむこと。
復習：既習内容はテキストを用いて見直し、CDで繰り返し発音を真似て再現を試みること。

（その他（オフィスアワー等））

上述と異なる学習レベルや学習内容を希望する場合には第1回目授業日のオリエンテーションにて申し出ること。可能であれば対応する。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 89631 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ビルマ（ミャンマー）語I（初級）(語学) Burmese					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 本行　沙織				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木3	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ビルマ語入門										

[授業の概要・目的]

・ビルマ語の発音と文字、文の成り立ちを理解する。
・基礎的な語彙を覚え、文型を身に付け、簡単な会話を繰り返し練習する。
・特に正確な発音の習得に重点を置き、母語話者に“通じる”ビルマ語を目指す。

[到達目標]

ビルマ語を正確に発音するとともに、基本的な読み書き、簡単な日常会話ができるようになる。

[授業計画と内容]

第１回　オリエンテーション
　　ミャンマーについて、ビルマ語の特徴、発音
第２回　文字１（基本字母、複合文字、母音記号、末子音を伴う音節の表し方、有音化と綴り字）
第３回　文字２（軽音音節の綴り、重ね文字、特殊な文字、不規則な読み方や不規則な綴り字、句読点、ビルマ数字、記号を書く順序）
第４回　第１課　それはココヤシの実です
第５回　第２課　元気です
第６回　練習問題１、第３課　私は豚肉のおかずが好きではありません
第７回　第３課　私は豚肉のおかずが好きではありません、第４課　ご飯食べましたか？
第８回　第４課　ご飯食べましたか？、練習問題２
第９回　第５課　マンダレーに行きます
第10回　第６課　何の仕事をしているんですか？
第11回　練習問題３、第７課　十冊くらいあります
第12回　第７課　十冊くらいあります、第８課　シュエダゴン・パゴダに行きたいです
第13回　第８課　シュエダゴン・パゴダに行きたいです、練習問題４
第14回　第９課　電気製品を売っている店はありますか？
第15回　これまでの授業の復習

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

毎回の授業で行う小テスト(50点)、期末試験（50点）

ビルマ（ミャンマー）語I（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

ビルマ（ミャンマー）語I（初級）(語学)(2)

[教科書]

加藤昌彦 『ニューエクスプレス プラス　ビルマ語』（白水社）ISBN:9784560088142

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

・予習は特に必要ありませんが、復習を大切にしてください。

・授業時間外でも教科書に付属しているCDを積極的に聞き、ビルマ語の音に親しんでください。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 89637 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ベトナム語I(初級）(語学) Vietnamese					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 吉本　康子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水2	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ベトナム語I(初級）										

[授業の概要・目的]

初学者を対象に、ベトナム語についての基礎知識を身につけるための講義を行う。

[到達目標]

・ベトナム語の文字の読み方を理解し、単語や文章を正しく読み上げることができる。
・挨拶の表現や基本構文を用いて簡単な会話をすることができる。
・言語の学習を通し、ベトナムの社会と文化についての理解を深める。

[授業計画と内容]

テキストに従って以下の計画で進めるが、状況に応じて多少変更する場合もある

第１回　　ガイダンス
第２～４回　ベトナム語の文字と発音、挨拶と自己紹介
第５～６回　７課
第７～８回　８課
第９～10回　９課
第11～12回　10課
第13～14回　11課
第15回　　まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点により評価する。

[教科書]

清水政明 『世界の言語シリーズ4　ベトナム語 『大阪大学出版会』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-328-0
その他、授業中にプリントを配布する。

ベトナム語I(初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

ベトナム語I(初級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）
吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[入門編]』（アルク）
吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[初級編]』（アルク）
その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

〈予習〉
・本文に目を通し、テキスト付属のＣＤ音声を聞く
〈復習〉
・ＣＤ音声を再生しながら、本文を音読する

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 89638 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ベトナム語II(初級）(語学) Vietnamese					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 吉本　康子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水2	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ベトナム語Ⅱ（初級）										

[授業の概要・目的]

ベトナム語の文字の読み方を理解し、挨拶や自己紹介などの基本的な会話が可能なレベルの学生を対象に、現地調査を実施する際に必要となる基礎的なベトナム語の習得を目的とした講義を行う

[到達目標]

・ベトナム語の基本的な文法を理解し、簡単な文章を読むことができる
・現地での生活や調査において必要な単語やフレーズを習得し、簡単な会話をすることができる
・言語の学習を通して、ベトナムの社会と文化についての理解を深める

[授業計画と内容]

テキストに従って以下の計画で進めるが、状況に応じて多少変更する場合もある

第１～２回　12課
第３～４回　13課
第５～６回　14課
第７～８回　15課
第９～10回　16課
第11～12回　17課
第13～14回　18課
第15回　まとめ

[履修要件]

ベトナム語Ⅰを履修していることが望ましいが、ベトナム語の文字が読め、挨拶や自己紹介、基本構文を用いた初歩的な会話ができれば可とする。

[成績評価の方法・観点]

平常点により評価する。

[教科書]

清水政明 『世界の言語シリーズ4　ベトナム語』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-328-0
その他、授業中にプリントを配布する。

ベトナム語II(初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

ベトナム語II(初級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）
吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[入門編]』（アルク）
吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[初級編]』（アルク）
その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

〈予習〉
・本文に目を通し、テキスト付属のＣＤ音声を聞く
〈復習〉
・ＣＤ音声を再生しながら、本文を音読する

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET50 69822 LJ31										
授業科目名 <英訳>	タイ研修 Asian Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	学際融合教育研究推進センター 特定助教 張　子康				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	多文化共学短期[派遣] 留学プログラム　タイ・チュラーロンコーン大学サマースクール										

[授業の概要・目的]

「タイ研修」は、①京都大学が実施する「多文化共学短期[派遣]留学プログラム」と呼ばれる短期留学、②事前学習、③事後学習から成る授業である。本演習の目的は、多様な文化的背景を持つ学生と共に学ぶことを通して、相手文化への理解を深めるとともに、自分自身が身につけてきた文化をも捉え直す経験をし、それを日本語、英語、もしくタイ語で表現できるようになることを目的としている。これらのことは、将来にわたって国際活動を行うための基礎能力を養成することとなる。

具体的には、京都大学と大学間学生交流協定関係にあるタイ・チュラーロンコーン大学の協力を得て、(1)派遣先大学が提供するタイ語講座、(2)現地学生との共同セミナー・共同学習、(3)派遣先大学提供の講座受講・実習・実地研修・文化体験を行う。
(1)のタイ語講座では、チュラーロンコーン大学の教員による初学者向けのタイ語講座を受講する。(2)の共同セミナーにおいては、両国の文化の比較や社会情勢について両大学の学生による合同発表をおこなう。また、(3)については日・英でおこなわれるチュラーロンコーン大学の講義にも現地学生とともに参加する。文化体験においては、タイの食文化、史跡見学、現代文化見学など、多角的に現地文化を体験する機会が提供される。

[到達目標]

・短期留学の経験並びに現地の学生と共に学び議論することを通じて、派遣先であるタイの文化、社会、習慣への理解、さらには日本とタイ関係ひいてはアジア諸国についての理解を深める。
・また、同活動を通じて、日本文化（あるいは自分自身の身につけてきた文化）を相対化して客観的に捉えながら、それを相手に分かりやすく伝えられるようになる。
・現地で提供される講義、実地研修を通じて、文化、社会、習慣について多様なアプローチを理解する。
・現地学生を含む多様な文化的背景を持つ学生とコミュニケーションを図る意義を理解し、それを可能とする能力の基礎を習得する。
・タイ語の基礎を習得し、基礎的なやりとりができるようになる。

[授業計画と内容]

・当プログラムには別途申し込みをする必要があるため、申込方法などについて登録者に送られる案内、KULASIS等を参照すること。
・研修の詳細についてもKULASISで確認すること。

全体スケジュール（予定）
（１）8月旬中～9月上旬：事前語学授業(12時間程度）、共同セミナー発表準備講座（3時間程度）
（２）9月上旬～9月下旬：短期留学プログラム（於、タイ・チュラーロンコーン大学）
プログラム内容（仮）
1日目日本発、タイ着

タイ研修(2)へ続く↓↓↓

タイ研修(2)

2日目
-09:00 - 12:00　キャンパスツアー
-13:00 - 16:00　講義「タイ国・タイ文化入門」
3日目
-09:00 - 12:00　タイ語授業
-13:00 - 16:00　タイ語授業
4日目
-09:00 - 12:00　授業受講「文化・文学」
-13:00 - 16:00　授業受講「歴史」
5日目
-09:00 - 12:00　実地見学（寺院訪問等）
6日目
-09:00 - 12:00　タイ語授業
-13:00 - 16:00　タイ語授業
7日目
実地見学（古都アユタヤ・伝統産業・現代文化等）
8日目日曜日
9日目
-09:30 - 12:30　授業受講「ビジネスコミュニケーション」
10日目
-09:00 - 12:00　講義「タイの歴史と文化」
-13:00 - 16:00　タイ語授業
11日目
-09:00 - 12:00　授業受講（予備日）
-13:00 - 15:00　共同セミナー準備
12日目
-09:30 - 12:30　共同セミナー
-13:00 - 16:00　タイ語授業
13日目
-09:00 - 11:00　発表会、修了式
14日目タイ発、日本着
（３）9月末　報告会（1.5時間、於、京都大学）

[履修要件]

本スプリングスクール参加にあたって、全学共通科目「日本語・日本文化実習」を受講した上での参加を推奨している。タイ語初学者も歓迎するが、「タイ語Ｉ（初級）」等の関連科目を受講していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

事前学習への参加状況（15%）、派遣先大学における評価（60%）、帰国後の報告会および報告書（25%）による。
*全学共通科目として登録する場合は、別途「多文化教養演習：見・聞・知@タイ」のシラバスを確認のこと。

タイ研修(3)へ続く↓↓↓

タイ研修(3)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

（関連ＵＲＬ）

http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/(京都大学アジア研究教育ユニット（KUASU）)

[授業外学修（予習・復習）等]

タイに関する文献を読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

・チュラーロンコーン大学側プログラム実施責任者

チュラーロンコーン大学 文学部東洋言語学科 学科長 助教授、チョムナード・シティサーン

(Chomnard Setisarn, Head, Associate Professor, Faculty of Arts, Department of Eastern Languages, Chulalongkorn University

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET50 69822 LJ31										
授業科目名 <英訳>	ベトナム研修 Asian Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	学際融合教育研究推進センター 特定助教 張　子康				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	多文化共学短期[派遣]留学プログラム　ベトナム国家大学ハノイ校スプリングスクール										

[授業の概要・目的]

「ベトナム研修」は、①京都大学が実施する「多文化共学短期[派遣]留学プログラム」と呼ばれる短期留学、②事前学習、③事後学習から成る授業である。本演習の目的は、多様な文化的背景を持つ学生と共に学ぶことを通して、相手文化への理解を深めるとともに、自分自身が身につけてきた文化をも捉え直す経験をし、それを日本語、英語、もしくは現地の言語で表現できるようになることである。これらのことは、将来にわたって国際活動を行うための基礎能力を養成することとなる。

具体的には、京都大学と大学間学生交流協定関係にあるベトナム国家大学の協力を得て、(1)派遣先大学が提供するベトナム語講座、(2)現地学生との共同セミナー・共同学習、(3)派遣先大学提供の講座受講・実習・実地研修・文化体験を行う。

(1)のベトナム語講座では、初学者向けのベトナム語講座を受講する。(2)の共同セミナーにおいては、両国の文化の比較や社会情勢について両大学の学生による合同発表をおこなう。また、(3)ベトナム国家大学の講義にも現地学生とともに参加する。文化体験においては、ベトナムの伝統村や史跡への実地研修をおこなう。

[到達目標]

・短期留学の経験並びに現地の学生と共に学び議論することを通じて、派遣先であるベトナムの文化、社会、習慣への理解、さらには日本とベトナムとの関係ひいてはアジア諸国についての理解を深める。
・また、同活動を通じて、日本文化あるいは自分自身が身につけてきた文化を相対化して客観的に捉えながら、それを相手に分かりやすく伝えられるようになる。
・現地で提供される講義、実地研修を通じて、文化、社会、習慣について多様なアプローチを理解する。
・現地学生を含む多様な文化的背景を持つ学生とコミュニケーションを図る意義を理解し、それを可能とする能力の基礎を習得する。
・ベトナム語の基礎を習得し、基礎的なやりとりができるようになる。

[授業計画と内容]

・当プログラムには別途申し込みをする必要があるため、申込方法などについて登録者に送られる案内、KULASIS等を参照すること。
・研修の詳細についてもKULASISで確認すること。

全体スケジュール（予定）
（１）2月初旬～2月中旬：事前語学授業(12時間程度）、共同セミナー発表準備講座（3時間程度）
（２）2月中旬～3月上旬：短期留学プログラム（於、ベトナム国家大学ハノイ校）
プログラム内容（仮）
1日目日本発、ベトナム着
2日目 2～6日目：ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学

ベトナム研修(2)へ続く↓↓↓

ベトナム研修(2)

-09:15-09:45　オリエンテーション
-09:50-11:40　講義「ベトナム地理」
-12:00-14:00　共同セミナー準備
3日目
-09:30-11:30　講義「日本語研究入門」
-14:00-16:00　ベトナム語授業
-16:15-18:15　共同セミナー準備
4日目
-09:30-11:30　講義「ベトナムの国家機関と法律」
-14:00-16:00　講義「ベトナムの大衆文化」
-16:15-18:15　共同セミナー準備
5日目
-09:30-11:30　ベトナム語授業
-12:45-14:30　実習（日本語教授研修）
-14:35-15:35　共同セミナーの準備
6日目
-10:00-16:30　実地研修（伝統村見学）
7日目土曜日
8日目日曜日
9〜13日目：ベトナム国家大学ハノイ校外国語大学
9日目
-08:30-09:30　オリエンテーション及び共同セミナー準備
-09:50-11:40　ベトナム語授業
-14:45-15:45　共同セミナーの準備
10日目
-08:45-09:30　ベトナム語授業
-11:00-12:00　共同セミナーの準備
-13:00-14:35　ベトナム語授業
-14:45-16:30　実習（日本語会話：日本語教授研修）
11日目実地研修（6時間程度　詳細は後日）
12日目
-08:45-10:50　ベトナム語授業
-13:00-14:30　実習（日本語会話：日本語教授研修）
-14:45-16:15　ベトナム語授業
-16:30-17:30　共同セミナー準備
13日目
-9:30-11:30　共同セミナー、修了式
14日目ベトナム発、日本着
（３）3月下旬　報告会（1.5時間、於、京都大学）

[履修要件]

本スプリングスクール参加にあたって、全学共通科目「日本語・日本文化実習」を受講した上での参加を推奨している。ベトナム語初学者も歓迎するが、「ベトナム語Ｉ（初級）」等の関連科目を受講していることが望ましい。

ベトナム研修(3)へ続く↓↓↓

ベトナム研修(3)

[成績評価の方法・観点]

事前学習への参加状況（15%）、派遣先大学における評価（60%）、帰国後の報告会および報告書（25%）による。
*全学共通科目として登録する場合は、別途「多文化教養演習：見・聞・知@ベトナム」のシラバスを確認してください。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連ＵＲＬ）

http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/(京都大学アジア研究教育ユニット（KUASU）)

[授業外学修（予習・復習）等]

ベトナムに関する文献を読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

・ベトナム国家大学ハノイ校側プログラム実施責任者
ベトナム国家大学ハノイ校外国語大学、日本言語文化学部・学部長、ダオ・ティ・ンガ・ミー
(Dao Thi Nga My, Dean, Faculty of Japanese Language and Culture, University of Languages and International Studies, Vietnam National University, Hanoi)
ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学、東洋学部日本学科・専任講師、プオン・トゥイ・グエン
(Phuong Thuy Nguyen, Lecturer, Department of Japanese Studies, Faculty of Oriental Studies, University of Social Sciences and Humanities, Vietnam National University, Hanoi)

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET50 69822 LJ31										
授業科目名 <英訳>	インドネシア研修 Asian Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	学際融合教育研究推進センター 特定助教 張　子康				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	多文化共学短期[派遣]留学プログラム　インドネシア大学スプリングスクール										

[授業の概要・目的]

「インドネシア研修」は、①京都大学が実施する「多文化共学短期[派遣]留学プログラム」と呼ばれる短期留学、②事前学習、③事後学習から成る授業である。本演習の目的は、多様な文化的背景を持つ学生と共に学ぶことを通して、相手文化への理解を深めるとともに、自分自身が身につけてきた文化をも捉え直す経験をし、それを日本語、英語、もしくは現地の言語で表現できるようになることである。これらのことは、将来にわたって国際活動を行うための基礎能力を養成することとなる。

具体的には、京都大学と大学間学生交流協定関係にあるインドネシア大学の協力を得て、(1)派遣先大学が提供するインドネシア語講座、(2)現地学生との共同セミナー・共同学習、(3)派遣先大学提供の講座受講・実習・実地研修・文化体験を行う。

(1)のインドネシア語講座では、初学者向けのインドネシア語講座を受講する。(2)の共同セミナーにおいては、両国の文化の比較や社会情勢について両大学の学生による合同発表をおこなう。また、(3)インドネシア大学の講義にも現地学生とともに参加する。文化体験においては、インドネシアの食文化、史跡見学、伝統楽器の演奏体験など、多角的に現地文化を体験する機会が提供される。

[到達目標]

・短期留学の経験並びに現地の学生と共に学び議論することを通じて、派遣先であるインドネシアの文化、社会、習慣への理解、さらには日本とインドネシアとの関係ひいてはアジア諸国についての理解を深める。
・また、同活動を通じて、日本文化あるいは自分自身が身につけてきた文化を相対化して客観的に捉えながら、それを相手に分かりやすく伝えられるようになる。
・現地で提供される講義、実地研修を通じて、文化、社会、習慣について多様なアプローチを理解する。
・現地学生を含む多様な文化的背景を持つ学生とコミュニケーションを図る意義を理解し、それを可能とする能力の基礎を習得する。
・インドネシア語の基礎を習得し、基礎的なやりとりができるようになる。

[授業計画と内容]

・当プログラムには別途申し込みをする必要があるため、申込方法などについて登録者に送られる案内、KULASIS等を参照すること。
・研修の詳細についてもKULASISで確認すること。

全体スケジュール（予定）
（１）2月上旬～2月中旬：事前語学授業(12時間程度）、共同セミナー発表準備講座（3時間程度）
（２）2月中旬～3月上旬：短期留学プログラム（於、インドネシア大学）
プログラム内容（仮）

インドネシア研修(2)へ続く↓↓↓

インドネシア研修(2)

1日目日本発、インドネシア着
2日目
-09:00-10:40　インドネシア語授業
-11:00-12:40　インドネシア語授業
-16:00-18:00　キャンパスツアー
3日目
-09:00-10:40　インドネシア語授業
-11:00-12:40　インドネシア語授業
-14:00-16:00　文化体験（伝統舞踊研修）
-16:30-18:30　共同セミナー準備
4日目
-09:00-10:40　インドネシア語授業
-11:00-12:40　インドネシア語授業
-14:00-16:00　実習（日本語授業参加）
5日目
-09:00-10:40　インドネシア語授業
-11:00-12:40　インドネシア語授業
-16:30-18:30　共同セミナー準備
6日目
-09:00-10:40　インドネシア語授業
-11:00-12:40　インドネシア語授業
-14:00-16:00　文化体験（伝統工芸研修）
7日目
-09:00-18:00　課外研修（史跡訪問等）
8日目日曜日　休み
9日目
-09:00-10:40　インドネシア語授業
-11:00-12:40　インドネシア語授業
-14:00-16:00　文化体験（伝統楽器・演奏研修）
-16:30-18:30　共同セミナー準備
10日目
-09:00-10:40　インドネシア語授業
-11:00-12:40　インドネシア語授業
-16:00-18:00　講義受講「翻訳」
11日目
-09:00-10:40　インドネシア語授業
-11:00-12:40　インドネシア語授業
-16:00-18:00　共同セミナー準備
12日目
-09:00-10:40　インドネシア語授業
-11:00-12:40　インドネシア語授業
-16:00-18:00　共同セミナー準備
13日目
-09:00-10:40　インドネシア語授業
-11:00-12:40　インドネシア語授業
-13:15-18:00　共同セミナー
14日目インドネシア発、日本着
（３）3月下旬　報告会（1.5時間、於、京都大学）

インドネシア研修(3)へ続く↓↓↓

インドネシア研修(3)

[履修要件]

本スプリングスクール参加にあたって、全学共通科目「日本語・日本文化実習」を受講した上での参加を推奨している。インドネシア語初学者も歓迎するが、「インドネシア語Ｉ（初級）」等の関連科目を受講していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

事前学習への参加状況（15%）、派遣先大学における評価（60%）、帰国後の報告会および報告書（25%）による。
*全学共通科目として登録する場合は、別途「多文化教養演習：見・聞・知@インドネシア」のシラバスを確認してください。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連ＵＲＬ）

http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/(京都大学アジア研究教育ユニット（KUASU）)

[授業外学修（予習・復習）等]

インドネシアに関する文献を読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

・インドネシア大学側プログラム実施責任者
インドネシア大学 人文学部教授 日本プログラム所長 フィリア(Filia, Professor, Director of Japanese Studies Program, Faculty of Humanities, University of Indonesia)
インドネシア大学 人文学部講師 日本語プログラム ムハマッド・アリエ・アンディコ・アジエ (Muhammad Arie Andhiko Ajie, Lecturer, Japanese Studies Program, Faculty of Humanities, University of Indonesia)

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET50 69822 LJ31										
授業科目名 <英訳>	戦争と植民地の歴史認識 Asian Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　小山　哲 文学研究科　教授　　谷川　穣				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	戦争と植民地をめぐる歴史認識問題										

[授業の概要・目的]

東アジアの日，中，韓・朝間での「歴史認識問題」を中心として，そこで焦点となっている過去の歴史についてより正確な事実を学び，また、関係する諸国や地域のあいだで歴史認識にどのような違いがあるかを多面的に考察するとともに，より広く現代世界における「歴史認識問題」とくに過去の戦争や植民地支配の記憶をめぐる問題について考える手引きとなる講義をオムニバス形式で提供します。

[到達目標]

いわゆる「歴史認識」とはどういうことかを理解したうえで、歴史学的に正確な事実を把握する能力を養う。

[授業計画と内容]

文学研究科，人文科学研究所，人間・環境学研究科の教員を中心に，現在日本，中国，韓国，北朝鮮などの東北アジア諸国の間で国際的な問題となっている，過去の戦争と植民地支配にかかわる「歴史認識問題」について講義します。また，東北アジア以外の地域における「歴史認識問題」についてもとりあげます。
講義担当者は以下のとおりです（講師の氏名の50音順による）。
日程については後日掲示します。なお、各講師の講義テーマについては、変更される可能性があります。

石川禎浩(人文科学研究所)：日中国交回復時（1972年）の歴史認識
伊藤憲二（文学研究科）：戦時期日本の核エネルギー研究――研究者はいかにして戦争に巻き込まれるか
太田　出（人間・環境学研究科）： 山西残留の首謀者・城野宏――その戦中と戦後を貫く信念
小野寺史郎（人間・環境学研究科）：近代中国における戦争/平和をめぐる歴史認識
小関　隆（人文科学研究所）：中立という選択肢――第二次大戦におけるアイルランドの経験から
小山　哲(文学研究科、コーディネーター)：収容所の世紀の記憶の語り方――ポーランド人によるソ連強制収容所体験記を読む
酒井朋子（人文科学研究所）：場所と身体の記憶――戦争と災害の遺跡と遺構
塩出浩之（文学研究科）：琉球／沖縄をめぐる歴史認識
谷川　穣(文学研究科、コーディネーター)：靖国神社について
直野章子（人文科学研究所）：越境する記憶――原爆投下をめぐって
中村唯史(文学研究科)： ロシアとソ連における民族の問題――「想像」と「実体」のあいだ
藤原辰史（人文科学研究所）：帝国日本の品種改良――種子と権力について考える
細見和之（人間・環境学研究科）：丹波篠山から考える、在日コリアンの足跡
吉井秀夫(文学研究科)：朝鮮総督府古蹟調査事業の評価をめぐって

フィードバック

戦争と植民地の歴史認識(2)へ続く↓↓↓

戦争と植民地の歴史認識(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（50%）とレポート（50%）により総合的に評価します。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

関連する資料を講義担当者が指定した場合、予習しての出席、あるいは事後の自学をおこなっていることを前提に授業をすすめる。

（その他（オフィスアワー等））

専門知識が無くともわかりやすい講義を心がけますので，研究科や専修の枠にとらわれずに受講してください。
昨年度後期の「戦争と植民地をめぐる歴史認識問題」とかなりの講義が類似の内容なので、重複履修はできません。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET50 69822 LJ31										
授業科目名 <英訳>	次世代グローバルワークショップ Asian Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　安里　和晃 文学研究科　准教授　Stephane Heim				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・通年集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	次世代グローバルワークショップ The Next-Generation Global Workshop										

[授業の概要・目的]

世界30数か国の大学から大学院生と若手研究者の参加を得て15年間開催してきた実績のある「次世代グローバルワークショップ」を単位化したもの。
今年度は京都大学で開催する。応募者はスクリーニングの上、報告者を確定する。後日、コメントに従った修正のうえ、フルペーパーの提出を求め、年度末Proceedingsとして掲載する。9月末の開催を予定しているおり、場合によってはオンラインになる可能性がある。詳細については年度初めに掲載の予定（http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/）これまでの開催についてもアジア研究教育ユニットのHPを参照のこと。

The Next-Generation Global Workshop (NGGW) has been held annually since 2008 to provide an opportunity for early-career scholars to present their research and to have feedback from an international audience. Please see the detail in the call for papers as follows after April http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/

[到達目標]

テーマに従い英語論文を執筆し、英語で研究報告を行う。質問の受け答えや、研究者間の交流が主体的に行える。修士、博士レベルの参加者で構成されるため、国際舞台の第一のステップとして参加しやすく、成果は大きい。

It has proved to be a pleasant and effective way for capacity building through the mentorship of professors from different universities in different areas of the world. It has also provided invaluable opportunities for all participants to learn from their fellow participants with different perspectives and to deepen their understanding of various social phenomena in the world, particularly in Asia. Ultimately, the NGGW has served as a forum for scholars of different generations from various regions to build a common academic foundation by redefining Asia in the global context. You can access the workshop proceedings below.
https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/262982

[授業計画と内容]

参加者は統一テーマについて英語論文を執筆し、英語で研究報告を行う。参加にあたってはおおまかに以下のプロセスを伴う。
１．タイトルの作成
２．要旨の作成
３．応募書類の作成と応募
４．論文執筆（6000語程度）
５．校閲
６．発表原稿作成
７．発表演習
８．修正
９．報告

次世代グローバルワークショップ(2)へ続く↓↓↓

次世代グローバルワークショップ(2)

１０．大学教員からのコメントと返答
１１．全体のディスカッション
１２．研究者間交流
１３．論文のリライトと編集
１４．論文および研究構成に関する宣誓書の確認・提出
１５．プロシーディングス掲載と確認
ワークショップでは世界各地からの参加者と同じセッションで報告し、やはり世界各地から参加する大学教員からコメントを受ける。国際会議での学術発表の実践的経験を積む貴重な機会である。

[履修要件]

参加希望者はあらかじめ発表要旨を提出し、選考を通った者のみが参加を認められる。
Applicants need to submit their abstracts in advance, and only those who pass the selection process will be accepted to participate.

[成績評価の方法・観点]

ワークショップ参加・報告とリライトした論文により評価する。詳細は別途説明する。

Based on workshop presentation and preparation.

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

calls for papers募集要項に従って準備を進める。

（その他（オフィスアワー等））

ワークショップ参加希望者は
asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp
を通じてアポを取ること。(@)は@に。
Please get in touch with Prof. Asato asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp
Or Kyoto University Asian Studies Unit

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 8M603 LJ36										
授業科目名 <英訳>	科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング Critical Thinking on Science,Technology and Soceity					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　伊勢田　哲治				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング										

[授業の概要・目的]

伊勢田ほか編『科学技術をよく考える』および呉羽ほか編『宇宙開発をみんなで議論しよう』をテキストとして、科学技術と社会の接点で生じるさまざまな問題、特に宇宙開発をめぐる問題についてディスカッションを行い、多面的な思考法と、思考の整理術を学んでいく。理系の大学院のカリキュラムでは、科学と社会の関わりについて学ぶ機会はそれほど多く与えられない。他方、東日本大震災後の状況に特に顕著にあらわれているように、科学技術が大きな影響をおよぼす現在の社会において、研究者が自らの研究の社会的含意について考えること、アカデミズムの外の人々と語り合うことの必要性は非常に高まっている。練習問題を使いながら広い視野を持った大学院生を養成することが目的である。

[到達目標]

・クリティカルシンキング(CT)という考え方について知り、CTのいくつかの基本的なテクニックを身につけること
・科学技術社会論の概念を学び、それを使って議論ができるようになること

[授業計画と内容]

授業はテーマにそったグループディスカッション、全体ディスカッション、講義、演習の組み合わせで行われる。
テキストは以下の１４のテーマを取り上げているが、本授業ではそのうち６つをとりあげ、関連する知識やスキルとあわせて各２回程度を使って議論を行う。取り上げる題材は受講者の興味も踏まえて決定する。
『科学技術をよく考える』
・遺伝子組み換え作物　　・脳科学の実用化
・喫煙　　・乳がん検診
・血液型性格判断　　・地球温暖化
・地震予知　　・宇宙科学・技術への公的投資
・動物実験　　・原爆投下の是非を論じること自体の正当性
『宇宙開発をみんなで議論しよう』
・有人月探査とロマン　　・宇宙の資源開発
・宇宙技術のデュアルユース　　・宇宙ゴミ（スペースデブリ）
初回に前半のテーマ３つを決定する。5回目の授業で後半のテーマ３つを決定する。

授業の進行は以下のとおり

イントロダクション(1回）
テーマごとのディスカッション（12回）
まとめとフィードバック(2回）

科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング(2)へ続く↓↓↓

科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

３分の２以上の出席が単位発行の最低条件となる。
積極的な授業参加による平常点が７０％、提出物の評価が３０％で採点する。

[教科書]

伊勢田哲治ほか編 『『科学技術をよく考える　クリティカルシンキング練習帳』』（名古屋大学出版会）
呉羽真、伊勢田哲治編 『宇宙開発をみんなで議論しよう』（名古屋大学出版会）

[参考書等]

（参考書）
伊勢田哲治 『哲学思考トレーニング』（筑摩書房）
野矢茂樹 『新版　論理トレーニング』（産業図書）

[授業外学修（予習・復習）等]

ディスカッションのテーマとなる箇所は事前に読むこと。また宿題という形で課題を課すことがあるのでそれをきちんと行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目40

科目ナンバリング	G-LET36 6JK01 LE36										
授業科目名 <英訳>	Introduction-Transcultural Studies (Lecture) Introduction-Transcultural Studies (Lecture)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　安里　和晃 文学研究科　教授　VASUDEVA, Somdev 文学研究科　教授　Mitsuyo Wada-Marciano 文学研究科　講師　Bjorn-Ole Kamm				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月3	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Introduction to Transcultural Studies										

[授業の概要・目的]

The concept of transculturality can be used both as a heuristic device (e.g. multi-perspectivity and multi-locality) and focus of study (e.g. cultural entanglements).
It is embedded in a large and very heterogeneous landscape of theoretical and methodological approaches that come from various disciplines and cover different thematic, historical and geographic areas.

Jointly conducted by four researchers from different disciplinary backgrounds, this lecture class will discuss the contributions and limitations of inherited and current notions of transculturality. Focusing on three study areas, "Knowledge, Belief and Religion," "Society, Economy and Governance" and "Visual, Media and Material Culture," and the respective fields of research of the lecturers, theories and methods will be tested, e. g. in explorations of diasporic cinema and cultural identity politics, circular movements in the development of "Modern Postural Yoga," and the relationship between patterns of migration and modes of institutionalization. The goal of the course is to introduce students to diverse disciplinary perspectives enabling them to frame their own studies of transcultural phenomena and perspectives.

Study Focus: all.
Modules: Introduction to Transcultural Studies.

[到達目標]

Students will gain insights into the historical development of theories of transculturality and their application in practical research in the humanities and social sciences. This will allow them to formulate own study projects and prepare them for research dealing with the creation and crossing of cultural borders, entangled histories and forms of circulation.

[授業計画と内容]

The course will be offered in accordance with the following general structure. A detailed plan for each class will be announced in the introduction.
IMPORTANT・重要: Parts (1) Introduction and (2) Foundations will be offered online (remote) only or in hybrid form (please go to PandA for the most up-to-date information and the Zoom link).

(1) Introduction [1 week]
The Introduction to the course covers the aims, methods, requirements and overall organization of the class, including self-introductions by the lecturers and first examples from the three study foci, "Knowledge, Belief and Religion" (KBR), "Society, Economy and Governance" (SEG), and "Visual, Media and Material Culture" (VMC).

(2) Foundations [3 weeks] - (lecturer: Bjorn-Ole KAMM)

Introduction-Transcultural Studies (Lecture)(2)へ続く↓↓↓

The first three-week section of lectures discusses transculturality within the matrix of associated terms and metaphors, such as hybridity, as well as related-but-different perspectives, postcolonialism for example, followed by an introduction into transculturality as heuristic principle and its methodological consequences.

(3) Knowledge, Belief and Religion [3 weeks] - (lecturer: Somdev VASUDEVA)
During the following three weeks we examine the various circular movements underlying the development of what came to be called "Modern Postural Yoga." In the first lecture, we investigate historical precursors of the relevant phenomena, explore influences of British and Scandinavian physical culture on the development of postural yoga in India in the second lecture, and consider the ways in which the latter was received (back) in Britain and globally in the final class of this section.

(4) Society, Economy and Governance [3 weeks] - (lecturer: ASATO Wako)
This section will deal with people on the move and practices of control and institutionalization, for example, through immigration policies, minority policies, social integration policies or citizenship, particularly in Asian countries. The focus on cross-border migration and demographic challenges shifts to supranational entities, such as ASEAN, in the last week.

(5) Visual, Media and Material Culture [3 weeks] - (lecturer: Mitsuyo WADA-MARCIANO)
The last section focuses on transculturality in film and identity politics, dealing with individual filmmaking in PRC in the first week, and looking at aspects of diasporic cinema, especially the concept of transcultural queerness in the second. The last week will examine various archival film practices in the relationship with the realm of visual media.

(6) Review and Feedback

The lecture class will be accompanied by a weekly discussion class ("tutorium," Code: JK02001), in which students discuss the content of the lectures and the readings, and clarify their understanding of transculturality. Participation in this class is mandatory for students of the major Master in Transcultural Studies and highly recommended for all other students joining from other majors.

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Active participation in discussion (20%), preparation of mandatory readings and regular submission of short comments/discussion questions (20%); written examination (60%).

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
The course materials as well as lecture slides will be made available via the course PandA webpage.

Introduction-Transcultural Studies (Lecture)(3)へ続く↓↓↓

Introductory readings:

Appadurai, Arjun. 2005 (1996). Modernity at Large. Cultural Dimensions of Globalization. Minneapolis: University of Minnesota Press.
Brosius, Christiane. 2010. India's Middle Class. New Forms of Urban Leisure, Consumption and Prosperity. New Delhi: Routledge.
Elkins, James et al (eds). 2010. Art and Globalization. University Park: Pennsylvania State Univ. Press.
Morphy, Howard and Morgan Perkins. 2006. Anthropology of Art. The Reader. Malden: Blackwell.
Juneja, Monica. 2011 "Global Art History and the 'Burden of Representation'." In: Hans Belting/Andrea Buddensieg (eds). Global Studies: Mapping the Contemporary. Ostfildern: Hatje Cantz.
Juneja, Monica and Christian Kravagna. 2013. "Understanding Transculturalism." In Transcultural Modernisms, ed. Fahim Amir et.al. Berlin: Sternberg Press, 22-33.
Lackner, Michael, Iwo Amelung and Joachim Kurtz. 2001. New Terms for New Ideas: Western Knowledge and Lexical Change in late Quing China. Leiden: Brill.
Pomeranz, Kenneth. 2000. The Great Divergence: China, Europe, and the Making of the Modern World Economy. Princeton: Princeton University Press.
Sartori, Andrew. 2008. Bengal in Global Concept History: Culturalism in the Age of Capital. Chicago: The University of Chicago Press.
Kitty Zijlmans/ Wilfried van Damme (eds). 2008. World Art Studies: Exploring Concepts and Approaches. Amsterdam: Valiz.

[授業外学修（予習・復習）等]

Regular homework for this lecture class (readings and short comprehension essays) will play an important role in this course.

（その他（オフィスアワー等））

Consultation (office hours) by appointment. The course PandA webpage will be available to download the course material.

Please contact Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 7JK02 SE36										
授業科目名 <英訳>	Introduction-Transcultural Studies (Tutorium) Introduction-Transcultural Studies (Tutorium)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　講師　Bjorn-Ole Kamm				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月4	授業形態	演習	使用言語	英語
題目	Introduction to Transcultural Studies (Discussion session)										

[授業の概要・目的]

The concept of transculturality can be used both as a heuristic device (e.g. multi-perspectivity and multi-locality) and focus of study (e.g. cultural entanglements).

It is embedded in a large and very heterogeneous landscape of theoretical and methodological approaches that come from various disciplines and cover different thematic, historical and geographic areas.

Jointly conducted by four researchers from different disciplinary backgrounds, this discussion class complements the lecture series of the same name and deals with the contributions and limitations of inherited and current notions of transculturality. Focusing on three study areas, "Knowledge, Belief and Religion," "Society, Economy and Governance" and "Visual, Media and Material Culture," and the respective fields of research of the lecturers, theories and methods will be tested, e.g. in explorations of diasporic cinema and cultural identity politics, circular movements in the development of "Modern Postural Yoga," and the relationship between patterns of migration and modes of institutionalization. The goal of the course is to deepen students' understanding of transcultural phenomena and perspectives.

Study Focus: all.
Modules: Introduction to Transcultural Studies.

[到達目標]

Students will discuss the lectures and readings about the historical development of theories of transculturality and their application in practical research in the humanities and social sciences. This will allow them to deepen their understanding of transcultural dynamics, theoretical perspectives, the creation and crossing of cultural borders, entangled histories and forms of circulation.

[授業計画と内容]

The course will be offered in accordance with the following general structure. A detailed plan for each class will be announced in the introduction.
IMPORTANT・重要: Parts (1) Introduction and (2) Foundations will be offered online (remote) only or in hybrid form (please go to PandA for the most up-to-date information and the Zoom link).

(1) Introduction [1 week]
The Introduction to the course covers the aims, methods, requirements and overall organisation of the class, including guidelines for essay writing and brief overviews of the three study foci, Knowledge, Belief and Religion" (KBR), "Society, Economy and Governance" (SEG), and "Visual, Media and Material Culture" (VMC).

(2) Foundations [3 weeks]
The first three-week section of readings complements the lecture by Bjorn-Ole KAMM and discusses

Introduction-Transcultural Studies (Tutorium)(2)へ続く↓↓↓

transculturality within the matrix of associated terms and metaphors, such as hybridity, as well as related-but-different perspectives, postcolonialism for example, followed by an introduction into transculturality as heuristic principle and its methodological consequences.

(3) Knowledge, Belief and Religion [3 weeks]
In the following three weeks the readings will be discussed that relate to Somdev VASUDEVA's lectures on the concept of transculturality using "Modern Postural Yoga" as an example. In the first lecture, we investigate historical precursors of the relevant phenomena, explore influences of British and Scandinavian physical culture on the development of postural yoga in India in the second lecture, and consider the ways in which the latter was received (back) in Britain and globally in the final class of this section.

(4) Society, Economy and Governance [3 weeks]
This section will deal with people on the move and practices of control and institutionalization, for example, through immigration policies, minority policies, social integration policies or citizenship, particularly in Asian countries, as they are discussed by ASATO Wako in his lectures. The focus on cross-border migration and demographic challenges shifts to supranational entities, such as ASEAN, in the last week.

(5) Visual, Media and Material Culture [3 weeks] - (lecturer: Mitsuyo WADA-MARCIANO)
The last section focuses on transculturality in film and identity politics, dealing with individual filmmaking in PRC in the first week, and looking at aspects of diasporic cinema, especially the concept of transcultural queerness in the second. The last week will examine various archival film practices in the relationship with the realm of visual media.

(6) Review and Feedback

[履修要件]

Participation in the main lecture class Introduction to Transcultural Studies is mandatory. (Code: JK01001).

[成績評価の方法・観点]

Readings (40%), discussion (40%), and active participation (20%)

[教科書]

The course materials as well as lecture slides will be made available via the course PandA webpage.

[参考書等]

（参考書）
The course materials as well as lecture slides will be made available via the course PandA webpage.

[授業外学修（予習・復習）等]

Regular homework for the lecture class (readings and short comprehension essays) will play an important role in this course.

Introduction-Transcultural Studies (Tutorium)(3)へ続く↓↓↓

（その他（オフィスアワー等））

Consultation (office hours) by appointment. The course PandA webpage will be available to download the course material.

Please contact Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 7JK31 SE36										
授業科目名 <英訳>	Introduction-Focus I Seminar (KBR) A Introduction-Focus I Seminar (KBR) A					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　VASUDEVA, Somdev				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火2	授業形態	演習	使用言語	英語
題目	Introduction to Indian Aesthetics										

[授業の概要・目的]

This course is designed as a general introduction to the theory and practice of Indian aesthetics. It provides two things: 1) a historiographic survey of the most influential authors, works, and theories; and 2) a narrative account of the major debates and disputes that led to specific evolutions of doctrine and practice.

[到達目標]

Students will be introduced to different styles of scholarship and different methods of analysis current in South Asian studies. The aim is to familiarise students with topics of ongoing debate and to provide them with tools to meaningfully engage with newly emerging literature.

[授業計画と内容]

Week 1 What is our goal? Introduction to the sources and languages.
Week 2 The challenge of South Asian polyglossia, heteroglossia and hyperglossia. What is the point of historiography? How can we periodize and localize South Asia?
Week 3 Bharata’s Natyasastra, The Foundational Text, Theatre, Dance, Music, Poetry and Other Arts
Week 4 Early Development of the Rasa Theory
Week 5 The Early Rhetoricians: Bhamaha and Dandin
Week 6 Competing Categories I: Vamana and his Virtues; Defects; Textures; Styles
Week 7 Competing Categories II: Rudrata and the Systematisation of Ornaments of Sound, Sense, and Both
Week 8 Competing Categories III: Anandavardhana and the New Paradigm: Denotation, Implication, Suggestion, Sentiment
Week 9 The Synthesizers: Bhoja and Mammata
Week 10 Ruyyaka and the Epistemology of Aesthetics
Week 11 Sobhakara's Modal Aesthetics
Week 12 Aesthetics as Theology: Visvanatha, Simhabhupala and the Bhakti Movements
Week 13 Aesthetics and the New Style of Philosophy: Appayadiksita and Jagannatha
Week 14 The Unexpected Return of Figurative Poetry
Week 15 Concluding Summary

[履修要件]

Regular reading of assigned work and participation in the group discussions.

Introduction-Focus I Seminar (KBR) A (2)へ続く↓↓↓

Introduction-Focus I Seminar (KBR) A (2)

[成績評価の方法・観点]

In class, discussion and contextualization of the assigned readings (40%).One response paper to the discussions of the readings (30%). Homework (30%).

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

Introduced during class

[授業外学修（予習・復習）等]

The participants are expected to attend every class. The weekly readings of the short sections should take about one hour of preparation for each class.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目43

科目ナンバリング	G-LET36 7JK32 SE36										
授業科目名 <英訳>	Introduction-Focus I Seminar (SEG) A Introduction-Focus I Seminar (SEG) A					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　安里　和晃				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金2	授業形態	演習	使用言語	英語
題目	Qualitative Research and Community Fieldwork in Kyoto										

[授業の概要・目的]

This class will cover social research methods, mainly qualitative research. In view of the relaxed restrictions on movement under COVID-19, we are also planning to conduct fieldwork.

Social research is a process and method of recognizing and understanding social phenomena by collecting data from the real world through experience, observation, participation, interviews, action, questionnaires, and so forth, and then by analyzing, interpreting, and integrating the obtained data. Through social research, we become aware of why certain phenomena occur, the relationship between structure and agency, the gap between institutions and reality, and how people think and feel the way they do. Finally, researchers approach social reality through research and sometimes change reality through action. Although there are many books on social research methods, this class will focus primarily on how to think about methodology rather than discussing methodology per se as a technical issue.

During the first month, a lecture is given on his research experiences. The purpose is to stimulate discussion by making his experience a reference point. Then we will read some literature on qualitative research covering conventional interview research, which is subjective-objective binary used by many researchers. This will be useful for students in conducting qualitative research. In addition, we will also deal with research on colonial/post-coloniality, low-end globalization, and papers on non-binary research such as action research and commitment. Though spotty for this class, fieldwork will also be conducted at social welfare facilities, public schools, and the historical buraku community.

[到達目標]

To be able to conceptualize society through primary data gathering in Kyoto. This class requires field research within Kyoto to conceptualize Kyoto itself so that students can grasp Kyoto by collecting data and interpreting what is going on through field visit.

[授業計画と内容]

The organization of the course is as follows.
1. introduction
2. research experience (1) fieldwork in a rural community
3. research experience (2) interviewing migrants/stakeholders
4. research experience (3) approach to the vulnerable and reciprocity in research
5. research experience (4) advocacy
6. visiting migrants’ community
7. reading ethnography (1)
8. reading ethnography (2)
9. reading ethnography (3)
10. visiting community (buraku)
11. reading ethnography (4)

Introduction-Focus I Seminar (SEG) A (2)へ続く↓↓↓

12. reading ethnography (5)
13. reading ethnography (6)
14. visiting community (education)
15. conclusion / feedback

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

reflection papers(50%) and term paper(50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

Corrigall-Brown, Catherine, 2020, Imagining Sociology: An Introduction with Readings, 2nd ed., Ontario: Oxford University Press Canada.
Marvasti, Amir, B., 2004, Qualitative Research in Sociology, London: Sage Publications.
Mirfakhraie, Amir, 2019, A Critical introduction to Sociology: Modernity, Colonialism, Nation-Building, Post-Modernity, Dubuque: Kendall Hunt Publishing Company.
Scheper-Hughes, Nancy, 1995,“The Primacy of the Ethical: Propositions for a Militant Anthropology,” Current Anthropology, 36(3): 409-440.
Scheper-Hughes, Nancy, 2009,“The Ethics of Engaged Ethnography: Applying a militant Anthropology in Organs-Trafficking Research,” Anthropology News: 13-14.
Francis, Nyamnjoh, B., 2015,“Beyond an evangelising public anthropology: science, theory and commitment,” Journal of Contemporary African Studies, 33 (1): 48- 63.

[授業外学修（予習・復習）等]

This course is also available for those who plan to write a paper without using qualitative research methods.

（その他（オフィスアワー等））

Please make an appointment through the email below.
asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp
(@) indicates @

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目44

科目ナンバリング	G-LET36 7JK33 SE36										
授業科目名 <英訳>	Introduction-Focus I Seminar (VMC) A Introduction-Focus I Seminar (VMC) A					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　講師　Bjorn-Ole Kamm				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水3	授業形態	演習	使用言語	英語
題目	Play, Transcultural: Interdisciplinary Game Studies 101										

[授業の概要・目的]

Game analysis, game studies, or ludography exemplify different names and approaches to the growing field of research on games and gaming. Studying the meaning of playing digital and analog games and their complexity as (trans-) cultural artifacts asks for combining new and old research tools from the humanities and social sciences -- and more because gaming relates to many spheres of human activity. This practice-oriented and interactive seminar focuses on theoretical concepts and practical analytical techniques to engage transculturality in the cross-disciplinary research field of games.
The course engages questions of what makes a game, considering classics, such as Huizinga’s Homo Ludens and the often-misunderstood tool of the "magic circle" of play, taking cues from Wittgenstein’s family resemblance, and exploring the dynamic discourse of game design with Salen and Zimmerman’s Rules of Play. Primarily, we will deal with approaches to analyzing games as complex media artifacts that exist in being played. Thus, the course offers concrete step-by-step guidelines for researching the context, formal, narrative, and visual elements, and the interactive and immersive aspects of games. In this, we will also pay attention to community-building moments and border-crossing flows, questions of representation and appropriation.
The theoretical input and practical guidelines form the basis for practical exercises in applying these methodologies to concrete cases of the student’s choosing.
The course primarily addresses JDTS and MATS students of the VMC focus in their first semester but also welcomes students in their second year who are about to define their MA thesis topic. The course requires students to actively participate, do regular written homework and occasionally work in teams.

Study Focus: Visual, Media and Material Culture. Modules: Introduction to Transcultural Studies.

[到達目標]

The course seeks to establish an understanding of theories of transculturality, interactivity, immersion, and user agency and various angles of valuable methodology for the study of games and gaming. Building on key literature of game studies since Aarseth’s “Playing Research” and a Wittgensteinian approach to cultural practices, students will acquire knowledge and skills in developing a matching research design for studies sensitive to the interactive nature of games, and the role of actors and materials alike.
Students will apply key methodologies to contemporary case studies, such as qualitative visual and textual analysis of videogames, cyber-ethnography of gamers, or the analysis of the physical embodiment of fictional characters in live-action gaming. The course aims to assist students in taking the leap to a position of knowledge production and thus focuses on practical exercises and training in academic presentation skills.

[授業計画と内容]

The following general structure will guide the schedule of course sessions. A detailed plan for each class will be determined depending on the number of and the feedback from the participants, and will be announced in

Introduction-Focus I Seminar (VMC) A (2)へ続く↓↓↓

class.
(1) The first sessions introduce students to the history and discourse of game studies, actor, network, and practice theories and appropriate methods for studying gaming. [Weeks 1-5]
(2) The class decides on a shared question for project investigations, a specific game, and appropriate methods. As networks of humans and artifacts (media), games necessitate analyses of contents as well as "users." Accordingly, and if the number of participants permits, the class is divided into different project groups (e.g., context analysis, analysis of formal elements, participant observation in virtual worlds or in live-action games, cyber-ethnography of players), working on the same game from different angles (triangulation). [Weeks 6-10]
(3) Employing an e-learning environment (forums, journals), the groups plan and execute the projects under the instructor's supervision. Finally, the groups present results and discuss problems and achievements according to the overall study question. [Weeks 11-15]

The lectures, individual preparations (homework/feedback), and group projects will figure 1/3 of the course each.

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

All students: Homework (20%), project work, presentation and report (50%), feedback (10%), active participation (20%). For a full seminar (8 ECTS): A research paper (counting 30% of the overall grade).

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
The course materials as well as lecture slides will be made available via the course webpage.
The course takes some guiding ideas from Fernandez-Vara’s Introduction to Game Analysis, Salen and Zimmerman’s Rules of Play, and Boellstorf et al. Ethnography and Virtual Worlds. Reading their introduction/book is not mandatory but parts of these books may be obtained prior to the course by contacting the instructor.

[授業外学修（予習・復習）等]

Participants need to prepare one reading before each in-class session and are asked to write short comprehension essays afterwards. During project phases, participants will conduct group work and submit meeting protocols afterwards. Preparation and review require at least one hour.

Introduction-Focus I Seminar (VMC) A (3)へ続く↓↓↓

Introduction-Focus I Seminar (VMC) A (3)

（その他（オフィスアワー等））

Consultation (office hours) by appointment. The course PandA webpage will be available to download the course material.
Please contact the instructor Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK35 LE36										
授業科目名 <英訳>	Introduction-Focus I Seminar (SEG) B Introduction-Focus I Seminar (SEG) B					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定講師 ERICSON, Kjell David				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	その他	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Transnational Japanese History Seminar: Migration, Labor, and Environment										

[授業の概要・目的]

This seminar-style course introduces students to recent approaches to the transnational study of Japanese history. In fall 2021, our focus will be on issues of migration, labor, and the environment. We will read about the history of diaspora and settler colonialism while delving into more intensive study of places beyond what might form the typical geographic focus of a course on Japanese history. In addition, the seminar is set up to be an interactive, hands-on introduction to ways of doing historical research in multi-lingual archives. A major feature of past iterations of this course has been its collaborative format, which brings students at Kyoto University into conversation with students working in parallel on topics in transnational Japanese history at Zurich University.

(Please note however that the precise outlines of the collaboration for 2023-24 are not clear yet.)

[到達目標]

By the end of the course, students will:

Better understand recent trends in the study of transnational Japanese history, particularly with regard to the history of migration, labor, and the environment.

Have greater familiarity with the process of multi-lingual historical research. This includes ways of finding sources, reading them, forming arguments, and addressing ongoing academic debates.

Improve their ability to express themselves in speech and in writing.

[授業計画と内容]

Week 1: Introduction
Week 2: Approaches to Diaspora and Settler Colonialism
Week 3: Settler Colonialism in the Japanese Empire
Week 4: Diaspora and Settler Colonialism beyond the Empire
Week 5: Hawaii**
Week 6: Singapore**
Week 7: The World of the Arafura Sea**
Week 8: Central and South America**
Week 9: The North American Pacific Northwest**
Week 10: Returning to Categories of Diaspora and Settler Colonialism
Weeks 11-13: Working on Individual Research Projects: Consultations and Peer Review
Weeks 14-15: Final Presentations

Introduction-Focus I Seminar (SEG) B (2)へ続く↓↓↓

Introduction-Focus I Seminar (SEG) B (2)

** These meetings will involve hands-on discussion and collaborative assignments with Zurich University students. Due to time differences, the goal is to hold these classes in the evening starting at 18:00. Please keep this in mind.

(Please note that the content and order of topics is subject to change.)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Evaluations will be based on attendance (20%), discussion participation (20%), reading responses (20%), and a final research paper (40%).

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

[教科書]

Most readings will be supplied as PDF files. Additional books will be available in the library.

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

This course is open both to undergraduate and graduate students, but please note that the course will feature a substantial amount of discussion in English. If you have any questions about the course please contact the instructor.

（その他（オフィスアワー等））

Weekly office hours will be held along with individual consultations by request.

Please be aware that the current plan is to hold 5 of the course meetings in the evening starting at 18:00 to coordinate with students at Zurich University. Please refer above to the course plan and let the instructor know if you have any additional questions or concerns.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 7JK36 SE36										
授業科目名 <英訳>	Introduction-Focus I Seminar (VMC) B Introduction-Focus I Seminar (VMC) B					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　Mitsuyo Wada-Marciano				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火4,5	授業形態	演習	使用言語	英語
題目	Transcultural Cinema Forum 2023										

[授業の概要・目的]

This course examines contemporary East Asian cinemas ’ transnational current at various levels of industry, genre, filmic style, and global commodification. Despite Hollywood cinema ’ s historical dominance of the global cinema market, the ways in which cinema is disseminated have no longer been monolithic, especially in this age of online. Such cultural traffic has occurred through negotiations among locales, regions, and nations, across East Asian countries and Hollywood as well.

This two-month intensive coursenscrutinizes the dynamic between the global and the local by focusing on those East Asian cinemas ’ strategies towards globalization and regionalization. The course has been constructed in multiple sections, investigating transcultural aspects in cinema with specific topics, provided world-known filmamkers, producers, and film scholars.

[到達目標]

This course is designed for all students who are interested in screen culture in Asia and other areas. Attending lectures, which will be held on Tuesdays in class, is mandatory in order to discuss both films and reading assignments during the classes.

[授業計画と内容]

Week 1-2 April 4

Introduction

Week 3-4 April 11

Filmmaker John Junkerman

Talk Title:
“ The Prism of Postwar Okinawa ”

Screening:
Okinawa: The Afterburn (2015, dir. John Junkerman, a bit more than 2h.)

Reading Assignments:
John Junkerman, “ Base Dependency and Okinawa ’ s Prospects: Behind the Myths. ” https://apjjf.org/2016/22/Junkerman.html

Ishizaka Kenji, “ ‘ Okinawa: The Afterburn ’ #8212Victor ’ s Images, Words That Do Not Form Words. ” https://apjjf.org/-Ishizaka-Kenji/4379

Introduction-Focus I Seminar (VMC) B(2)へ続く↓↓↓

Week 5-6 April 18

Filmmaker Haruka Komori

Talk Title: “ Recording and Representation ”

Screening:
Trace of Breath（Iki no ato, 2016, dir, Haruka Komori, 93min)

Reading Assignments:
Double Layered Town/Making a Song to Replace Our Positions; An Interview with Komori Haruka, Seo Natsumi (Directors); The Possibilities of Storytelling, ” YIDFF 2019 Cinema with Us 2019.
https://www.yidff.jp/interviews/2019/19i120-5-e.html

『FIELD RECORDING vol.03
特集：経験を受け渡す』https://asttr.jp/about/astt_3/index.html
“ Trace of breath: Interview with Haruka Komori. ”

Week 7-8 April 25

Filmmaker Lee Ilha

Talk Title: “ Playing God ” #8212This is one of the soundtracks of the film linked to the Youtube.

Screening:
I am More (Mo-eo, 2021, dir. Lee Ilha, Ih 30 min.)

Reading Assignments:
It will be good for students to watch those musics with the Japanese subtitles on the YouTube in advance.
https://youtu.be/Mgr_UwY1OZk
https://youtu.be/kgFTNgUkunY

Week 9-10 May 2
No Class

Week 11-12 May 9

Dr. Johan Nordstrom

Lecturer at the Department of Global Education, Tsuru University

Talk Title: TBA
Screening: TBA
Screening: TBA
Reading Assignments:
TBA

Introduction-Focus I Seminar (VMC) B(3)へ続く↓↓↓

TBA

Week 13-14 May 16

Dr. Stephano Baschiera

Professor of Film and Screen Industries, Queen’s University Belfast, UK

Talk Title: TBA
Screening: TBA
Screening:
Reading Assignments:
TBA
TBA

Week 13-14 May 23

Videographer Yamashiro Chikako

Associate Professor, Faculty of Fine Arts/Department of
Inter-Media Art, Tokyo University of the Arts

Talk Title: **記憶の継承とフィクションについて**

Screening: **土の人**/Mud Man

Reading Assignments:
https://kadist.org/work/mud-man/
https://www.tokyocontemporaryartaward.jp/en/winners/2020-2022/winner02_interview.html

Week 15-16 May 30

Producer Miyuki Fukuma

Film Producer, Bunpuku

Talk Title: Crossing Borders in Filmmaking: How to Produce International Co-production Projects#8212Thinking about Making Films across Languages and Cultures through Case Studies of the French-Japanese co-production La V#233rit#233 (Shinjitu, 2019) and the Korean film Broker (Babi Buroka, 2022)

Pre-Screening: The Truth (Original title: La V#233rit#233) by Kore-eda Hirokazu
  Broker (Babi Buroka, 2022) by Kore-eda Hirokazu
Reading Assignments:
Linda Ehrilich, "Relative Truth"
http://braidednarrative.com/wp-content/uploads/2021/08/Relative-Truth_-For-Web.pdf

Introduction-Focus I Seminar (VMC) B(4)へ続く↓↓↓

「こんな雨の日に　映画「真実」をめぐるいくつかのこと」（是枝裕和、2019年）
https://www.amazon.co.jp/%E3%81%93%E3%82%93%E3%81%AA%E9%9B%A8%E3%81%AE%E6%97%A5%E3%81%AB-%E6%98%A0%E7%94%BB%E3%80%8C%E7%9C%9F%E5%AE%9F%E3%80%8D%E3%82%92%E3%82%81%E3%81%90%E3%82%8B%E3%81%84%E3%81%8F%E3%81%A4%E3%81%8B%E3%81%AE%E3%81%93%E3%81%A8-%E6%98%AF%E6%9E%9D-%E8%A3%95%E5%92%8C/dp/4163911014

福間のインタビュー
https://note.com/tiffgakusei/n/n1a0ab26d5a5c**（日本語）**
https://note.com/tiffgakusei/n/n68c11bff5134**（日本語）**

Last Week
June 6 (Tuesday) 15:00-18:00
Student Presentations

[履修要件]

How To Get the Most Out of This Course:

1. Do your readings before coming to class. Use a highlighter or pen to make notes when you read. Develop a strategy for note-taking. Don’t let tough sections get you bogged down. Skim if necessary and then go back and read them more thoroughly later. Re-read.

2. Bring your reading materials for the week to class.

3. Keep this course syllabus with you through the semester. It contains valuable information and lets you know what we are doing, and when.

4. Attend all screenings and lectures.

[成績評価の方法・観点]

Course Requirements:

Attendance and Active Participation 25%

Short Essay Assignment 20%

Write a short paper analyzing one of the reading assignments. Your paper should be comprised of two sections: (1) summarize your chosen material and indicate what idea(s) that you most agree in the reading material and (2) point out problem(s) of the material, i.e. criticism.

You will submit your assignment on May 9th (Tuesday), in class. 3 page in length is maximum (1.5 space; font 11). No late assignments will be accepted.

Introduction-Focus I Seminar (VMC) B(5)へ続く↓↓↓

Introduction-Focus I Seminar (VMC) B(5)

Presentation on your final essay topic 15%

All presentations will be held on June 13th (Tuesday) in class.
The total length of your presentation is 15 minutes.
Provide a one-page outline of your presentation a day before via email.
Evaluations of presentations are based on the following aspects:
1. level of thesis (focused, connected with any specific discourse related with our discussions in class, interesting ideas, etc.)
2. adequate supports (quality of research on the topic, awareness of the existing literature, etc.)
3. organization of presentation

Final Essay 40%
You will write your final essay based on your presentation. 15 pages in length is maximum (1.5 space; font 11), and its due date is on June 27th (Tuesday) by noon. Print out and submit your essay in my mail box. No late papers will be accepted.

[教科書]

授業中に指示する
We will be reading varoius references, and the reading materials will be available digitally (the information will be provided in the first class)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

All students must come to each class after reading reading materials.

I might be assigning students to go to movie theater and view one or two documentary films during the semester.

（その他（オフィスアワー等））

I usually stay in my office on Monday and Tuesday in the Spring semester, but it's safe to make an appointment with me via email first, if you want to meet me. My email is <mwadamar@gmail.com>.

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

大学院共通科目47

科目ナンバリング	G-LET36 7JK06 SE36										
授業科目名 <英訳>	Introduction-Research Skills Introduction-Research Skills					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　講師　Bjorn-Ole Kamm				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水4	授業形態	演習	使用言語	英語
題目	Basic Research Skills										

[授業の概要・目的]

This course introduces useful and essential skills for academic research to new JDTS students. Besides providing essential academic skills (using citation systems, finding topic-related literature in the Kyoto university and Heidelberg university library and electronic databases, time management, good scientific practice), the course will also prepare the students for preparing and giving good presentations and writing seminar papers within the JDTS program, including practical advice on formalities and layout. Main questions we will address are: Where and how do I find literature for my presentation and term paper? How do I prepare and give a good presentation? How does a term paper look like? What makes a good term paper? What needs to be included in a term paper? How do I quote correctly and create a bibliography? How to manage my time efficiently? Depending on corona risk levels, the course also includes a guided tour through the main branch of the university library on the Yoshida campus.

Study Focus: all.
Module: Introduction to Transcultural Studies.

[到達目標]

Students will acquire basic academic skills for conducting research and obtain necessary expertise for preparing good presentations and term papers.

[授業計画と内容]

Please see PandA for a detailed course schedule. We will cover the topics listed below.
(1) What is Research?
(2) Research Questions
(3) Working Hypotheses
(4) Finding Sources
(5) Quality and Credibility of Sources
(6) Oral Presentations I
(7) Oral Presentations II
(8) Oral Presentations III
(9) Term Papers I
(10) Term Papers II
(11) Term Papers III
(12) Plagiarism
(13) Bibliography and Citation Software
(14) Time Management
(15) Project Management

Introduction-Research Skills(2)へ続く↓↓↓

Introduction-Research Skills(2)

[履修要件]

Mandatory for all first-year students of Transcultural Studies. Please make sure you can access all class material and have a sufficient internet connection for the Zoom meetings. If you have technical issues, please contact the instructor as soon as possible.

[成績評価の方法・観点]

Students' grades will be weighed according to the following scheme:
Active participation 30%
Homework and Exercises 30%
Final term essay 40%

[教科書]

授業中に指示する
The course materials will be made available via the course PandA webpage.

[参考書等]

（参考書）
Denzin, Norman K. 2009. 『The Research Act: A Theoretical Introduction to Sociological Methods』（New Brunswick: Aldine Pub）
Levin, Peter. 2007. 『Skilful Time Management.』（Maidenhead: Open University Press）
Turabian, Kate L. 2010. 『Student's Guide to Writing College Papers. 4th ed., rev. by Gregory G. Colomb, et al.』（Chicago: University of Chicago Press）
Turabian, Kate L. 2013. 『A Manual for Writers of Research Papers. 8th ed., rev. by Wayne C. Booth, et al.』（Chicago: University of Chicago Press）
Wallwork, Adrian. 2010. 『English for Presentation at International Conferences.』（New York: Springer）
Selection; excerpts will be provided in class.

[授業外学修（予習・復習）等]

Every participant is expected to carry out his or her own small research project and give a short presentation in the course. They will be given enough time for assignments in class but might need to do some extra work out of class.

（その他（オフィスアワー等））

Consultation (office hours) by appointment.Please contact the instructor Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目48

科目ナンバリング	G-LET36 7JK07 SE36										
授業科目名 <英訳>	Skills for Transcultural Studies I-English Skills for Transcultural Studies I-English					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定講師 ERICSON, Kjell David				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水2	授業形態	演習	使用言語	英語
題目	Advanced skills for humanities research in English: reading, writing, and discussion										

[授業の概要・目的]

The goal of this course is to familiarize humanities-focused students with different genres of academic texts and to develop their abilities to express themselves to international audiences, both in writing and in speech. Simply put, by the end of the course students should be better able to participate in English-language research activities.

[到達目標]

Students will develop their analytical skills and their understanding of how to organize research findings effectively. Intensive reading and writing practice will acquaint them with the vocabulary, grammatical structures, and modes of expression characteristic to academic papers. Presentations and discussions will improve their ability to express opinions about complex academic topics in English.

Study Focus: all.
Modules: Skills in Transcultural Studies I.

[授業計画と内容]

The primary assignments will be two 5-7 page essays. For the first essay, students will be making a persuasive argument. For the second essay, students will be doing a close analysis of a text (or texts), chosen in consultation with the instructor, on a topic related to their research interests. There will be several steps before submitting each essay. First, in the leadup to each essay students will complete three shorter writing exercises. Second, students will read one (or more) essays by their classmates, then provide written and oral feedback.

The final project, preparations for which we will discuss throughout the course, is a 10- to 15-minute presentation on a topic related to students' research interests. Essay 2 will provide material around which students can structure their presentations.

1. Introduction
2. Reading and Summarizing
3. Sentences and Paragraphs
4. The Structure of Arguments
5. Using Sources and Plagiarism
6. Coherence, Cohesion, and Clarity
7. Usage Rules and Style Suggestions
8. Peer Review Session 1
9. Academic Genres and Conventions
10. Modes of Presentation
11. Introductions and Conclusions

Skills for Transcultural Studies I-English(2)へ続く↓↓↓

12. Strategies for Editing and Revision
13. Peer Review Session 2
14. Final Presentations
15. Discussing the Final Papers

Please note that the above content of the course is subject to change. A finalized plan will be determined based on student numbers and feedback.

[履修要件]

Evidence of advanced English skills (a TOEIC score of 700 or higher).

[成績評価の方法・観点]

Class Participation: 15%
Exercises: 20%
Essay 1: 20%
Essay 2: 25%
Final Presentation: 20%

[教科書]

使用しない
Reading materials will be provided as PDF files.

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連ＵＲＬ）

https://www.cats.bun.kyoto-u.ac.jp/

[授業外学修（予習・復習）等]

Students will have to read the assigned papers, book chapters, etc, before they are scheduled for class discussion. They are expected to prepare their presentations and essays on their own; assistance with the selection of topics will be offered when necessary.

（その他（オフィスアワー等））

Office hours: by appointment.

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

大学院共通科目49

科目ナンバリング	G-LET36 6JK09 LE36										
授業科目名 <英訳>	Foundations I-Seminar (KBR) Foundations I-Seminar (KBR)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定講師 Tao PAN				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水5	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Scripts, Languages and Buddhist Scriptures										

[授業の概要・目的]

This course is designed for the study foci “ Knowledge, Belief and Religion ” (KBR) and “ Visual, Media and Material Cultures ” (VMC) and consists of the following three parts:
I. Scripts and Writing Systems;
II. Languages and Words
III. Translation Studies of Buddhist Scriptures

[到達目標]

Based on the theories of Transcultural Studies, this course offers numerous concrete examples for transculturality in the textual and linguistic aspect as well as from the perspectives of creation and dissemination of knowledge and interaction between diverse agencies on the macroscopic scale. Investigations on the microscopic scale, on the other hand, are concerned with how the formative and transformative processes result in certain cultural manifestations in the spheres of writing systems, construction and transmission of registers as well as translation studies of Buddhist scriptures.

[授業計画と内容]

I. Scripts and Writing Systems
Week #01 General Introduction
1.1. Writing System in the World
1.2. Logic of Writing
1.3. Interplay between Scripts and Languages (e.g. Scripts and Word Forms)
References: The world writing systems; Handbook of Comparative and Historical Indo-European Linguistics Volume 1, 5. The writing systems of Indo-European;

Week #02 Decipherment Part 1
2.1. Brahmi Script
2.2. Case Study: Asoka Inscription in Brahmi;
2.3. Mycenaean Greek Alphabet (Linear B)
2.4. Case Study: Documents KN Ca 895 and PY Ta 722

Week #03 Decipherment Part 2
3.1. Kharosthi Script
3.2. Case Study: Asoka Inscription in Kharosthi;
3.3. Case Study: Coins in Greek and Gandhari
3.4. Historical Development of Brahmi and Kharosthi Script

Foundations I-Seminar (KBR)(2)へ続く↓↓↓

References: Salomon 1998 Indian epigraphy; Falk 2006 Asokan Sites and Artefacts; Handout (glass_ salomon_kharosthi); A companion to linear B Mycenaean Greek texts and their world 1;
Website: http://www.indoskript.org ; http://calibra.classics.cam.ac.uk ; https://damos.hf.uio.no/1 ;

Week #04 Scripts along the Silk Road
4.1. Scripts and Languages in Turfan Collection
4.2. Scripts and Dating (Chinese Calligraphy)
4.3. Case Study: Scripts and Buddhist Sects (Saindhavi Script)

References: Fujieda **藤枝晃** Tunhuang Manuscripts Part II; Fujieda 1989 Earliest Types of Chinese Buddhist Manuscripts Excavated in Turfan; Tsui, Chung-hui **崔中慧** 2020 Chinese Calligraphy and Early Buddhist Manuscripts; Dragomir Dimitrov 2020 The Buddhist Indus Script and Scriptures: on the so-called Bhaiksuki or Saindhavi Script of the Sammitiyas and their Canon;

Week #05 Recognise and Read Part 1
5.1. Case Study: Read Skt. Manuscripts (Udanavarga, Catalogue System “ SHT ”)
5.2. Case Study: Read Gandhari Manuscript (Dharmapada)

Week #06 Recognise and Read Part 2
6.1. Case Study: Read Skt.-Toch. Bilingual Manuscripts (“ THT ”, THT542, THT1018)
6.2. Case Study: Read Bactrian Manuscript

Reference: Sander 1968 Palaographisches zu den Sanskrithandschriften; Bernhard 1965 Udanavarga; Brough 1962 The Gandhari Dharmapada. London; Sims-Williams 2007 Bactrian documents from Northern Afghanistan 2 Letters and Buddhist texts;
Website: Sanskrit: http://idp.bbaw.de/ ; Gandhari: https://gandhari.org/ ; Tocharian https://www.univie.ac.at/tocharian ;

II. Languages and Words
Week #07 Tarim Basin as Contact Zone
7.1. Literary Survey of Serindia
7.2. Linguistic Survey of Serindia

Week #08 Languages and Texts along the Silk Road Part 1
8.1. Sanskrit Literature
8.2. Gandhari Literature
8.3. Tocharian Translations of Buddhist Texts

Reference: Wille 2005 Survey of the Sanskrit Manuscripts in the Turfan Collection; Tremblay 2007 Spread of Buddhism in Serindia; Tremblay 2001 Pour une histoire de la Serinde;
Website: https://gandhari.org/home ;

Week #09 Translation and Loanwords Part 1
9.1. General Introduction (agencies, directions, registers)
9.2. Loanwords in English (from French, Nordic, Latin, Japanese, etc.)
9.3. Loanwords in Japanese (from English, German, Dutch, etc.)

Foundations I-Seminar (KBR)(3)へ続く↓↓↓

Week #10 Translation and Loanwords Part 2
10.1. Hittite, Akkadian & Sumerian (script involved)
10.2. Germanic Loanwords into Slavic and Celtic
10.3. Circular Borrowing A >> B >> A ’ (e.g. Skt. pustaka- ‘ book ’)
10.4. Buddhist Loanwords in Chinese, Tibetan, Tocharian, Old Turkic

Reference: Oxford English Dictionary; Hethitisches Handworterbuch 2008 2nd; Handbook of Comparative and Historical Indo-European Linguistics vols 2 & 3; Adams 2013 A dictionary of Tocharian B; Wilkens 2021 Handworterbuch des Altuigurischen;

Week #11 Translation and Loanwords Part 3
11.1. Case Study: Middle Chinese Texts in Brahmi Script
11.2. Case Study: Origin of Chin. **觀音** guan yin
11.3. Case Study: Origins of Chin. **沙門** sha men, **和尚** he shang
Reference: Karashima 2017 On Avalokitasvara and Avalokitesvara; Pan 2021 Handout; Skjaervo 2004 This most excellent shine of gold 2; Bailey 1979 Dictionary of Khotan Saka;
Website: https://gandhari.org/home ;

Week #12 Languages and Texts along the Silk Road Part 2
12.1. Khotanese Translations of Buddhist Texts
12.2. Sogdian Translations of Buddhist Texts
12.3. Uighur Translations of Buddhist Texts

Reference: Emmerick 1992 Literature of Khotan; Maggi Khotanese Literature; Yoshida 2015 A handlist of Buddhist Sogdian texts; Zieme Local Literatures Uighur in Brill Encyclopedia Buddhism; Karashima **辛嶋** 1994 **『長阿含経』の原語の研究―音写語分析を中心として**; Karashima 2016; Karashima Features of the Underlying Language of Zhi Qian ’ s Chin. Transl. of Vkn;

III. Translation Studies of Buddhist Scriptures
Week #13 Transculturality in Translatology
13.1. Transmission of Buddhist Literature and Early Chinese Translations
13.2. Translation Techniques and Loan Translation (Calque)
13.3. Cultural Entanglements of Sanskrit, Middle Indic, Middle Iranian, Tocharian and Chinese Transmissions.

Week #14 Vajracchedika
Case Study: Chinese translations of Vajracchedika by Kumarajiva, Dharmagupta and Xuanzang from perspectives of transcultural studies.

Week #15 Review of Course Materials

Reference: Karashima **辛嶋** 1994 **『長阿含経』の原語の研究―音写語分析を中心として**; Karashima 2016; Karashima Features of the Underlying Language of Zhi Qian ’ s Chin. Transl. of Vkn;

Foundations I-Seminar (KBR)(4)へ続く↓↓↓

Foundations I-Seminar (KBR)(4)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Assessment will be based on class performance (50% = attendance 20% + one presentation 30%) and final assignment (50%)

To JDTS/MATS students: This course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Students will be required to read the materials in advance and come prepared to discuss them.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK09 LE36										
授業科目名 <英訳>	Foundations I-Seminar (KBR) Foundations I-Seminar (KBR)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定准教授 Justine LE FLOC'H				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Introduction to gender studies										

[授業の概要・目的]

The objective of this course is to read and discuss some of the major theoretical texts of gender studies and feminist thought (Adichie, Beauvoir, Butler, Crenshaw, Gilligan, hooks, Sedgwick, Spivak, etc.). These readings will give students the opportunity to develop their knowledge of key concepts in gender studies (such as intersectionality, care, ecofeminism, heteronormativity, etc.) to examine the singularity of the ideas of the authors addressed. The selected texts will come from different geographical and cultural areas and from different disciplines.

[到達目標]

- Provide students with an understanding of the key concepts and issues in gender studies
- Highlight the diversity of perspectives in gender studies
- Promote gender equality and encourage the fight against discrimination
- Develop students skills for collective discussion about gender issues

[授業計画と内容]

Week 1: introduction. Weeks 2-11: Presentation and group discussion of an article or book chapter on a weekly basis. Weeks 12-14: Student oral presentations. Week 15: Feedback.

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Short quiz will be assigned on a regular basis to encourage and validate the reading routine.
Students will be asked to write an English essay about gender studies with a intercultural mediation purpose (i.e. an English presentation of a non-translated book written in their native language; an interview of a researcher or a public figure; a presentation of an activist association, etc.). This essays will be presented and discussed in class at the end of the semester.

*

Active participation and attendance: 20%
Short quiz on the readings: 30%
Essay: 40%
Oral presentation: 10%.

Foundations I-Seminar (KBR) (2)へ続く↓↓↓

Foundations I-Seminar (KBR) (2)

[教科書]

使用しない

The instructor will provide all the reading material. However, students are expected to bring a notebook to take notes during each lecture, as well as a portfolio to collect the documents.

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Students will be given weekly reading assignments to prepare before each class.

（その他（オフィスアワー等））

Please discuss any appointment with the teacher.

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

科目ナンバリング	G-LET36 6JK10 LE36										
授業科目名 <英訳>	Foundations I-Seminar(SEG) Foundations I-Seminar(SEG)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定講師 ERICSON, Kjell David				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金1	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	What Is Transcultural History?										

[授業の概要・目的]

Although national borders typically structure academic research, historical change extends beyond individual nation-states. In many cases, topics such as imperialism, migration, travel, scientific and technological change, capital flows, artistic movements, and language cannot be grasped without examining supra-national and sub-national scales.

This course allows students to examine the methods, assumptions, and findings of recent historical work that can be variously (and perhaps simultaneously) be classified as "global," "transnational," and "transcultural." A key focus of the seminar is to engage deeply with book-length monographs that cover a wide range of case studies and approaches. Students will evaluate and discuss research that makes use of multi-location, multi-lingual historical archives, field sites, and interview subjects. Along the way, they will have the opportunity to plan global, transnational, and/or transcultural historical projects of their own.

[到達目標]

・To understand recent trends in English-language global, transnational, and transcultural historical research
・To develop research questions that address border-crossing historical problems
・To work with historical archival sources on campus and through online sources
・To enable students to sharpen their skills in critical analysis through structured reading, discussion, written assignments and a small scale research project.

Study Focus: Society, Economy and Governance.
Modules: Focus I-- Foundations I.

[授業計画と内容]

1. Introduction
2. Concepts of Culture
3. Global History for Whom?
4. Archives
5. Space and Place
6. Scale: (Global) Microhistory
7. Mid-Term Exam
8-10 Themes in Migration and Mobility
11. Bodies and Structures Project
12. Fieldwork
13. Environmental Approaches
14. A Knowing World
15. Paper Presentations

Foundations I-Seminar(SEG) (2)へ続く↓↓↓

Foundations I-Seminar(SEG) (2)

(Please note that topics are subject to change)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Attendance, participation, and presentations in class (30%)
Short weekly reading responses (25%)
Midterm essay on course readings (15%)
Final paper (30%)

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

[教科書]

授業中に指示する
At least one copy of the books should be available in the library and through the university's online subscriptions, although in some cases (particularly during the weeks where you are responsible for presenting) it may be advisable to purchase a new or used copy for yourself.

In other cases, articles will be available for download through the university library or distributed before class.

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

・Students are required to read through assigned readings and prepared for the discussions and presentations each week.
・Students are expected to actively participate in preparations for the final project.

（その他（オフィスアワー等））

・Office hours will be held once a week at a fixed time (to be determined) and by appointment.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK10 LE36										
授業科目名 <英訳>	Foundations I-Seminar(SEG) Foundations I-Seminar(SEG)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　KNAUDT，Till				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	２０世紀日本技術社会史										

[授業の概要・目的]

特殊講義の目的は、社会、政治、テクノロジーが相互に関連していることを学生に紹介することである。特に、社会変革のために技術がどのように考案されたか、また、政治思想や社会がどのように技術を構築したかに焦点を当てる。

[到達目標]

技術の社会史・思想史の基本をなす日本近代社会における資本主義構造の立場がどのように形成されたかを理解し，その視点から歴史を吟味し，考察することができるようになる。

[授業計画と内容]

第1回　オリエンテーション
第2回　現在の技術観
第3回～第4回　技術社会史の理論的基礎
第一部　帝国
第5回　鉄筋コンクリートと近代のアジア
第6回　情報通信と帝国
第7回　飛行機と戦争
第二部　戦後日本
第8回　鉄道と労働
第9回　家電と女性
第10回　車と家族
第三部　情報化社会の日本
第11回　エネルギーと環境
第12回　コンピュータと子供
第13回　ロボットと国民
第14回　まとめ
≪期末試験≫
第15回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

討論への積極的な参加（10点）、報告（１回、40点）、試験（50点）により評価する。４回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

Foundations I-Seminar(SEG) (2)へ続く↓↓↓

Foundations I-Seminar(SEG) (2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎週、課題論文を読んで授業の準備をする。多くは英語で行われるので、週に3時間程度は準備に必要である。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK10 LE36										
授業科目名 <英訳>	Foundations I-Seminar(SEG) Foundations I-Seminar(SEG)					担当者所属・職名・氏名	学際融合教育研究推進センター 特定助教 張　子康				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	International Relations in the Early Modern East Asia: The Role of "Intermediaries"										

[授業の概要・目的]

Unlike modern diplomatic relations, which are based on direct negotiations by diplomats representing the two governments, one of the major characteristics of international relations in the early modern (seventeenth century to mid-nineteenth century) East Asia is the significant role played by intermediaries. These intermediaries include various personnel such as merchants, seamen, and priests, but the most important would be the "interpreters". The duties of interpreters in early modern East Asia were much more complex than their modern counterparts. Aside from being the linguistic intermediaries in communications, they also served as negotiators in diplomatic and commercial relations. This course will explore the specific ways in which international relations in the early modern East Asian region were maintained and managed through the role of interpreters and other intermediaries.

[到達目標]

Through this course, students will be able to (1) have a comprehensive knowledge of the historical background on international relations in the East Asian region, and (2) deepen their understanding of the contemporary East Asian region as well. Students will also (3) gain a new perspective on the relative nature of contemporary diplomacy and international relations.

[授業計画と内容]

In this lecture, we will first review the historical characteristics of the early modern East Asian region in light of the latest research in Japanese, Chinese and English languages. Next, we will take a detailed look at the role of intermediaries who operated between China (the Qing Dynasty), which was at the center of the early modern East Asian international order, and Japan, Korea, Ryukyu (present-day Okinawa Prefecture), and Western nations. Lastly, a holistic understanding of the intermediary system in early modern East Asia will be presented through comparative analysis.

1.Introduction
2.Overview on the political, economic and social characteristics of the early modern East Asia(1)
3.Overview on the political, economic and social characteristics of the early modern East Asia(2)
4.Intermediaries in the Sino-Japanese relations (1)
5.Intermediaries in the Sino-Japanese relations (2)
6.Intermediaries in the Sino-Ryukyuan relations (1)
7.Intermediaries in the Sino-Ryukyuan relations (2)
8.Intermediaries in the Sino-Korean relations (1)
9.Intermediaries in the Sino-Korean relations (2)
10.Intermediaries in the Sino-Western relations (1)
11.Intermediaries in the Sino-Western relations (2)
12.Intermediaries in the Japanese-Korean/Dutch relations
13. Comparative analysis of intermediary system
14.Final Presentation

Foundations I-Seminar(SEG) (2)へ続く↓↓↓

Foundations I-Seminar(SEG) (2)

15.Feedback

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Active participation in class - 25%
Final Paper and Presentation - 75%
(- Mid-term progress report - 20%)
(- Presentation of the Final Paper - 25%)
(- Final Paper - 30%)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Students are expected to actively prepare for the final paper, the progress of which will be checked in class.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK10 LE36										
授業科目名 <英訳>	Foundations I-Seminar(SEG) Foundations I-Seminar(SEG)					担当者所属・職名・氏名	経済学研究科 教授　　久野　秀二				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Inclusive Rural Development										

[授業の概要・目的]

【This course is an international collaborative course】

Module 1: According to UN World Urbanization Prospects, since 2007 the urban population has outnumbered the global population living in the rural areas. The situation differs considerably between high- and low-income countries: across most high-income countries, more than 80% of population live in urban areas, while in many low-income countries, the majority of people still live in rural areas. Taking this trend into consideration, many scholars are talking of ‘planetary urbanization’ and de-population of rural areas. The aim of this course is first of all to understand critically the concept of ‘rural’ and analyse the future social, political, and economic prospects for rural areas. Topics of study reflect on the questions are as follows: When has the concept of ‘rural’ emerged in western literature and policies? How are ‘rural’ and ‘rural development’ conceptualised in sociological studies? What are the policies linked to the different conceptualization of the rural? How have rurality and the boundaries between city and town changed/shifted?

Module 2: There have been massive efforts to make rural development more inclusive. What’s included and excluded in rural development practices and discourses are entangled with issues of power. We researchers are part of these power dynamics. Our efforts to include what’s excluded from rural development is part of ongoing democratic struggles and never-ending efforts for responsible researcher. This course discusses responsible research and how can we, as researchers, make rural development more inclusive. It explores analytic frameworks that may help us make visible what’s excluded in rural development studies. It will point out possibilities that would be opened once we make what’s excluded visible. During our four sessions we will survey and explore the productivity of analytics from poststructuralist, postcapitalist, more-than-human, feminist political ecology traditions.

[到達目標]

Students will and enhance their theoretical ‘toolkit’ so they are better able critically to examine key issues in the study of rural development. Throughout the course, students will reflect on their own ontological and epistemological assumptions about the study of rural development.
By the end of the course, students are expected to be able to:
- understand and historically position key approaches and concepts in rural development studies;
- draw on the theories and concepts learned to develop an inclusive approach to assess rural development practices and discourses;
- integrate a more inclusive approach into their own research project/interests;
- critically reflect on their position, practices and responsibilities as rural development researchers; and
- engage in debates on rural development with others who have different opinions while promoting inclusivity.

Foundations I-Seminar(SEG)(2)へ続く↓↓↓

[授業計画と内容]

*The schedule is tentative and will be subject to change.

Module 1: Paradigm Shift and Transition of Rural Development
To answer above-mentioned questions, in the first three weeks we will first go through the main debates on rurality and rural development in rural sociology: from the positivist approach and community studies at the beginning of the XX century to the political economy of agriculture in the post-WWII era, to post-structuralist, cultural and relational approaches after the 1990s. Likewise, we will discuss the new paradigm of rural development in the context of exogenous, endogenous and neo-endogenous rural development theories. In the fourth week, a reflection on the new themes of ‘planetary urbanization’ and the rural urban interface will lead us to critically rethink the categories of rural and urban. Finally, with the help of Michael Carolan’s inspirational work, we will consider what the role of rural sociology could be in an increasingly urban society.
- 1st Session (16th May, Tuesday, 9:00-12:00): The emerging of the ‘rural’ in the United States of America and Europe. From a positivist approach to rurality to the political economy of agriculture
- 2nd Session (19th May, Friday, 9:00-12:00): The turn to a cultural and post-structural approach to rurality. The new rural development paradigm
- 3rd Session (23rd May, Tuesday, 9:00-12:00): Relational approach to rurality and rural development. Networks and globalization.
- 4th Session (26th May, Friday, 9:00-12:00): Urban Age, the Rural-Urban Interface and the Rural Problem.
- 5th Session (30th May, Tuesday, 9:00-12:00): Historical, social and geographical context in differentiating rurality.

Module 2: Critical Approaches to Inclusive Rural Development
- 1st Session (4th July, Tuesday, 9:00-12:00): Making Visible Capitalism’s Others in Rural Development
- 2nd Session (7th July, Friday, 9:00-12:00): Historical and Decolonial Perspectives
- 3rd Session (11th July, Tuesday, 9:00-12:00): More-than-human Intersectionality & Rural Commoning
- 4th Session (14th July, Friday, 9:00-12:00): Toward Embodied Rural Development Scholarship

[履修要件]

A general background in social, political, or economic sciences is assumed. Active participation, including in discussions of the required literature, is expected.

[成績評価の方法・観点]

Grading will be done on the basis of attendance, class participation and a final presentation and/or assignment essay by each student.

[教科書]

Readings will be made available through a Cloud system (e.g. Google Drive). The reading list will be shared with the participating students in due time.

Foundations I-Seminar(SEG)(3)へ続く↓↓↓

Foundations I-Seminar(SEG)(3)

[参考書等]

（参考書）

Readings will be made available through a Cloud system (e.g. Google Drive). The reading list will be shared with the participating students in due time.

[授業外学修（予習・復習）等]

Participating students will be assigned to read required articles or self-selected articles beforehand. Since classes are very interactive, well-preparation for each class is very important for students to participate in discussions. For the first module, two students will be assigned to present a summary and reflection on mandatory assigned readings for each session. For the second module, there could be a small group collective reflection after each session.

（その他（オフィスアワー等））

Information about office hours and other details will be given by emails from the professors respectively

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

科目ナンバリング	G-LET36 6JK11 LE36										
授業科目名 <英訳>	Foundations I-Seminar(VMC) Foundations I-Seminar(VMC)					担当者所属・職名・氏名	立命館大学大学院先端総合学術研究科 准教授 ROTH, Martin Erwin				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	批判的ゲームスタディーズの基礎理論										

[授業の概要・目的]

近年大きく発展してきたデジタルゲームは、文化産業、軍事産業、コンピュータによる生の管理、そしてプラットフォーム資本主義と深く結びついている。本講義では、このようなゲームを批判的に捉えてきたゲームスタディーズの理論的展開を軸に、現代ゲーム文化を考察・検討する。

[到達目標]

デジタルゲームを批判的に捉える意義を理解し、各理論を自信でゲームやデジタルメディアに適用しながら、現代のメディア環境を考察できるようになる。

[授業計画と内容]

1. 批判とは何か：フランクフルト学派を背景に
2. 遊びの概念I
3. 遊びの概念II
4. デジタルプレイのグローバル化
5. ゲームと帝国
6. 表現力 I：機械
7. 表現力 II： ルール
8. 表現力 III： 逸脱
9. 表象I：コンテンツを考える
10. 表象II： ジェンダーとレース
11. 表象III：解釈
12. ゲーミフィケーション
13. メタゲーミング、遊び心
14. 総合討論

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

成績評点は６段階。
討論への積極的な参加（３０％）、レポート（１回、７０％）により評価する。
レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。

Foundations I-Seminar(VMC) (2)へ続く↓↓↓

Foundations I-Seminar(VMC) (2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

各回のテキストを通読して準備すること

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK11 LE36										
授業科目名 <英訳>	Foundations I-Seminar(VMC) Foundations I-Seminar(VMC)					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 想田　和弘				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Learning the Power of Observation: How and Why I Make "Observational" Documentaries										

[授業の概要・目的]

In this intensive course, I will explain how and why I take my particular approach to documentary filmmaking, covering all phases of filmmaking from filming to editing to marketing. It will give students an opportunity to learn how a documentary filmmaker thinks and works. Examining actual day to day problems I face, students will also learn and study various issues around documentary, such as ethics, economics, reality vs fiction, subjectivity vs objectivity, etc. At the end of the course, each student must write and submit a final paper which discusses such issues analyzing my films and methods.

As a professional filmmaker, I have made ten feature length documentaries in the same method and style. I call them "observational films" not only because they are inspired by the tradition of observational cinema, but also because I believe in the power of observation.

When I say "observation" in this context, I mean two things.

Firstly, as a filmmaker I closely look at the reality in front of me and make films according to my observations and discoveries, not based on the assumptions and preconceptions I had before I shot the film. Secondly, I encourage the viewers to observe the film actively with their own eyes and minds.

In order to realize these two aspects, I came up with "Ten Commandments" for me to follow. They are:

1 No research.
2 No meetings with subjects.
3 No scripts.
4 Roll the camera yourself.
5 Shoot as long as possible.
6 Cover small areas deeply.
7 Do not set up a theme or goal before editing.
8 No narration, title, or music.
9 Use long takes.
10 Pay for the production yourself.

Foundations I-Seminar(VMC) (2)へ続く↓↓↓

Foundations I-Seminar(VMC) (2)

[到達目標]

This course will give students an opportunity to learn how a documentary filmmaker thinks and works. Examining actual day to day problems I face, students will also learn and study various issues around documentary, such as ethics, economics, reality vs fiction, subjectivity vs objectivity, etc. At the end of the course, each student must write and submit a final paper which discusses such issues analyzing my films and methods.

[授業計画と内容]

DAY 1 (Monday, July 31, 2023)
Introduction. 10 Commandments of Observational Filmmaking. (90 minutes)
Screening Campaign (2007, 120 minutes)
Discussion of Campaign (60 minutes)

DAY 2 (Tuesday, August 1, 2023)
How I shoot observational films (120 minutes)
Clips #8211 Internet Adoption, Campaign, Peace
Screening Mental (2008, 135 minutes)

DAY 3 (Wednesday, August 2, 2023)
Discussion of Mental (60 minutes): ethics, participant observation, etc
Screening Peace (2011, 75 minutes)
How I edit observational films (120 minutes)
Clips #8211 Peace, Mental, Theatre 1

DAY 4 (Thursday, August 3, 2023)
How I market observational films (60 minutes)
Screening Inland Sea (2018, 122 minutes)
Discussion of Inland Sea (80 minutes)

DAY 5 (Friday, August 4, 2023)
Screening Zero (2020, 128 minutes)
Discussion of Zero (60 minutes)
Discussion of final paper (80 minutes)

Reading materials:
Why I Make Documentaries (2011, Kazuhiro Soda)
Other materials to be uploaded online.

*Films to be screened might be changed without notices.

[履修要件]

特になし

Foundations I-Seminar(VMC) (3)へ続く↓↓↓

Foundations I-Seminar(VMC) (3)

[成績評価の方法・観点]

Attendance and Active Participation: 40%

Final Paper: 60%
Due date: TBA
Length: 15-20 pages, font 11 and 1.5 space. You much have a proper title and at least five references.
Evaluating aspects:
1. Intriguing thesis and unique ideas
2. Clear outline
3. Persuasive backups
4. Writing skills, including proper references
5. How is it connected with our readings and discussions in classes?

[教科書]

未定

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Participants may be required to read reading materials related to the class.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK11 LE36										
授業科目名 <英訳>	Foundations I-Seminar(VMC) Foundations I-Seminar(VMC)					担当者所属・職名・氏名	広島大学人間社会科学研究科 准教授 KITSNIK Lauri				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Coffee Culture in Modern and Contemporary Japan										

[授業の概要・目的]

When did coffee first arrive in Japan, often thought of as a country of tea? What was its initial reception and on which grounds was it domesticated? What are the patterns of coffee production and consumption in Japan, and how do these relate to global networks and trends? What are the brewing techniques and flavours that characterise coffee in Japan? How is coffee related to the everyday of urban spaces, technological innovations, and cultural change? These are some of the questions this course hopes to address by looking at the history and development of coffee culture in Japan during the past century and a half. For the class, we will be reading excerpts from several recent English-language studies; a number of research trips to coffee shops around Kyoto form an integral part of the course.

[到達目標]

The students will 1) gain knowledge on the historical development of production and consumption of coffee in modern and contemporary Japan; 2) learn to relate the above developments to the ones taking place within a global context; 3) become familiar with approaches for studying coffee culture with an opportunity to apply these on their own future research projects; 4) acquire skills for historical and comparative analysis; 5) extend their abilities to summarise past scholarship in oral presentation, and communicate their own original arguments in classroom discussion and writing; 6) savour the varieties of coffee currently available in Kyoto.

[授業計画と内容]

1. Introduction
2. Seminar
3. Seminar
4. Research trip
5. Seminar
6. Research trip
7. Seminar
8. Research trip
9. Seminar
10. Seminar
11. Research trip
12. Seminar
13. Research trip
14. Seminar
15. Seminar

Foundations I-Seminar(VMC) (2)へ続く↓↓↓

Foundations I-Seminar(VMC) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Individual presentation (40%), participation in classroom discussion (40%), final essay (20%)

[教科書]

Merry White 『Coffee Life in Japan』（California UP, 2012）
Catherine M. Tucker 『Coffee Culture: Local Experiences, Global Connections, 2nd ed.』（Routledge, 2017）

Helena Grinshpun 『Global Coffee and Cultural Change in Modern Japan』（Routledge, 2022）

[参考書等]

（参考書）

[授業外学修（予習・復習）等]

Read the assigned textbook during the course

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK11 LE36										
授業科目名 <英訳>	Foundations I-Seminar(VMC) Foundations I-Seminar(VMC)					担当者所属・職名・氏名	創価大学文学部　講師 森下　達				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	初期手塚治虫作品を論じる――「物語」と「表現」の絡み合いを軸に――										

[授業の概要・目的]

戦後日本のマンガは、表現様式の点で戦前・戦中期のそれを大きく更新し、さまざまな物語を描きうる表現領域として確立していった。本授業では、戦後日本を代表するマンガ家・手塚治虫の1940年代後半から50年代の作品を精読することを通じて、作品を支える表現様式がどのように変容しているのかを確認し、さらに、その変容が物語内容の変化といかに関係しているのかを分析していく。分析にあたっては、児童文学や近代文学、映画といった既存の物語メディアから、マンガが何を取りこんでいったのかにも焦点をあてる。このような作業を通じて、マンガ表現自体を問題にする方法論を身につけるとともに、他の表現メディアとの比較など柔軟な姿勢と視野の広さを獲得することが本授業の目的である。

[到達目標]

前近代の文化や、近代以降の文学およびヴィジュアル文化などとも対比する形で、自分なりの視点で現代のマンガ文化を論じられるようになることが本授業の到達目標である。近代の物語文化に対する理解を深めるとともに、物語と表現の関係に目を向ける力を獲得することは、マンガだけでなくほかのさまざまな表現文化を論じる際にも効力を発揮するだろう。

[授業計画と内容]

第1回　ガイダンス：手塚治虫を論じる視点
第2回　手塚治虫『地底国の怪人』（1）：何が新しかったのか
第3回　手塚治虫『地底国の怪人』（2）：戦前・戦中期の作品と比較して
第4回　手塚治虫『地底国の怪人』（3）：物語の構造を考える
第5回　手塚治虫『メトロポリス』（1）：主題の深化
第6回　手塚治虫『メトロポリス』（2）：表現様式の安定
第7回　手塚治虫『メトロポリス』（3）：その後の作品との関係
第8回　手塚治虫『38度線上の怪物』（1）：リメイクを論じるには
第9回　手塚治虫『38度線上の怪物』（2）：他の表現メディアの影響
第10回　手塚治虫『38度線上の怪物』（3）：マンガでドラマを描くということ
第11回　手塚治虫『罪と罰』（1）：「映画」的手法を考える
第12回　手塚治虫『罪と罰』（2）：モンタージュと「内面」表現
第13回　手塚治虫『罪と罰』（3）：原作との変更点について
第14回　ボーナストラック：つげ義春「ある一夜」を手塚作品と比較する
第15回　まとめ：マンガにおける「物語」と「表現」
※受講生の興味関心に応じ、授業内容を多少変更する場合がある。

Foundations I-Seminar(VMC) (2)へ続く↓↓↓

Foundations I-Seminar(VMC) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポート（60%。授業の視点を踏まえて、自分なりにマンガ作品を論じるもの。問いを提示し、適切な根拠を揃えてそれに答えを出すことを求める）、毎回の授業への参加（40%。授業内容を理解し、積極的に発言できているかどうかをもとに判断する）をもとに評価します。

[教科書]

レジュメを作成、配布します。
また、版は問いませんが、授業で扱うマンガは読了した上で授業に臨んでもらいたいと考えています。取り扱う作品は以下のとおり。
・手塚治虫『地底国の怪人』（1948年）
・手塚治虫『メトロポリス』（1949年）
・手塚治虫『38度線上の怪物』（1953年）
・手塚治虫『罪と罰』（1953年）
・つげ義春「ある一夜」（1958年）
なお、手塚作品に関しては講談社の「手塚治虫文庫全集」が、つげ作品に関しては筑摩書房の「つげ義春コレクション」（「ある一夜」は『四つの犯罪／七つの墓場』所収）か「つげ義春大全」（「ある一夜」は『第4巻　ゆうれい船長／不思議な手紙』所収）が入手しやすいです。

[参考書等]

（参考書）
森下達 『ストーリー・マンガとは何か　手塚治虫と戦後マンガの「物語」』（青土社、2021年）
ISBN:978-4-7917-7416-6（授業内容のもととなる書籍です。）

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：配布されたプリントやテキストなどについて、授業で指示されたぶんをきちんと読んでくること。わからない箇所等についてはそのままにせず、自身で調べて授業に臨む。内容についても、漫然と読むのではなく、自分がどう読んだのかをきちんと言葉にする準備をしておくこと。（60分）

復習：授業での学びを踏まえて、扱った作品を今一度読み直し、自身の読みを深めること。（30分）

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK12 LE36										
授業科目名 <英訳>	Foundations I-Seminar (KBR/SEG) Foundations I-Seminar (KBR/SEG)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　伊勢田　哲治				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金2	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Philosophy of Science in Japanese Context: Introduction to Philosophy of Social Sciences										

[授業の概要・目的]

The aim of this special lecture is to introduce philosophy of social sciences. Philosophy of social sciences is a relatively minor field in philosophy of science, but it deals with many fascinating topics such as methodology of social sciences, ontology of society, rationality and relativism and so on. Using a recent textbook by Kei Yoshida, we look at some basic issues in this field.

[到達目標]

To be able to explain basic issues of the field of philosophy of social sciences. To be able to connect ideas in philosophy of social sciences to various social scientific research.

[授業計画と内容]

The lectures will be given in English, and structured according to the textbook (Kei Yoshida, Philosophy of Social Sciences: An Introduction). The textbook is written in Japanese, so a summary of the textbook in English will be provided in the class.

1 What is the point of learning philosophy of social sciences? (1 week)
2 How do social sciences try to capture social phenomena? (2 weeks)
3 What are the method and aim of social sciences? (3 weeks)
4 For what social scientific theories exist? (2 weeks)
5 Are social sciences just one perspective among many? (2 weeks)
6 What is the relationship between cognition and value in social sciences? (2 weeks)
7 What is the relationship between social and natural sciences (2 weeks)
8 Wrap up (1 week)

[履修要件]

No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (Philosophy of Science: A Very Short Introduction) is recommended.

[成績評価の方法・観点]

The evaluation will be based on two papers (50% each). The papers can be either in Japanese or in English. The points of view of the evaluation are the understanding of the content of the class and appropriate application of the understanding to concrete cases.

Foundations I-Seminar (KBR/SEG) (2)へ続く↓↓↓

Foundations I-Seminar (KBR/SEG) (2)

[教科書]

吉田敬 『社会科学の哲学入門』（勁草書房）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Participants are expected to read the assigned reading before each class to be able to take part in the class discussion.

（その他（オフィスアワー等））

Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK14 LE36										
授業科目名 <英訳>	Foundations I-Seminar (SEG/VMC) Foundations I-Seminar (SEG/VMC)					担当者所属・職名・氏名	同志社大学グローバル・スタディーズ研究科 准教授 菅野　優香				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金4,5	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Queer Film Theory and Criticism										

[授業の概要・目的]

In this seminar, students will be introduced to major debates in queer film theory and criticism while exploring critical concepts in fields such as feminist and queer aesthetics and politics, realism, autobiography, cinematic modernism, and New Queer Cinema. We will engage several key genres and modes (documentary, avant-garde, experimental and narrative films) in order to focus on the very central questions that have informed and shaped queer approaches to film texts. This seminar aims to examine the different ways in which queer as well as feminist theoretical and critical discourses address the intersections of gender, sexuality, and race through concrete analysis of these films. The course consists of film screenings, lectures, and discussions based on the assigned readings.

[到達目標]

Through this seminar, students will be able to:
・Understand the developments of feminist and queer film theory and criticism while learning key concepts and debates.
・Develop the skills to analyze the film forms, aesthetics, and thematic concerns and the ways in which the issues of gender, sexuality, and race/ethnicity are expressed through them.
・Construct compelling arguments on the social and political implications of film texts.
・Situate the visual and cultural texts amid wider social and historical contexts.
・Cultivate the analytical abilities to apply feminist and queer critical perspectives to contemporary visual culture.

[授業計画と内容]

*Please note that each week is consisted of 2 class unites/3 hours

Week 1: Introduction to Queer Film Theory and Criticism

Readings:
・Ellis Hanson,“Introduction: Out Takes,”Out Takes: Essays on Queer Theory and Film, Ed. Ellis Hanson (Durham and London: Duke UP, 1999): 1-19.

Screenings: Bound (Lana and Lily Wachowski, 1996)

Week 2: Early Queer Films

Readings:
・B. Ruby Rich,“From Repressive Tolerance to Erotic Liberation: Maedchen in Uniform,”in Chick

Foundations I-Seminar (SEG/VMC) (2)へ続く↓↓↓

Flicks: Theories and Memories of the Feminist Film Movement (Durham and London: Duke UP, 1998): 179-206
・Alexander Doty, “Render unto Cesare: The Queerness of Caligari,” Queering the Film Canon (New York and London: Routledge, 2000):23-47.

Screening: Madchen in Uniform (Leontine Sagan, 1931) or The Cabinet of Dr. Caligari (Robert Wiene, 1920).

Week 3: Week 3: Documentary and Experimental Autobiography

Readings:
・Michell Citron, “Fleeing from Documentary: Autobiographical Film/Video and the ‘Ethics of Responsibility,” in Feminism and Documentary, ed., Diane Waldman and Janet Walker (Minneapolis and London: University of Minnesota Press, 1999): 271- 286.
・Linda Williams and B. Ruby Rich, “The Right of Re-Vison: Michell Citron’s Daughter Rite,” Film Quarterly 35:1 (1981): 17-22.

Screening: Daughter Rite (Michelle Citron, 1978)

Critical Response Paper #1

Week 4: Avant-Garde and Experimental Film

Readings:
・Sarah Keller, “The Continuous Weaves: Feminist Experimental Filmmaking Genealogies,” Camera Obscura 36:3 (2021), 89-103.
・Sarah Keller, “Barbara Hammer: Lesbian Feminist Iconography and Queer Aesthetics,” The Oxford Handbook of Queer Cinema, ed. Ronald Gregg and Amy Villarejo (Oxford: Oxford UP, 2021): 361-379.
・Judith Mayne, “Su Friedrich’s Swimming Lessons,” in Framed: Lesbians, Feminist, and Media Culture (London and Minneapolis: University of Minnesota Press, 2000): 193-211.

Screenings: Meshes of Afternoon (Maya Deren, 1946), Barbara Hammer’s Early Works, Sink or Swim (Su Friedrich 1990).

Week 5: New Queer Cinema

Readings:
・Laura L. Sullivan, “Chasing Fae: “The Watermelon Woman” and Black Lesbian Possibility,” Callaloo 23:1 (Winter 2000), 448-460.
・bell hooks, “Homophobia in Black Community,” in The Greatest Taboo: Homosexuality in Black Communities, ed. Delroy Constantine-Simms (Los Angeles: Alyson Books, 2000)

Screening: Watermelon Woman (Cheryl Dunye, 1995).

Foundations I-Seminar (SEG/VMC) (3)へ続く↓↓↓

Critical Response Paper #2

Week 6: The Art of Queer Reading

Readings:
・Richard Dyer, Brief Encounter (BFI/Palgrave, 1993): 9-41.

Screening: Brief Encounter (David Lean, 1945)

Week 7: Deconstructing Genre: Musical and Film Noir

Readings:
・Steven Cohan, “This Can’t Be Legal? Queer Masculinities in the 1940s Hollywood Musical,” The Oxford Handbook of Queer Cinema, ed. Ronald Gregg and Amy Villarejo (Oxford: Oxford UP, 2021):214-241.
・Richard Dyer, “Queer Noir,” The Culture of Queers (Durham and London: Duke UP, 2002): 90-115.

Screening: TBA

Week 8: Presentations and Feedback

Presentations (20 minutes)
Discussion/Feedback

[履修要件]

Films and clips in the syllabus will be shown in seminar. Please turn off all the electronic devices, including cell phones, laptops, and tablets.

[成績評価の方法・観点]

Regular attendance and active participation (20 %)
Please come to class ready to actively participate, having completed all readings and assignments in advance.

Discussion Facilitation (10%)
Each student will facilitate and lead seminar discussion, either alone or with another student, depending on the seminar size. Please include a summary and the main arguments from the assigned readings as well as biographical information of the author. Formulate some questions from the readings (and screenings) to generate discussion.

Two Critical Response Papers (10%×2 = 20%)
A critical response paper consists of a 3 - 4 page short essay in which you will write a critical review of a film

Foundations I-Seminar (SEG/VMC) (4)へ続く↓↓↓

screened for the seminar. This assignment is aimed at giving you an opportunity to practice film criticism and learn to analyze and write about film texts.

Presentation (10%)
Please give a presentation (20 minutes) on your topic for the final essay. At this point, you should have clear ideas on what your final essay will be about. You are also encouraged to give constructive feedback to peer presenters.

Final Essay (30%)
You will write the final paper (8- 10 pages) based on the topics discussed in the seminar. Make sure to incorporate theoretical and critical concepts and perspectives in your analysis.

*Writing guidelines: all your papers are to be in 12-point type, double-spaced, with 1-inch margins and numbered pages. Use either Chicago or MLA citation style.

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Please come to class, having completed all readings and assignments.

（その他（オフィスアワー等））

TBA

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目61

科目ナンバリング	G-LET36 6JK14 LE36										
授業科目名 <英訳>	Foundations I-Seminar (SEG/VMC) Foundations I-Seminar (SEG/VMC)					担当者所属・職名・氏名	ロシア国立研究大学高等経済学院東洋学・西洋古典学研究所准教授 Fedorova Anastasia				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金4,5	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Russo-Japanese Cultural Dialogue Through Images										

[授業の概要・目的]

This course explores the rich history of cultural encounters between Japan and Russia, starting in the Edo period and leading to the two countries’ latest attempts at co-producing animated films. Both countries have traditionally formed their identities by negotiating a special place between the East and the West, and have tried to actively learn from each other. Drawing on examples from personal diaries, memoirs, painting, film and animation, we will explore how the mutual perception between Japan and Russia has transformed overtime in accordance with various political, economic and cultural changes that occurred both globally and domestically.

[到達目標]

Students will be able to identify the unique aspects of cultural
interactions between Japan and Russia, while simultaneously interpreting them in a larger theoretical framework of cross-cultural exchange.

[授業計画と内容]

Please note that each week consists of 2 class units (Each week we meet for 3 hours). Throughout this course, there will be 15 class units in total.

1. Introduction [1 class unit]
2. Japan and Russia during the Edo Period [2 class units]
3. Russo-Japanese War (1904-1905)[2 class units]
4. Transnational Cultures of Modernism (I): Painting, Literature, Theater [2 class units]
5. Transnational Cultures of Modernism (II): Film [2 class units]
6. Japanese Fascination with Marxism [2 class units]
7. Soviet Fascination with Japanese Material Culture [2 class units]
8. Interacting through Manga and Anime [2 class units]

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Active participation in class [40%];
Test(s) based on information from weekly reading assignments [20%];
Final essay written in English (8000 words) [40%]

[教科書]

Reading assignments will be distributed in class.

Foundations I-Seminar (SEG/VMC) (2)へ続く↓↓↓

Foundations I-Seminar (SEG/VMC) (2)

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

Reading assignments will be given from multiple sources including:
Thomas J. Rimer ed., A Hidden fire : Russian and Japanese cultural encounters, 1868-1926 (1995)
Yulia Mikhailova, William M. Steele, eds., Japan and Russia: Three Centuries of Mutual Images (2008)
Sho Konishi, Anarchist Modernity: Cooperatism and Japanese-Russian Intellectual Relations in Modern Japan (2013)

[授業外学修（予習・復習）等]

Students must be prepared to comment and critically analyze the reading assignments weekly.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

科目ナンバリング	G-LET36 6JK15 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　講師　　海田　大輔				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月5	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Contemporary Japanese Philosophy in a Global Context										

[授業の概要・目的]

****
IMPORTANT: At least during October, this class will be offered in an online or hybrid format. Please check “ Class support ” or PandA for detailed information.
注意：少なくとも10月中に本科目はオンライン・ハイブリッド形式で提供される予定です。詳しくは「授業サポート」またはPandAをご確認ください。
****

This course explores various aspects of contemporary Japanese philosophy (Post-World War II Japanese philosophy) by reading Japanese primary sources in English translation, and discussing them in English. Participants will read and discuss papers by:
OMORI Shozo (**大森荘蔵**), KIMURA Bin (**木村敏**), HIROMATSU Wataru (**廣松渉**), and SAKABE Megumi (**坂部恵**).

[到達目標]

By the end of the term students will gain some basic understanding of contemporary philosophy in Japan.

[授業計画と内容]

1 Introduction
2-4 OMORI Shozo "An Essay on Kotodama: Words and 'Things'"
5-8 KIMURA Bin "Time as the Between"
9-11 HIROMATSU Wataru "Articulation Forms of the World of Fact-Things"
12-14 SAKABE Megumi "Appearance and Copula"
15 Feedback

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

At the end of the term students will be asked to write a paper. Students' grades will be weighed according to the following scheme:
Active participation in discussion 40%
Term paper 60%

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)

[教科書]

使用しない
The reading materials will be uploaded on KULASIS.

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Students will be asked to read the materials for the class in advance and come prepared to discuss them.
Every student will be expected to raise at least one point that he or she thinks is worth discussing in a class.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

科目ナンバリング	G-LET36 6JK15 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　川島　隆				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金4	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Heidi in Japan										

[授業の概要・目的]

In this class, we will discuss the story of “ Heidi ” (1880/81) by Johanna Spyri from the perspective of comparative literature. It is one of the main tasks of comparative literature to think about the reception of one literary work in various countries and regions, because it is important to know what has remained the same and what has changed in the course of translation and adaptation of the original work. Usually, these changes do not come from pure chance but from the essential differences of cultures. So, when we think about the transcultural transformations of a literary work, we at the same time (re-)think about the culture in which we are living. In this sense, the story of “ Heidi ” is a very productive example because it has a lot to tell us about our cultures.

[到達目標]

Students will on the one hand gain basic knowledge about the reception of “ Heidi ” in Japan, and on the other hand understand the importance of interaction between cultures which sometimes borders on cultural appropriation.

[授業計画と内容]

(1) Introduction
(2) Biographical facts about Johanna Spyri
(3) Spyri ’ s “ Heidi ’ s Years of Learning and Wandering ” (1880) in its cultural contexts
(4) Spyri ’ s “ Heidi Can Use What She Learned ” (1881) in its cultural contexts
(5) Excursus 1: Charles Tritten ’ s French “ Heidi ” -sequels
(6) The first Japanese translation by Yaeko Nogami (1920) and other early translations
(7) “ Heidi ” in girls ’ magazines in Pre-War Japan
(8) “ Heidi ” in children ’ s magazines in Post-War Japan
(9) The animation series “ Heidi, Girl of the Alps ” by Isao Takahata (1974)
(10) The reception of Takahata ’ s animation in Europe
(11) Excursus 2: “ Heidi ” -movies in the world
(12-14) Presentations by students
(15) Conclusion

[履修要件]

Completion of modules “ Introduction to Transcultural Studies, ” “ Skills for Transcultural Studies, ” “ Focus 1 ” and “ Focus 2 ”

[成績評価の方法・観点]

Homework (30%), participation (30%), final report (40%).

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS).

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) (2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) (2)

Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連ＵＲＬ）

https://www.cats.bun.kyoto-u.ac.jp/

[授業外学修（予習・復習）等]

The participants are expected to read texts uploaded in the CATS websites at home before they attend each class.

（その他（オフィスアワー等））

*Please visit KULASIS to find out about office hours.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK15 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	国際高等教育院 准教授　湯川　志貴子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月3	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Selected Readings in Classical Japanese Literature										

[授業の概要・目的]

The aim of this course is to seek and discuss Japanese values, ideas and attitudes toward certain universal themes, such as love, death, human nature and aesthetic beauty through a close reading of selected representative works of classical Japanese literature. We will use well-known English translations of the Manyoshu, Taketori Monogatari, Ise Monogatari and Tsurezuregusa, among other works, as our texts.

Study Focus: Knowledge, Belief and Religion.
Modules: Mobility & Research 1; Mobility & Research 2; Research 3.

『萬葉集』、『竹取物語』、『伊勢物語』、『徒然草』等、日本の代表的な古典の英訳本を用い、これらの作品を熟読することによって、恋愛、死、人間性、美といった普遍的なテーマに対する日本人の価値観、観念や捉え方について考察を試み、理解を深めることを目的とする。

[到達目標]

・To become familiar with the content of selected works of classical Japanese literature and the sociohistorical background of the period within which each work was written.
・To grasp underlying themes and literary concepts which are critical to a deeper understanding of the selected works.
・To be able to recognize and understand major literary devices and techniques of expression and their function.
・To present critical analysis of a work of Japanese literature of the student's choice in a written paper.

・対象とする作品の内容やあらすじを理解する。またその時代背景について基礎知識を身につける。

・各作品をより深く理解するために、重要な文学的概念やテーマを学ぶ。
・各作品に用いられている文学的技法やその効果を考察する。
・各自が選んだ作品について客観的に批評し、その論拠となる文献・資料を調査して、結果を小論文にまとめる。

[授業計画と内容]

The course schedule is as follows. Revisions will be made as needed based on the progress of the course.
Weeks 1〜3　Depictions of death in classical Japanese literature: methods of expression in Manyoshu elegies
Weeks 4〜6 Character development in classical Japanese literature: a superhuman heroine's humanization in the Tale of the Bamboo Cutter
Weeks 7〜9　Love in classical Japanese literature (1): Tales of Ise and "kokoro nasake aramu otoko"
Week 10 Midterm presentations on final report
Weeks 11〜14 Love in classical Japanese literature (2): "long autumn nights" and "empty vows"; Yoshida

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)へ続く↓↓↓

Kenko's views on love in Tsurezuregusa
Week 15 Wrap-up session and feedback

We will devote 3〜4 class sessions (lecture session→reading session→discussion session) to each theme.

【Lecture Session】
A general overview of the selected work(s) of literature and background information on the sociohistorical period will be provided. The instructor will also address literary concepts, social practices and customs as well as Japanese values and standards of the period as appropriate.

【Reading Session】
We will conduct a careful reading of selected passages of the text in translation. We will examine fundamental terms, the structure and/or development of each work, the writing style of the author and techniques of expression used. We will consider their function and effectiveness as we proceed with our reading and interpretation.

【1〜2 Discussion Sessions】
With respect to each theme, the class will be assigned two to three questions to consider and discuss at length as a group.

For each of the themes covered during the semester, students will be required to write and submit a "comprehension essay" (100-150 words) summarizing the main points covered, points that needed further explanation, and any other comments concerning that topic.

以下の計画と内容に基づいて授業を進めていく。授業の進捗と受講者の状況によって、日程・内容を一部変更する場合がある。
第1〜3週目　日本の古典に見る死の表現・描写
―『萬葉集』の挽歌の表現方法―
第4〜6週目　日本の古典に見る人物描写
―『竹取物語』の超人間的なる主人公の人間化―
第7〜9週目　日本の古典に見る恋愛（その一）
―『伊勢物語』の「心なさけあらむ男」―
第10週目　　小論文中間発表
第11〜14週目　日本の古典に見る恋愛（その二）
―「男女の情も、ひとへに逢ひ見るをばいふものかは」（『徒然草』）他―
第15週目　　まとめ、フィードバック

一つのテーマにつき、3〜4回と時間をかけて講義-->講読-->議論と考察していき、理解の深化を図る。

【講義（1回）】
対象作品の時代背景など必要な予備知識について解説する。重要な文学的理念や、社会的慣習・風習、当時の日本人の価値観・規範等にも適宜触れる。

【講読（1回）】
英訳本を用いて作品（抜粋）を読み進める。基本用語の解釈、作品の構造や展開、作風、文体、表現技法等にも注目し、これらの役割と効果について考察しつつ精読していく。

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(3)へ続く↓↓↓

【議論（1〜2回）】
講読した内容に関する出題問題（2〜3問）に基づきグループ・ディスカッションを行う。

内容の理解度を確認するために、理解しやすかった点、理解しづらかった点、感想等を100-150語にまとめた「comprehension essay」をテーマ毎に課す。

[履修要件]

Enrollment is limited to 5 students. Students in the Heidelberg Centre for Transcultural Studies program will be given priority.

It is recommended that students come into the class having fulfilled one of the following:
1) The student has taken a course in academic writing in English at the undergraduate or graduate level.
2) The student has written an academic paper or report in English for an undergraduate or graduate level course in the past (in any field of study).

定員：
5名までとし、Heidelberg Centre for Transcultural Studiesの学生を優先する。

次のいずれかの要件を満たしていることが望ましい：
1) 学部・大学院で英語のアカデミック・ライティングの授業を履修したことがある。
2) 過去に学部・大学院の授業（分野不問）で英語による小論文や学術的レポートを書いたことがある。

[成績評価の方法・観点]

To JDTS/MATS students: This course can be taken as either a reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the instructor.

For students taking this course as a "full seminar," assessment will be based on the following [1]〜[4].
[1] Outline and working bibliography for oral presentation and term paper (20%)
[2] Oral presentation on development of term paper（20%)
[3] Term paper (40%)
[4] Submission of comprehension essays and contribution to discussion sessions （20%）
Students are encouraged to utilize the instructor's office hours throughout the semester to discuss any specific concerns they may have regarding their paper.

Students should carefully note the following concerning the term paper:
This assignment is not intended as an "essay" for students to express their subjective opinions or personal preferences with regard to the literary work they have chosen to analyze in their paper. The main objective is for students to analyze the work objectively and argue their position objectively based on evidence from the text and other sources. Students will be expected to come up with a viable hypothesis and write a logical and objective paper that is based on careful and close reading of the text and amply supported by evidence cited from the literature.

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(4)へ続く↓↓↓

For students taking this course as a "reduced seminar," assessment will be based on the following [1]〜[3].
[1] Outline and working bibliography for oral presentation (20%)
[2] Oral presentation (60%)
[3] Submission of comprehension essays and contribution to discussion sessions （20%）

「Full seminar」として登録した学生については、成績判定は以下[1]〜[4]によって行う。
[1] 口頭発表および小論文に関するアウトライン・構想、および参考文献一覧表（20%）
[2] 口頭発表（20%）
[3] 小論文(40%)
[4] 「Comprehension essay」の提出およびディスカッションへの貢献度（20%）
なお、授業期間中、小論文の作成等について授業担当の教員と直接相談できる時間（オフィスアワー）を設けているので積極的に利用してもらいたい。

本授業で課せられる小論文では、主観的な感想を述べることが目的ではないことに留意すること。まずは仮説を立て、それを裏付けるエビデンスを収集する。そして、それに対する客観的な分析を施して論を展開し結論を導くことが求められる。客観的且つ論理的に述べることが要求される。このことを十分に理解したうえで授業に臨んでもらいたい。

「Reduced seminar」として登録した学生については、成績判定は以下[1]〜[3]によって行う。
[1] 口頭発表に関するアウトライン・構想、および参考文献一覧表（20%）
[2] 口頭発表（60%）
[3] 「Comprehension essay」の提出およびディスカッションへの貢献度（20%）

[教科書]

Handouts and required reading material will be provided in class.

必要に応じ、授業時に資料を配付する。

[参考書等]

（参考書）
『1000 Poems from the Manyoshu: The Complete Nippon Gakujutsu Shinkokai Translation』（Dover Publications）ISBN:978-1306338257
Cranston, Edwin A. (translator) 『A Waka Anthology: The Gem-Glistening Cup』（Stanford University Press）ISBN:978-0804731577
Kawabata, Yasunari (translator, modern Japanese) and Keene, Donald (translator, English) 『The Tale of the Bamboo Cutter』（Kodansha International）ISBN:978-4770023292
McCullough, Helen Craig (translator) 『Classical Japanese Prose: An Anthology』ISBN:Stanford University Press（978-0804719605）
McCullough, Helen Craig (translator) 『Kokin Wakashu: The First Imperial Anthology of Japanese Poetry』（Stanford University Press）ISBN:978-0804712583
Keene, Donald (translator) 『Essays in Idleness: The Tsurezuregusa of Kenko』（Tuttle Publishing）ISBN: 978-4805306314

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(5)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(5)

[授業外学修（予習・復習）等]

1) The translation for each reading piece will be provided in advance. Students are asked to read the material before class and be prepared to discuss their thoughts.

2) Guidelines for preparing the outline and working bibliography, oral presentation and term paper will be handed out in class in early November. Students should begin exploring questions to address in their presentation/paper, and begin reading a translation of the work(s) they wish to use and any other essential sources as soon as possible. Students are encouraged to consult the instructor should they have any questions.

1) 授業で取り上げる作品の英訳は事前に配付するので、必ず全文を読んでくること。

2) 11月上旬に「Outline and working bibliography」、口頭発表、小論文の作成要領についての指示がある。受講者はその後できるだけ早く発表や小論文で取り上げたい作品の文献調査を開始し、英訳本その他必要な資料を読み始めること。文献調査の方法等について不明な点があれば、早めに担当教員と相談すること。

（その他（オフィスアワー等））

*Please visit KULASIS to find out about office hours. Will also be announced in class.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK15 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　助教　Campbell, Michael				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	The Philosophy of Peter Winch										

[授業の概要・目的]

Peter Winch (1926 - 1997) was one of the most important British philosophers of the post-War period. He was known for his contributions to the philosophy of social science, Wittgenstein scholarship, ethics, political philosophy, and the philosophy of religion. His work includes On the Idea of a Social Science and its Relation to Philosophy (Routledge, 1958), Simone Weil: The Just Balance (Cambridge University Press, 1989) and numerous articles, the most important of which were reprinted in his collections Ethics and Action (Routledge, 1972) and Trying to Make Sense (Basil Blackwell, 1987).

In this course students will be introduced to Peter Winch's work through considering a range of his most famous articles. Topics covered include the justification of political authority; the nature of doubt and certainty; and what it means to understand another person or culture.

Through participating in this course, students will get an insight into the thought of one of the leading philosophers in the 20th Century, as well as an improved understanding of issues in classical and contemporary philosophy.

[到達目標]

To introduce students to the work of one of the 20th Century’s most important philosophers.

To familiarise students with some of the aims, methods and problems of both classical and contemporary political philosophy.

To develop a deepened understanding of certain perennial philosophical questions concerning skepticism, justification and understanding.

To develop students' ability to reason critically, to construct and critique arguments and to write philosophical essays in English.

[授業計画と内容]

Weeks 1-2: Introduction
Course requirements and historical background - the Swansea School, overview of British post-War moral philosophy.

Weeks 3 - 6: Understanding and Explanation
What is it to understand social phenomena? What kinds of generalisations can the social sciences aim at? How do the generalisations of sociology and anthropology relate to everyday understanding of other people?

Weeks 7-10: Doubt and Certainty

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) (2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) (2)

Is philosophical skepticism about our understanding of the lives of others justified? What constitutes a philosophical refutation of skepticism? How do skeptical problems relate to our understanding of practical difficulties we may encounter in our ordinary lives?

Weeks 11-14: Political Authority
How does political authority structure daily life, and how does it relate to other sources of authority? What justifies political authority?

Week 15: Recap

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Students will be evaluated by a midterm paper (40%) and a final paper (60%), which will be graded out of 100. Papers must be written in English and be approximately 1000 words long.

[教科書]

Students will be distributed copies of Winch's relevant papers, as well as relevant secondary literature. Important background reading is Peter Winch's On the Idea of a Social Science and its Relation to Philosophy (ISBN: 978-0415423588), and students may if they wish consider purchasing their own copy of this book. It is also available in Japanese translation.

[参考書等]

（参考書）
Peter Winch 『Ethics and Action』（Routledge, 2022）ISBN:9780367507541
Peter Winch 『On the Idea of a Social Science and its Relation to Philosophy』（Routledge, 2008）ISBN: 9780415423588
Peter Winch 『Trying to Make Sense』（Basil Blackwell, 1987）ISBN:9780631153368

[授業外学修（予習・復習）等]

Students will be provided with texts in English to read in preparation for the class. Periodically there will be optional short quizzes or writing exercises to test students comprehension of the material.

（その他（オフィスアワー等））

Communication will be via email and PandA. Office hours of the instructor will be available on KULASIS.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK15 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定講師 Tao PAN				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水5	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Buddhist Art and Manuscript Cultures along the Silk Road										

[授業の概要・目的]

This course is designed for the study foci “ Knowledge, Belief and Religion ” (KBR) and “ Visual, Media and Material Cultures ” (VMC) and consists of the following three parts:
I. Silk Road in and between Asia and Europe;
II. Buddhist Art as Cultural Entanglement;
III. Manuscript Cultures as Transformative Creativity.

[到達目標]

Based on the theories of Transcultural Studies, this course offers numerous concrete examples for transculturality in the visual and material aspect as well as from the perspectives of creation and dissemination of knowledge and contact between religious networks on the macroscopic scale. Investigations on the microscopic scale, on the other hand, are concerned with how the formative and transformative processes result in certain cultural manifestations in the spheres of Buddhist art and manuscript cultures.

[授業計画と内容]

I. Silk Road in and between Asia and Europe
Week #01 Silk Road A Greater Picture Part 1
1.1. Asia in Old Persian inscriptions
1.2. India in early Greek literature
1.3. Case Study: Names of Rome in Chinese sources vs. Name of China in foreign sources
1.4. Case Study: Indika by Megasthenes and Arrian

Brief overview of course content
Old Persian script ~ example of transculturality (for scripts, cf. later sessions)
Topic for discussion: names and naming trends (in Europe, Asia, USA, etc.)
Rome: Da-qin 大-秦 great-Qin , Fu-lin 拂菻
China in Sanskrit, Greek (ser), Latin (Seres) sources.

Week #02 Silk Road A Greater Picture Part 2
2.1. Sogdians as Cultural Brokers
2.2. Turfan as Contact Zone
2.3. Chang ’ an as Cosmopolitan Terminal
Old Persian script ~ example of transculturality
Trade routes of Sogdians: https://sogdians.si.edu/historic-trade-routes-of-the-sogdians/
Sogdian Ancient Letters https://sogdians.si.edu/ancient-letters/
Read Letter 1, 2, 3.
Nanaia goddess: https://kimon.hosting.nyu.edu/sogdians/items/show/1150
https://kimon.hosting.nyu.edu/sogdians/items/browse
Religious adaptability of the Sogdians, by turns Mazdeans, Buddhists, Nestorians, Manichaeans and Muslims,

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) (2)へ続く↓↓↓

according to their political and commercial interests
Manichaeism
Chang ’ an & Heian-kyo
https://en.wikipedia.org/wiki/Heian-kyo

References: Kent 1953 Old Persian grammar, texts, lexicon; Karttunen 1989 India in early Greek literature; Hansen 2017 The Silk Road: A New Documentary History to 1400: A New History with Documents. 2nd Edition; Sogdian Ancient Letters (by Sims-Williams, Livsic, La Vaissiere, Grenet); La Vaissiere 2005 Sogdian traders: a history; La Vaissiere 2005 Les sogdiens en Chine; Lieu 2013 The 'Romanitas' of the Xi'an Inscription; The Oxford dictionary of late antiquity; Boyce 1975 A reader in Manichaean Middle Persian and Parthian.

Week #03 Tarim Basin as Contact Zone Part 1
3.1. The Great Game from transcultural perspectives
3.2. German Expeditions (Grunwedel, Le Coq, Bartus)
3.3. French Expedition (Pelliot)

Week #04 Tarim Basin as Contact Zone Part 2
4.1. British Expedition (Hoernle, Macartney, Stein)
4.2. Russian Expedition (Oldenburg, Petrovski)
4.3. Japanese Expedition (Otani)
4.4. Chinese Expedition (Huang Wenbi)
Matsunami collection in Tokyo University
References: Hansen 2017 The Silk Road; Seiiki koko zufu **西域考古図譜**. Kagawa Mokushiki **香川黙識** (ed.), 1915, 2 vols;
Website: http://idp.bl.uk , https://www.metmuseum.org , http://turfan.bbaw.de/dta/ , http://dsr.nii.ac.jp/toyobunko/index.html.ja ,

II. Buddhist Art as Cultural Entanglement
Week #05 Buddhist Art Part 1
5.1. Gandhara and the Greeks
5.2. Kucha and Kizil Caves
Gandhara Art, Language Gandhari (loan words from Middle Iranian, Script from Aramaic,)
Indian + Greek (Hadda, Afghanistan), Coins, Aniconic

Week #06 Buddhist Art Part 2
6.1. Dunhuang Caves as Time Capsules
6.2. Khotan as Entryway into Kucha and Turfan
Rhie Early Buddhist Art of China and Centra Asia

References: Gandhara BAW 2013; The Art of Gandhara in The Metropolitan Museum of Art; Pakistan. Terre de rencontre Ier-VIe siecle. Les arts du Gandhara (Musee Guimet); Alt-Kutscha; Altbuddhistische Kultstatten in Chinesisch-Turkistan; Die buddhistische Spatantike in Mittelasien 7 vols; Schlingloff 1981 Erzahlung und Bild (updated chin. version in 2013); Duan Wenjie 1994 Dunhuang Art; Ancient Khotan 2 vols; Serindia 5 vols; **中央アジア 世界美術大全集 東洋編**15;
Website: https://www.metmuseum.org ; https://www.metmuseum.org ; http://dsr.nii.ac.jp/toyobunko/index.html.ja

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) (3)へ続く↓↓↓

Week #07 Visual and Textual Interplay Part 1
Focus: Names and Depictions of Certain Figures (Gods, Animals, Buddhist Monks, etc.)
7.1. Narrative Elements in the Buddhist Stories
7.2. Variations of Depiction and Concept of Open Philology
7.3. Case Study: Tigress Story in Various Transmissions

Week #08 Visual and Textual Interplay Part 2
Dieter Schlingloff: Erzahlung und Bild
Depiction of development of story and several episodes
Rock Art of Honey Hunters, 6000 BC
Lion Hunt of Ashurbanipal, Assyrian 7th cent. BC
Blinding of Polyphemos, Laconian Black Figure Cup, c. 540 BCE.
Cyclops Polyphemus Eleusis Amphora: funerary proto-Attic amphora circa 660 BC
Drinking cup (kylix) depicting Kirke from the Odyssey Greek Archaic Period 『千と千尋の神隠し』（せんとちひろのかみかくし）
Bharhut Bull and Tiger Jataka (Schiefner) by Asoka 3rd cent. BC
Jataka 357 Latukika, Bharhut, 2nd cent. BC
Miracle of the Buddha walking on a River Sanchi East Gateway 1st cent. BC
Sikri Stupa in Homage to Buddha Dipamkara in Gandhara Kushan 4th cent. AD
Josua begegnet einem Engel. Pal.gr.431.pt.B (https://digi.vatlib.it/mss/detail/215228)

III. Manuscript Cultures as Transformative Creativity
Week #09 Western Manuscripts
9.1. General Introduction
9.2. Western Manuscripts (Greek, Latin, Old Church Slavonic, Gothic, Old English, etc.)

Week #10 Oriental Manuscripts
10.1. General Introduction
10.2. Oriental Manuscripts (Gandhari, Sanskrit, Khotanese, Tocharian, Chinese, etc.)
10.3. Differences and Similarities between Western and Oriental Manuscripts

References: Manuscript Cultures Mapping the Field; One-Volume Libraries Composite and Multiple-Text Manuscripts
Website: Homer (Venetus A): http://beta.hpcc.uh.edu/hmt/archive-dl/VenetusA/ ; Aeneas: https://digi.vatlib.it/view/MSS_Vat.lat.3867 ; Gothic: http://www.alvin-portal.org/alvin/view.jsf?pid=alvin-record%3A173610&dswid=7503 ; Old High German: http://www.handschriftencensus.de/werke ; Old English: https://ebeowulf.uky.edu/ebeo4.0/CD/main.html ; Sanskrit: http://idp.bbaw.de/ ; Gandhari: https://gandhari.org/ ; Avestan: https://ada.geschkult.fu-berlin.de

Week #11 Composite Manuscripts Part 1
11.1. Textually Composite (Buddhist, Jaina, China; Bilingual)
11.2. Physically Composite (two layers, glued or sewn)

Week #12 Composite Manuscripts Part 2
12.1. Philosophical/Religious Encounters between Asia and Europe
12.2. Case Study: Manichaeism in Tocharian und Old Turkic; Toch B-Uighur Bilingual Hymn to Mani

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) (4)へ続く↓↓↓

References: The Emergence of Multiple-Text Manuscripts; Hartmann Wille Skt Handschriften Sammlung Pelliot 3510 Sammelhandschriften; Hartmann 2017 SHT 7185; Pan/Chen 2021 Traces of Chinese Buddhist Scrolls in Fragments of Tocharian Pothis; von Gabain/Winter 1958 Ein Hymnus an den Vater Mani auf “Tocharisch” B mit altturkischer Ubersetzung; Pinault 2008 Bilingual hymn to Mani: Analysis of the Tocharian B parts

Week #13 Production of Manuscripts
13.1. Production of Palm Leaf Manuscripts
13.2. Chinese Buddhist Scrolls Transformed into Tocharian Pothis (How & Why & When & Where)

Week #14 Manuscript Forgeries
14.1. Manuscript Forgeries as Transcultural Case Study
14.2. Unknown Script or Forgery? Hoernle Biscript

References: Sims-Williams 2000 Forgeries from Chinese Turkestan in the British Library’s Hoernle and Stein Collections; Dunhuang Manuscript Forgeries 2002; Rosen 2001 Hedin Forgery; Fakes and Forgeries of Written Artefacts from Ancient Mesopotamia to Modern China; Dragoni Schoubben Peyrot 2020 The Formal Kharosthi script from the Northern Tarim Basin in Northwest China may write an Iranian language
Website: https://www.youtube.com/watch?v=1G7Nd5Y6UCE

Week #15 Review of Course Materials

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Assessment will be based on class performance (50% = attendance 20% + one presentation 30%) and final assignment (50%)
To JDTS/MATS students: This course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) (5)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) (5)

[授業外学修（予習・復習）等]

Students will be required to read the materials in advance and come prepared to discuss them.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK15 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　VASUDEVA, Somdev				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金2	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Transcultural Problem Solving										

[授業の概要・目的]

This class is intended as a venue for students to explore transcultural methods to solve problems encountered in their research projects. The focus is specifically a discussion of strategies to best analyze disparate research results with specifically transcultural tools to arrive at a more complete understanding of transcultural phenomena.

[到達目標]

Students will be introduced to different styles of scholarship and different methods of transcultural analysis current in diverse fields. The aim is to familiarise students with topics of ongoing debate and to provide them with tools to meaningfully engage with newly emerging literature.

[授業計画と内容]

Week 1 introduction to transcultural methods
Week 2 student sample 1 / literature review
Week 3 student sample 2 / literature review
Week 4 student sample 3 / literature review
Week 5 student sample 4 / literature review
Week 6 student sample 5 / literature review
Week 7 student sample 6 / literature review
Week 8 student sample 7 / literature review
Week 9 student sample 8 / literature review
Week 10 student sample 9 / literature review
Week 11 student sample 10 / literature review
Week 12 student sample 11 / literature review
Week 13 student sample 12 / literature review
Week 14 student sample 13 / literature review
Week 15 Concluding Summary

[履修要件]

Regular preparation of assigned readings and participation in the group discussions.

[成績評価の方法・観点]

In class, discussion and contextualization of the assigned readings (40%).One response paper to the discussions of the readings (30%). Homework (30%).

[教科書]

授業中に指示する

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

The participants are expected to attend every class. The weekly readings of the short sections should take about one hour of preparation for each class.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 7JK16 SE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquim) Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquim)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　VASUDEVA, Somdev				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火2	授業形態	演習	使用言語	英語
題目	A History of Tantric Yoga										

[授業の概要・目的]

This class has a twofold aim. [1.] It introduces the main authors, scriptures, commentaries, and exegetical works describing the practices and theories of systems of Tantric yoga.
[2.] We will study, in English translation, selected passages defining key practices and theoretical paradigms that went on to influence other systems of meditation and yoga.

[到達目標]

Students will be introduced to different styles of scholarship and different methods of analysis current primarily in South Asian studies. The aim is to familiarise students with topics of ongoing debate and to provide them with tools to meaningfully engage with newly emerging literature.

[授業計画と内容]

Week 1 What is Tantrism? The Sources of Liberation; Ritual, Knowledge, Yoga and Observance
Week 2 The Major Initiation Lineages and their Attitude to Yoga
Week 3 The Saivasiddhanta; Dualism and the Supremacy of Ritual
Week 4 The Nondualists and the Supremacy of Knowledge
Week 5 The Antiritualist Tradition
Week 6 Tarka: The Yoga of Six Ancillaries
Week 7 The Varieties of the Subtle Body
Week 8 Kaula Yoga: Pinda, Pada, Rupa and Rupatita, The Early Development of Kundalini
Week 9 The Western Transmission of Kubjika and the Later Evolution of Kundalini Yoga
Week 10 The Dharanas of the Vijnanabhairava I
Week 11 The Dharanas of the Vijnanabhairava II
Week 12 The Rejection of Patanjali's Yoga
Week 13 The Accomodation of Patanjali's Yoga
Week 14 The Matsyendrasamhita, The Amrtasiddhi and Early Hatha Yoga
Week 15 Concluding Summary

[履修要件]

Regular preparation of assigned readings and participation in the group discussions.

[成績評価の方法・観点]

In class, discussion and contextualization of the assigned readings (40%).One response paper to the discussions of the readings (30%). Homework (30%).

[教科書]

授業中に指示する

Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquim) (2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquim) (2)

[参考書等]

（参考書）

[授業外学修（予習・復習）等]

The participants are expected to attend every class. The weekly readings of the short sections should take about one hour of preparation for each class.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 7JK16 SE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquim) Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquim)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　南谷　奉良				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火5	授業形態	演習	使用言語	英語
題目	Pain Culture and Pain Literature										

[授業の概要・目的]

Through the reading of Joanna Bourke's The Story of pain: from Prayer to Painkillers (2014) and stories about painful experiences, this course explores a wide range of issues related to physical and psychological pain, which will allow students to consider how the definition, concept, and the pain culture differ internationally alongside political, cultural, and economic developments.

[到達目標]

How has the experience/event of pain been historically imposed on/endured by humans and animals, and how has it been understood, expressed, and described? What types of pain exist, and what meanings and roles do they have in the lives of humans and animals?

A wide variety of issues concerning pain will be considered through English-language novels, paintings, cinema, newspaper/magazine articles, essays, reviews, and music, which will allow students to consider and describe the "living pain" actually experienced by humans and animals, and gain a deeper understanding of the complexity and unfathomable nature, and (in)communicability of pain.

[授業計画と内容]

Course Outline

1. Introduction (pp.1-27)
2. Estrangement (pp.27-53)
3. Metaphor (pp.54-72)
4. Metaphor (pp.73-87)
5. Religion (pp.88-100)
5. Religion (pp.101-130)
6. Diagnosis (pp.131-145)
7. Diagnosis (pp.146-158)
8. Gesture (pp.159-175)
9. Gesture (pp.175-191)
10. Sentience (pp.192-210)
11 Sentience (pp.211-230)
12. Sympathy (pp.231-250)
12 Sympathy (pp.251-269)
13. Pain Relief(pp.270-290)
14. Pain Relief (pp.291-302)
15. Feedback

Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquim) (2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquim) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

At the end of the term students will be asked to write a term paper. Students'grades will be weighed according to the following scheme:

Active participation in discussion＋Reaction Paper 60%
Term paper 40%

[教科書]

Joanna Bourke 『The Story of Pain: From Prayer To Painkillers』（Oxford UP, 2014）ISBN:978-0199689439（https://www.amazon.com/Story-Pain-Prayer-Painkillers/dp/0199689431）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Students will be asked to read the materials for the class in advance and prepare to discuss them. Every student will be expected to comment on each topic.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK17 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　安里　和晃				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金2	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Welfare Regime and Cross-Border Migration in Asia: labor, marriage and evacuation										

[授業の概要・目的]

This course will discuss how welfare regimes intertwine with migration regimes in the process of rapid economic development and demographic change in Asian countries. One of the features of the Asian economic miracle was not only utilizing the demographic dividend and high educational attainment of its labor force but also accepting migrants, and domestic workers, in particular, to facilitate the participation of local women in the labor market. From the social policy side, liberal familialism in Asian countries justified the maintenance of “family value” and the commercialization and externalization of reproductive work by recruiting foreign domestic workers as extra family members. Sometimes this familialism triggered cross-border marriage for the formation of family welfare, which became the foundation of multiculturalism in some societies. In the process of demographic ageing, some Asian countries borrowed institutional frameworks of welfare states in Europe such as Korea, Japan, and Taiwan. Therefore, the divergence of the welfare regime of Asian countries is observed.

[到達目標]

Students will receive basic instruction on welfare policy, migration policy and related policies in Asian countries and will understand how these institutional frameworks operate and their impact on individuals and society.

[授業計画と内容]

A detailed plan for each class may be changed depending on the participants.
The contents of the course include the following classes.

1. Economic development in Asia and population dynamics
2. Overview of East Asian migration policy
3. Internalization/externalization of care and migration
4. Entertainment and marriage migration
5. Ageing, welfare policy, and migration
6. Feminization of migration: sex, care and family
7. Welfare Regime / Familialism
8. Social integration/multicultural policy
9. Labor migration and exploitation
10. Global politics of sending strategy
11. International labor market formation
12. Migration regime: (non)binary of temporariness and permanency
13. Action and research in migration study
14. Pandemic, access to welfare, and immigration policy
15. Conclusion

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

reflection papers(50%) and term paper(50%).

[教科書]

Papers and related documents will be distributed inclass.

[参考書等]

（参考書）

Goodheart, David, 2017, The Road to Somewhere: The Populist Revolt and the Future of Politics, London: Hurst & Co.
Hundt, David and Uttam Jitendra, 2017, Varieties of Capitalism in Asia: Beyond the Developmental State, London: Mcmillan Publishers.
Kim, Mason M.S., 2015, Comparative Welfare Capitalism in East Asia: Productivist Models of Social Policy, London: Macmillan Publishers.
Lan, Pei-Cha, 2006, Global Cinderellas: Migrant Domestics and New Rich Employers in Taiwan, Durhan and London: Duke University Press.
Parre#241as, Rhacel, S., 2001, Servants of Globalization: Women, Migration, and Domestic Work, Stanford: Stanford University Press.
Steger, Manfred B., 2014,“Approaches to the study of globalization,”Steger Mandred, Paul Battersby and Joseph Siracusa, eds., The SAGE Handbook of Globalization, London: Sage Publications Inc., 7-22.

[授業外学修（予習・復習）等]

Participants may be required to read papers related to the class.

（その他（オフィスアワー等））

Please make an appointment through the email below.
asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp
(@) indicates @.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK17 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授 KNAUDT, Till				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	日本の左翼のグローバルヒストリー										

[授業の概要・目的]

日本の左翼は、社会変革の過程において、社会的・思想的な影響力を持つ存在であった。本講演では、20世紀の革命と反革命、帝国主義と脱植民地化、冷戦といったグローバルな文脈の中で、日本の左翼がどのように発展してきたかを概観することを目的としている。

[到達目標]

グローバルヒストリーの枠組みを使って、日本の左翼の政治の立場がどのように形成されたかを理解し，その視点から社会運動・思想史を吟味し，考察することができるようになる。

[授業計画と内容]

第１回　オリエンテーション
第２回　「レフト」というのは何か
第３回　ヨーロッパの資本主義と社会主義
第４回　ロシアの帝国と日本のアナキスト
第５回　帝大セツルメント
第６回　インターナショナルと日本の共産主義
第７回　帝国とレフト
第８回　脱植民地化と戦後のレフト
第９回　女性労働運動
第１０回　国鉄労働組
第１１回　べ平連
第１２回　１９６８の第三世界反帝国主義
第１３回　日本のヒッピーとカリフォルニア
第１４回　まとめ
≪期末試験≫
第１５回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

討論への積極的な参加（10点）、報告（１回、40点）、試験（50点）により評価する。４回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎週、課題論文を読んで授業の準備をする。多くは英語で行われるので、週に3時間程度は準備に必要である。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK17 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	経済学研究科 教授 久野 秀二 非常勤講師 久野 愛				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金2,3	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Critical Consumption Studies										

[授業の概要・目的]

This course examines the political, economic, social, and cultural aspects of consumption broadly conceived. Theoretical and empirical studies on consumption have attracted scholarly attention from various disciplines ranging from sociology, anthropology, history, geography, business, and marketing studies, to agri-food studies. This course provides the overview of the interdisciplinary discussion on consumption -- not simply as the purchasing of goods but also as a political and social practice. It asks, for example, how have scholars in different disciplines understood and theorized consumption?; how does the consumption of food, clothes, and other consumer products affect social, economic, cultural and environmental sustainability?; and who are main actors and how they interact each other in these processes?

[到達目標]

This course aims to foster students' better understanding of theories, approaches and practices concerning consumption. It particularly helps students to identify key theoretical studies and concepts on the issue and to critically analyze consumption from comparative perspectives.

[授業計画と内容]

Classes are held every other Friday in the 2-3 period.
Instructors: Shuji Hisano (SH), Ai Hisano (AH)

Week 1 (Oct. 6) - Introduction [SH/AH]
Week 2-3 (Oct. 13) - Sociology, Political Economy, and Geography of Consumption [SH]
Week 4-5 (Oct 27) - Sociology, Culture and History of Consumption [AH]
Week 6-7 (Nov. 10) - Place and Identity in Food Consumption [SH]
Week 8-9 (Nov. 24) - Consumption and “ Consumers ” / Emotions and Senses in Consumption [AH]
Week 10-11 (Dec. 8) - Political Economy of Sustainable and Healthy Food Consumption [SH]
Week 12-13 (Dec. 22) - Consuming Gender and the Body / Ethics and Sustainable Consumption [AH]
Week 14-15 (Jan. 19) - Final Discussion [SH/AH]

[履修要件]

No prerequisite knowledge or skill required other than English language ability sufficient to interact actively in class.

[成績評価の方法・観点]

Grading will be done on the basis of class participation/presentations (60%) and final assignment evaluation (40%).
To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS).

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)

Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

[教科書]

Reading materials will be made available in PDF through a Cloud system (Google Drive or Dropbox). All readings will be labeled depending on their importance: (a) Required, (b) Suggested, and (c) Optional. The list of readings will be distributed in advance of the start of the class.

[参考書等]

（参考書）

Reference literature will be made available on the Cloud system (Dropbox). They will be labeled "Reference", and are useful for students wishing to dig deeper into a specific topic.

[授業外学修（予習・復習）等]

Students are expected to complete all assigned readings to come prepared to discuss them in class.

（その他（オフィスアワー等））

Office hour: Please email the instructors for an appointment.

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

科目ナンバリング	G-LET36 6JK17 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	教育学研究科 教授　　佐野　真由子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Japan's early diplomacy during the last decade of the Tokugawa Shogunate										

[授業の概要・目的]

This course aims to explore Japanese diplomacy during the last decade of the Tokugawa Shogunate, through in-depth readings of documents (such as memoirs, diaries, and diplomatic correspondences) written by people who worked on the ground during that time.

In the course of 2023, we will encounter Rutherford Alcock (1809-1897), the first British Minister to Japan, who arrived in the country in 1859 and apparently played a pioneering role as a diplomat in the region. He eventually found himself a lover of Japanese art.

Large part of the course will be dedicated to looking into his own writings, in combination with some other sources when necessary. Students are not only expected to learn the Japanese history of the time, but to critically discuss the diplomat's conducts in a culture different from his own.

[到達目標]

Students will have apprehended the transcultural nature of Japan's path in the late 19th century. It is also aimed to familiarize the students with historical studies through carefully following an individual's experiences.

Furthermore, it is an important objective of the course to critically discuss people's conducts and development of their life in the forefront of facing a different culture.

[授業計画と内容]

Week 1:
Introduction

Week 2-13:
Discussions on experiences of Rutherford Alcock mainly through his representative work "The capital of the tycoon: a narrative of a three years' residence in Japan" (1863), in combination with some other sources when necessary.
Classes will consist of:
- Students' presentations on assigned readings (mainly from the above-mentioned book);
- Discussions and further analyses in class; and
- Introduction to additional sources and reading materials.

Note: The schedule and more concrete contents of each week will be considered most appropriately depending on the number of participants, their knowledge of the Japanese language as well as history, and other related conditions.

Week 14-15:
Final presentations and discussions (feedback) on the students' plans for their final papers.

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (2)

[履修要件]

Each student will be assigned in-depth readings and related research about a particular part of Alcock's writings and will give at least two oral presentations (mid-term and final) during the course. All students are expected to have read the part to be covered in each class, if not personally assigned, and to actively participate in discussions.

[成績評価の方法・観点]

Evaluation criteria:
1) Contribution to discussions in class: 20%
2) Oral presentations (each with an outline of several pages to be shared with all participants): 30%
2) Term paper (4,000-5,000 words): 50%

To JDTS/MATS students: This course can be taken as full seminar (8 ECTS) only.

[教科書]

Rutherford Alcock 『The capital of the tycoon: a narrative of a three years' residence in Japan (2 vols.)』（London: Longman, Green, Longman, Roberts & Green, 1863）（ Students may use the e-book version (New York: Harper & Brothers, 1863, in "Nineteenth Century Collections Online") via KULINE.）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

See [Class requirement].

（その他（オフィスアワー等））

Consultation (office hours) by appointment.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK17 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	国際高等教育院 教授　　河合　淳子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	SocSci Research Methods in Education										

[授業の概要・目的]

This course will examine various approaches and topics in the study of Japanese education, culture and society through reading sociological works on Japan. Education is a complex subject partly because everyone, having been educated, has a personal view about what education should be and should not be. However, generalizing from one's own experience can be dangerous. This is one of the reasons why sociological perspectives become important in the field of education.

Students will also learn the nature, purposes and methods of social science research in the field of education and each students will experience a small-scale research project to explore practical aspects of what students have learnt in class. Students will have opportunities to take a close look at what is happening and what has happened in Japanese education.

[到達目標]

・To understand sociological perspectives in education and the importance of social science research in education
・To gain knowledge of various research methods and to experience one of them
・To develop interests to participate in cooperative projects with members from various cultural background.
・To enable students to sharpen their skills in critical analysis through structured reading, discussion, written assignments and small scale research project.

[授業計画と内容]

1. Sociological perspectives on education (Week 1)
What do we know about education of our own? Do we really know about it?

2. The nature and purposes of social research in the field of education　(Week 2-3)
2-1: Education from Social science perspectives (Week 2)
2-2: Placing a case into historical and/or broader social contexts
-Connecting a “big data” with a “case study” and vice versa (Week 3)

3. Investigation on Japanese education (Week 4-7)
3-0: Overview (Week 4)
3-1: Condition of language education in Japan - Why do reforms return again and again? (Week 5)
3-2: Transition from schools to work - Introduction of various approaches- Functionalist approach, Conflict theorist approach, and Micro-interactionism 3-3: Futoko (Truancy, Non-attendance) - Discourse analysis of educational problems (Week 6)
3-4: Life of adolescences - Roles of Japanese school clubs, functions and culture of cram schools, teacherstudent relationship, relationship between schools and families. (Week 7)

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)へ続く↓↓↓

Topics of Weeks 5,6 and 7 are subject to change based on participants’ interests.

4. Research Planning: What are your research questions? (Week 8)

5. Lecture: Introduction to Research Methods (Week 9-12)
5-1: Modes of Inquiry- Quantitative Modes of Inquiry and Qualitative Modes of Inquiry
5-2: Sampling Techniques
5-3: Data Collection Techniques (1) Questionnaire (2) Observation (3) Interview
5-4: Interpretations of Data

6. Ethical issue in social research (Week 13)

7. Presentation on your project (Week 14)

Feedback (Week 15)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Participation to the group project and class activities (30%), short reports(30%), and Final report(40%). **授業への参加（３０%）、課題レポート（３０%）、期末レポート（４０%）で評価する。**

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

Grading for JDTS/MATS full seminar students.
The grading policy for JDTS/MATS full seminar students are same as above. Details are as follows.
・Short reports 1 and 2 (30%)
・Report 3 (40%)
・Class Participation (30%)

Grading for JDTS/MATS reduced seminar students
・Short reports 1 and 2 (40%)
・Final presentation handout (20%)
・Class Participation (40%)

Class participation includes i) Presentations (one short introductory presentation (5min.) of your topic and a final presentation), ii)Introducing assigned readings,and iii)Participation in discussions and activities in regular classes.

[教科書]

授業中に指示する
Handouts will be distributed.
プリント配布

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(3)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(3)

[参考書等]

（参考書）

Fukuzawa, Rebecca E. and LeTendre, Gerald 『Intense Years: How Japanese Adolescents Balance School, Family, and Friends』（Taylor and Francis,2001）
Rohlen, Thomas and LeTendre, Gerald (edx.) 『Teaching and Learning in Japan』（Teaching and Learning in Japan）
McMillan, James H. and Schumacher, Sally 『McMillan, James H. and Schumacher, Sally』（Addison Wesley Longman, Inc., 2001）
Light, Richard J. et al 『By Design: Planning Research on Higher Education』（Harvard University Press, 1990）
Weiss, Robert S 『Leaning from Strangers: The Art and Method of Qualitative Interview Studies』（The Free Press, 1994）

[授業外学修（予習・復習）等]

・Students are required to read through assigned readings and prepared for the discussions in each week.
・Students are expected to actively participate in preparations for the small-scale group project.

（その他（オフィスアワー等））

・Office hour by appointment
・We will conduct a small-scale group/individual research project in the latter half of the course.
Transportation fee, if necessary, should be covered by students. Enroll in Personal Accident Insurance for Students while Pursuing Education and Research.
講義後半には小グループまたは個人で簡単な実地調査に取り組む。旅費（交通費）が必要な場合、原則として受講生の負担となります。学生教育研究災害傷害保険に各自加入しておくこと。
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK17 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	経済学研究科 教授　　久野　秀二				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Comparative Development Studies: Situating Spatiality and Sustainability within Development										

[授業の概要・目的]

【This course is an international collaborative course】

This course consists of two different, but mutually intersecting sessions.

In the first session titled “Fair for whom? Politics, power and precarity in transformations of tropical forest-agriculture frontiers”, we critically examine the concept and realities of commodification frontiers on the ground in various regions around the world. We will explore how today’s frontiers of capitalism are not remote or “newly discovered” spaces, but new commodity forms within the confines of already formalized spaces. Building upon a brief discussion around the different framings of “development” in forest-agriculture frontiers, we will examine theoretical concepts and empirical methods for assessing the multiple dimensions of equity and theories of power and everyday politics, social and environmental justice and ecosystem service science.

The second session “Critical Understanding of Sustainable Development” aims at providing students with an overview of the last several decades of theoretical development in Development Studies leading up to, and including, a review of the concept of Sustainable Development. Throughout the course, student will review the main theoretical traditions of Development Sociology. As part of this review, the students will also review some of the main empirical examples used to debate these theories. The students will be encouraged to apply the theoretical material they master in this course to their own research interests.

[到達目標]

Students participating in this course are expected to acquire the knowledge and skills necessary to analyse the complex and dynamic processes of development and modernity and to understand how theory resonates in research set-up and reporting. It is our educational goal that participating students enhance their understanding and critical sense of reality of the ecological, economic, social and political systems from a multidimensional and multidisciplinary perspective.

[授業計画と内容]

Detailed Schedule is to be announced.

The first session of the course will be held in December 2023. Its tentative schedule is as follows:
- Lecture 1: 5th December 2023, Tuesday, 9:00-12:00
- Lecture 2: 8th December 2023, Friday, 9:00-12:00
- Lecture 3: 12th December 2023, Tuesday, 9:00-12:00
- Lecture 4: 18th December 2023, Friday, 9:00-12:00

It offers combination of different educational activities:
1) Lectures to introduce and explain theoretical approaches of development

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (2)へ続く↓↓↓

2) Multiple dimensions of equity, power and everyday politics.
3) Lecture and discussion around a case study in Southeast Asia
4) Lecture and discussion around a case study in Africa

The second session of the course will be held in the end of January and the beginning of February 2024.
It consists of two parts. In the first part of the session, students will review the main theoretical traditions of development sociology as well as the interdisciplinary definition of sustainable development. In the second part of the session, the students will be required to apply the concepts they have learned to their own empirical interests and to share these with other class participants.
1) Introduction: situating sustainability within development
2) Classical approaches to conceptualizing development
3) Why does "underdevelopment" persist?
4) Planning and evaluating development strategies
5) Reprise: situating sustainability within development

[履修要件]

There are no special requirements for this course. This course is designed for any and all students with an interest in international development, rural development and interdisciplinary approaches.

For the second session, students are asked to identify one journal article or book chapter that applies some conceptualization of sustainability (there are many) to a case or empirical analysis that is of interest. They will also be required to present an oral review of the reading each has selected to the class. This review should be 10 to 15 minutes in length. It should highlight: i) a critique of how the author defined the concept of sustainability to guide their analysis; ii) a critique of whether the analysis presented was useful and helped improved his/her understanding of sustainability; and iii) an assessment of whether/how this reading can be of use to each in the future.

[成績評価の方法・観点]

Grading will be done on the basis of attendance and class participation (60%) as well as a final presentation and/or assignment essay by each student (40%).

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

[教科書]

Readings will be made available through a Cloud system (e.g. GoogleDrive). See course schedule (t.b.a.) for a detailed reading list.

[参考書等]

（参考書）

Readings will be made available through a Cloud system (e.g. Dropbox). See course schedule (t.b.a.) for a detailed reading list.

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (3)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (3)

[授業外学修（予習・復習）等]

Participating students will be assigned to read required articles or self-selected articles beforehand. Since classes are very interactive, well-preparation for each class is very important for students to participate in discussions.

（その他（オフィスアワー等））

t.b.a.

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

大学院共通科目76

科目ナンバリング	G-LET36 6JK17 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	学際融合教育研究推進センター 特定助教 小林　舞				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水4,5	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	International Development Assistance Policy										

[授業の概要・目的]

This semi-intensive course provides students with a diverse overview of Japan's international development assistance policy and practice of the Japanese government, business actors, and civil society organizations based on actual cases.
The course allows students to learn about development practice in collaboration with the Japan International Cooperation Agency (JICA) under the Development Studies Programme. Each module will be led by guest lecturers, who are subject-matter experts working on a particular issue related to the module's theme.
Coursework will include in-class exercises, class discussions, take-home assignments, and/or group work to build students' ability to understand, analyze, and apply new knowledge.

[到達目標]

Students can expect to gain:
- A critically informed overview of Japan's international development assistance, policy making, and practices and locating policy agendas historically and within a global context.
- A critical understanding of and engagement with key policy-making and intervention issues in the international assistance arena.
- An ability to apply the skills and knowledge acquired during the course to actual development issues.

[授業計画と内容]

Course introduction and feedback will be done via Kulasis and PandA. The actual lectures are expected to start around Nov 22, 2023, and end on Jan 17, 2024(exact dates will be announced ASAP via KULASIS and PandA). Lectures are scheduled on Wednesdays from 15:00 to 18:15. The duration of each session is 3 hours with breaks. The order and content of each lecture (listed below) is subject to change slightly depending on the guest lecturer's schedule.
- Week 0: Introduction - Course overview (via the platform)
- Week 1: History of Japan's ODA, policies and programs; introduction of JICA (Guest lecturer from JICA)
- Week 2: JICA's priority and operation framework; introduction of selected projects operated by JICA; JICA's approach to development compared to other donors; JICA's outlook and future agenda (Guest lecturer from JICA)
- Week 3: Roles of the private sector in sustainable development (Guest lecturer from a private company)
- Week 4: Roles of the private sector in sustainable development (Guest lecturer from a private company)
- Week 5: Strengths and limitations of ODA: Case studies in Southeast Asia (Guest lecturer from a nongovernmental organization)
- Week 6: Strengths and limitations of ODA: Case studies in Africa (Guest lecturer from a non-governmental organization)
- Week 7: Course Feedback (via the platform)

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Grades will be based on the following:
- attendance and participation (credit will not be given for more than two absences),
- short reflection essays (500 words) to be completed after each lecture - 60% of the final grade.
- one final essay (1,500 words) to be completed individually or in a small group (2-3 people) after the course is completed - 40% of the final grade.

There are two options to complete the final project:
Option 1: Write a pitch (proposal) for a development project that you would hypothetically present to one of the course lecturers. For example, you could choose a problem that was raised during one of the classes and propose a solution. You could also present a project or idea that you think would solve an issue or problem that you are interested in. Your pitch should include a succinct description of the project, which lecturer(s) you would hypothetically present it to and why; and, how you think the lecturer would react to your ideas.
Option 2: Write an argumentative essay about which lecture was the most interesting or the most convincing. The article must include a set of reasons supported by evidence (facts) from the classes. Evidence can be what a lecturer said, the materials that s/he used during the lecture, and/or how they were presented.

[教科書]

授業中に指示する
Reading materials will be posted via PandA before each class.

[参考書等]

（参考書）
Bruce Currie-Alder, Ravi Kanbur, David M. Malone, and Rohinton Medhora (eds.) 『International development : ideas, experience, and prospects』（Oxford: Oxford University Press, 2014）
Veltmeyer, Henry and Paul Bowles 『The essential guide to critical development studies』（New York, NY : Routledge, 2017）

[授業外学修（予習・復習）等]

-Please come to each class ready to discuss the contents of all pre-assigned readings.

（その他（オフィスアワー等））

*Please visit KULASIS to find out about office hours.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK17 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	経済学研究科 准教授 IVINGS, Steven				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Economic and Business History										

[授業の概要・目的]

This course aims to provide students with the overview of economic and business history from global perspectives. It covers a broad range of topics, geographical areas, and time periods from the emergence of early and modern capitalism, the Industrial Revolution, and post-WWII economic growth to the transformation of the global economy from the 1980s. Students who specialize in economic history or business history are highly recommended to take this course, including those who have taken an economic and/or business history course at other institutions or those who have taken similar courses at Kyoto University only in Japanese, since this course will be conducted solely in English (including lecture, discussion, and assignments). The course is also highly recommended to students who do not specialize in business or economic history but want to deepen their understanding of business and the global economy.

[到達目標]

This course aims to foster an understanding of historical changes in business and economy. Upon completion of this course, students are expected to gain ability to:
-explain the transformation of the global economy, the impacts of economic changes on various parts of the world, and the role of business in history.
-identify and analyze key scholarly discussion in the fields of economic and business history.

[授業計画と内容]

1. Introduction: What is “Global” Economic History?
2. Globalization in Historical Perspective
3. The Industrial Revolution 1
4. The Industrial Revolution 2
5. The Great Divergence Debate 1
6. The Great Divergence Debate 2
7. Empire, Imperialism and Economic Change
8. Environment and Natural Resources
9. New Institutional Economics in Economic History
10. The State and Overcoming Relatives Backwardness
11. Consumption History and the Industrious Revolution
12. Mobility and the Global Economy
13. Convergence or Divergence? 1 - Economic Growth since WW2
14. Convergence or Divergence? 2 - Varieties of Capitalism
15. Feedback Session

The above is subject to variation.

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (2)

[履修要件]

No specific prerequisite knowledge or skill required.

[成績評価の方法・観点]

Attendance, active participation, and other in-class activities 50% (including presentation); Final paper 50%

[教科書]

To be announced in class

[参考書等]

（参考書）

To be announced in class

[授業外学修（予習・復習）等]

Students are expected to read all the reading assignments and prepare for class.

（その他（オフィスアワー等））

Office hours by appointment.

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

科目ナンバリング	G-LET36 6JK17 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	学際融合教育研究推進センター 特定助教 張　子康				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	International Relations in the Early Modern East Asia: The Role of "Intermediaries"										

[授業の概要・目的]

Unlike modern diplomatic relations, which are based on direct negotiations by diplomats representing the two governments, one of the major characteristics of international relations in the early modern (seventeenth century to mid-nineteenth century) East Asia is the significant role played by intermediaries. These intermediaries include various personnel such as merchants, seamen, and priests, but the most important would be the "interpreters". The duties of interpreters in early modern East Asia were much more complex than their modern counterparts. Aside from being the linguistic intermediaries in communications, they also served as negotiators in diplomatic and commercial relations. This course will explore the specific ways in which international relations in the early modern East Asian region were maintained and managed through the role of interpreters and other intermediaries.

[到達目標]

Through this course, students will be able to (1) have a comprehensive knowledge of the historical background on international relations in the East Asian region, and (2) deepen their understanding of the contemporary East Asian region as well. Students will also (3) gain a new perspective on the relative nature of contemporary diplomacy and international relations.

[授業計画と内容]

In this lecture, we will first review the historical characteristics of the early modern East Asian region in light of the latest research in Japanese, Chinese and English languages. Next, we will take a detailed look at the role of intermediaries who operated between China (the Qing Dynasty), which was at the center of the early modern East Asian international order, and Japan, Korea, Ryukyu (present-day Okinawa Prefecture), and Western nations. Lastly, a holistic understanding of the intermediary system in early modern East Asia will be presented through comparative analysis.

1.Introduction
2.Overview on the political, economic and social characteristics of the early modern East Asia(1)
3.Overview on the political, economic and social characteristics of the early modern East Asia(2)
4.Intermediaries in the Sino-Japanese relations (1)
5.Intermediaries in the Sino-Japanese relations (2)
6.Intermediaries in the Sino-Ryukyuan relations (1)
7.Intermediaries in the Sino-Ryukyuan relations (2)
8.Intermediaries in the Sino-Korean relations (1)
9.Intermediaries in the Sino-Korean relations (2)
10.Intermediaries in the Sino-Western relations (1)
11.Intermediaries in the Sino-Western relations (2)
12.Intermediaries in the Japanese-Korean/Dutch relations
13. Comparative analysis of intermediary system
14.Final Presentation

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)

15.Feedback

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Active participation in class - 25%
Final Paper and Presentation - 75%
(- Mid-term progress report - 20%)
(- Presentation of the Final Paper - 25%)
(- Final Paper - 30%)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Students are expected to actively prepare for the final paper, the progress of which will be checked in class.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK19 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture) Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	立命館大学大学院先端総合学術研究科 准教授 ROTH, Martin Erwin				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火5	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Digital games in a transcultural perspective										

[授業の概要・目的]

Digital games are widely recognized as a global culture. However, the term global remains vague in most discussions, to say the least. In order to gain a more nuanced understanding, this class aims at discussing the possibility of a transcultural perspective on digital games. Discussing a wide range of dimensions and examples of transcultural elements in digital games, participants will develop a toolkit for analyzing games and gaming culture from a transcultural perspective.

[到達目標]

The course provides an understanding of relevant transcultural theories of and transcultural aspects about digital games. It enables students to analyze digital games, gaming culture and other aspects of digital media culture from a transcultural perspective.

[授業計画と内容]

1. Introduction
2. Transculturality
3. Cultural Odorlessness
4. Global Circuits of Digital Play
5. Japans Game Production
6. Game Localization
7. Region lock and Rating
8. Positioning the researcher
9. Genre politics
10. Representations of culture
11. Platform cultures I
12. Platform cultures II
13. Knowledge communities
14. General Discussion

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

The course will be evaluated based on active participation in the discussion (30%), a short presentation (30%) and an essay on any transcultural aspect of digital games or gaming culture (40%), based on a six-point grade scale. The evaluation will be based on the course objectives.

Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

I expect you to prepare the weekly course readings as the course will be discussion-heavy and based on these readings.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK19 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture) Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定准教授 Ida Duretto				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木4,5	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Italian Neorealism in World Cinema										

[授業の概要・目的]

Italian neorealism (1945-1952) was a crucial movement in film history, marking an aware move away from mainstream Hollywood filmmaking and focusing on realistic characters and stories. Through a virtual journey across world film cultures, and national identities, this course aims to provide a critical approach to the enduring resonance of Italian neorealism in international cinema. We will start with a brief introduction on the main features of the movement and historical contextualization of the most relevant neorealist movies, from the masterpiece ‘Roma citta' aperta’ (Roberto Rossellini, 1945). Subsequently, the course will explore the broad influence of neorealism on global cinema, from the impact on contemporary filmmakers (e.g. Akira Kurosawa) to the late tributes (e.g. ‘Roma’, Alfonso Cuaron Orozco, 2018).

[到達目標]

Students will learn the most significant features of Italian neorealism. Investigating the wide-ranging impact of the neorealist movement, they will improve their knowledge of world cinema. Moreover, they will deepen their historical awareness of the relationships between a movie and its precursors. Students will be able to critically watch and discuss a film, prepare a presentation and perform it in front of the class. The seminar requires an active interaction of the students. Therefore, attendance is mandatory. Classes will be held in English.

[授業計画と内容]

This course is a cinema course, with some screenings, therefore one class is the length of 2 classes/180 min.

1: Italian neorealism. Introduction.
2-6: Italian neorealism in global cinema. Screening and commentary of world movies influenced by Italian neorealism.
7: Presentations prepared by students.
8: Feedback.

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Evaluation will depend on 1. active class participation; 2. exercises (in class and at home); 3. final exam. Attendance is mandatory. No more than one absence is allowed.

Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

The instructor will assign exercises and homework after classes.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目81

科目ナンバリング	G-LET36 6JK19 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture) Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	東京大学人文社会系研究科 准教授 吉田　寛				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Understanding Japan through Its Gaming Culture										

[授業の概要・目的]

This course aims to gain a general understanding of the contemporary Japanese culture and society through its gaming culture. It focuses on the points of contact and overlap between game studies and Japanese studies.

[到達目標]

The aim of this course consists in gaining a general understanding of the contemporary Japanese culture and society in connection with its game culture and encouraging students to develop their own researches and projects in line with this topic.

[授業計画と内容]

1-5: Key concepts in game studies
6-10: Key discussions in game studies
11-15: Game studies and Japanese studies

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Participation and performance in class (50%) + term-end assignment (50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

[授業外学修（予習・復習）等]

Details are shown in class.

（その他（オフィスアワー等））

Details are shown in class.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目82

科目ナンバリング	G-LET36 6JK21 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　村上　衛 文学研究科　特定講師 ERICSON, Kjell David				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火2	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Topics in Modern East Asian History										

[授業の概要・目的]

This course explores Modern East Asian History from transcultural perspectives.
From Session 1 to Session 10: The first section will introduce the history of science and technology in 20th century East Asia.
From Session 11 to Session 14: We will discuss various aspects of the South China Sea in the 19th century.

Study Focus: Knowledge, Belief and Religion; Society, Economy and Governance.
Modules: Mobility & Research 1; Mobility & Research 2; Research 3.

[到達目標]

Students will be able to:
-get a sense of major issues and new approaches to the study of science, technology, and society in East Asia.
-further understand society and economy of Modern China from the perspective of maritime history.

[授業計画と内容]

Weeks 1-10（Ericson)
1. Introduction: Science and Technology in 20th-Century East Asia
2. Rethinking "Modern" and "Scientific" Knowledges
3. Spaces and Agents of Encounter I
4. Spaces and Agents of Encounter II
5. Everyday Technologies
6. Infrastructure
7. Mid-20th-Century Developmentalisms
8. Revolutions: Red, Green, and Blue
9. Risk, Disaster, and Citizen Science
10. Pandemics as History and Concluding Themes

Weeks 11-14（Murakami)
11. Opium Trade in the Coastal Area of China before the Opium War
12. "Traitors" and the Qing Government's Policies toward Coastal Residents of Fujian and Guangdong during the First Opium War
13. The End of the Coolie Trade in Southern China
14. Pirates of Fujian and Guangdong and the British Royal Navy

Week 15 Feedback

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) (2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Active participation (30%), short essays (30%), and final essay (40%).
To JDTS/MATS students: This course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

Yen Ching-hwang 『Coolies and Mandarins: China’s Protection of Overseas Chinese during the Late Ch’ing Period (1851-1911)』（Singapore University Press）
Hiromi Mizuno, Aaron S. Moore, John Dimoia, eds. 『Engineering Asia: Technology, Colonial Development, and the Cold War Orde』（Bloomsbury）
Shellen Wu 『China: How Science Made a Superpower』
Eiko Maruko Siniawer 『Waste: Consuming Postwar Japan 』（Cornell University Press）
Sigrid Schmalzer 『Red Revolution, Green Revolution: Scientific Farming in Socialist China』（University of Chicago Pres）
Yeonsil Kang 『Bodies as Evidence: Activists and Patients Responses to Asbestos Risk in South Korea』（Science, Technology, and Society (2016)）
Sara Pritchard 『An Envirotechnical Disaster: Nature, Technology, and Politics at Fukushima』（Environmental History (2012)）
Fairbank, John K 『Trade and Diplomacy on the China Coast: The Opening of the Treaty Ports, 1842-1854』（Harvard University Press）
Wakeman, Frederick, Jr. 『Strangers at the Gate: Social Disorder in South China, 1839-1861』（University of California Press）

[授業外学修（予習・復習）等]

The students are expected to read the assigned materials.

（その他（オフィスアワー等））

*Please visit KULASIS to find out about office hours.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK21 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　講師　Bjorn-Ole Kamm				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Decisions, Orderings, and the Nation: Japan at Play										

[授業の概要・目的]

This course deals with leisure and play as matters of concern for politicians and many other actors in and outside Japan. Taking cues from relational materialism and a transcultural approach to studying culture as ordering difference, this course seeks to engage actors with an ideal narrative about Japan and Japanese culture (e.g., expressed in leisure policies), "how they ought to be." The goal is to analyze the decision-making as well as the mechanisms, embodiments, and performances employed to reach that ideal. Such ideals and strategies are always in conflict with other ideals, thus, always limited. Of interest are such orderings that actors are able to sustain and, of course, where they fail.
The picture of agents making a move and others a counter move, so that the outcome is not random chaos but that still no one has complete control, the metaphor of society or culture as some kind of game, framing social interactions as a game, asks to be taken seriously. Thus, this class includes a group project of designing a gaming simulation about leisure policies and nation-branding, such as a card game about tourism and taxes or temples and commodification.
Study Focus: Knowledge, Belief and Religion; Society, Economy and Governance.
Modules: Mobility & Research 1; Mobility & Research 2; Research 3.

[到達目標]

First and foremost, students will learn step-by-step protocols for critically reading existing literature and studies, followed by a framework for analyzing cultural phenomena by focusing on describable attempts of ordering (discourses, institutions, embodiments) that produce these phenomena using the example of Japan in a transcultural context.

[授業計画と内容]

Course sessions will be held in accordance with the following general structure. A detailed plan for each class will be determined depending on the number of and the feedback from the participants and will be announced in class. Parts 2 and 3 may be organized as block sessions or held asynchronously with student presentations as videos on demand.
(1) Introduction [3 weeks]
Lecture on Cultural Studies as the study of ordering modes (theoretical concepts, basic terminology, methodological protocols) and "play" as an object of inquiry, followed by an introduction to debates about the "Japaneseness" of leisure activities in Japanese-language discourse (since the 1960s). Students will further be provided with guidelines for class preparation and exercises.
(2) Readings and Discussion [5 weeks]
Students will read studies on play, leisure, and work taken from different moments in Japanese history (e.g., Meiji Restoration, prewar tourism, postwar income policies, lifestyle superpower, moratorium people, or Akihabara redevelopment) to present and discuss these readings in class. The focus lies on the question of if -- and how -- these readings exemplify studies of ordering modes and how different approaches may lead to different conclusions.

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) (2)へ続く↓↓↓

(3) Exercises [6 weeks]
Building on the previous sessions and depending on the number of participants, students will formulate and conduct exercises on current issues in Japan in which play is ordered and managed. In a group project, they will develop gaming simulations to understand cases of ordering.
(4) Conclusion and Feedback [1 week]

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

To JDTS/MATS students: This course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.
All students: Homework (20%), exercise and presentation script (50%), feedback (10%), active participation (20%). For a full seminar (8 ECTS): An additional research paper (counting 30% of the overall grade).

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
The course materials as well as lecture slides will be made available via the course webpage.
The course takes guiding cues from
Kendall, Gavin, and Gary Wickham. 2001. Understanding Culture: Cultural Studies, Order, Ordering. London, Thousand Oaks: Sage.
Law, John. 1994. Organizing Modernity. Oxford: Blackwell.
Leheny, David. 2003. The Rules of Play: National Identity and the Shaping of Japanese Leisure. Ithaca: Cornell University Press.
Reading these books is not mandatory but the course will reference certain points of their discussion.

[授業外学修（予習・復習）等]

Regular homework as well as exercises will play an important role in this course. Participants need to prepare one reading before each class session and are asked to write short comprehension essays afterward, both of which will require at least one hour. Participants present at least one topic in class, which also necessitates preparation outside of class.

（その他（オフィスアワー等））

Consultation (office hours) by appointment. The course webpage will be available to download the course material.
Please contact Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK21 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定講師 ERICSON, Kjell David				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木3	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Historical Seminar: Animals and Borders										

[授業の概要・目的]

This seminar introduces students to issues related to the historical study of animals. Animal history and the wider category of animal studies are areas of increased academic and popular interest, yet both encompass a wide range of approaches. In this course, we will examine persistent historical problems: defining (human and non-human) animals, living alongside them, working with them, fighting against them, memorializing them, and eating them. The course will make use of the explosive growth in English-language studies of animals in and around the Japanese archipelago. In so doing, it will allow students to consider how human-animal relationships have changed alongside political, cultural, and economic developments in Japan, East Asia, and the Pacific Ocean world.

Classes will include discussion of books, articles, and films. The final project asks students to research the regional and transnational histories of institutions, spaces, and practices related to animals in the Kyoto area.

[到達目標]

After this course, students should:
* better understand the methods, problems, and assumptions of animal history
* undertake individual field and archival research
* communicate ideas during in-class discussion and through written reports

Study Focus: Society, Economy and Governance.
Modules: Mobility & Research 1; Mobility & Research 2; Research 3.

[授業計画と内容]

Course Outline

1. Introduction
2. Archives and Animal Traces
3. Multispecies Approaches
4. Animal Agency, Animal Actors
5. Rethinking Domestication
6. Disease
7. Pest: Invasiveness
8. Pets: Companionship and Kinship
9. Insects ("Bugs") at the Center
10. Encounters, Borderlands, and Borderwaters
11. Conservation: Knowing "Wildlife"
12. Extinction Stories
13. The Zoo
14. Fieldwork

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)

15. Presentations/Feedback

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Attendance, participation, reading responses, and presentations in class (30%), short book analyses (30%), and final research project and project presentation (40%).

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

[教科書]

授業中に指示する

At least one copy of the books will be available in the library and through the university's online subscriptions, although in some cases (particularly during the weeks where you are responsible for presenting) it may be advisable to purchase a new or used copy for yourself.

In other cases, articles will be available for download through the university library or distributed before class.

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

・Students are required to read through assigned readings and prepared for the discussions and presentations each week.

・Students are expected to actively participate in preparations for the final project.

（その他（オフィスアワー等））

・Office hours will be held once a week at a fixed time (to be determined) and by appointment.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目85

科目ナンバリング	G-LET36 6JK21 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定講師 ERICSON, Kjell David				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Issues in Environmental History: Nature, Knowledge, Place, and Surroundings										

[授業の概要・目的]

When we conjure up "the environment" in our mind ’s eye, what do we see? Perhaps we envision mountains, trees, streams, and waves--scenes where humans don ’t appear or make only transient visits. Some of us could think about holistic linkages among all living creatures and their surroundings. Others among us may imagine how human societies have exploited and polluted relationships to non-human spaces. We might also "see" worldwide phenomena that are less obviously visible from a single vantage point, most notably climate change.

This course invites us to reflect upon the multiplicity of environments and environmental thinking around the world, at a moment defined by global-scale environmental crises and human impacts. Some questions are: How have ways of understanding the environment, sustainability, and nature emerged, interacted, and changed? Can we study the world through approaches that go beyond human perspectives alone?

[到達目標]

・The course will introduce you to the multi-stranded field of environmental history, which is animated by desires both to understand the past on its own terms and to bring the past to bear on present-day problems.

・The course will press us to think about how environmental ideas structure people ’s everyday lives and inform their political priorities. We will consider these issues by looking closely at recent English-language research related to the Japanese archipelago and its environs. We will explore how concepts of nature, human artifice, resources, pollution, science, conservation, war, and food have functioned in Japan. By the same token, we will survey "more-than-human" approaches to understanding environments. We are lucky in this course to have a rich space in which to pursue these possibilities on the ground: Kyoto and its surroundings.

・By the end of the course, you will be prepared to conduct research related to environmental history from new points of view.

[授業計画と内容]

Week 1. Introduction

I. Approaches to Environmental History
Week 2. The Trouble with Wilderness
Week 3. Envirotech
Week 4. Climate History

II. Narrating Environmental Transformation
Week 5. Visualizing and Managing Land and Sea
Week 6. Changes in the Land
Week 7. Nature and Empire

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)へ続く↓↓↓

Week 8. War
Week 9. The Archives of Environmental History

III. Environmentalisms
Week 10. Knowing Harm
Week 11. Conceptual Interlude 1
Week 12. Disaster
Week 13. Conceptual Interlude 2
Week 14. Environmentalisms

Week 15. Presentations and Feedback

(Please note that the precise topics and order are both subject to change.)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Attendance, participation, and presentations in class (25%)
Short weekly reading responses (25%)
Final paper (50%)

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

[教科書]

At least one copy of the books should be available in the library and through the university's online subscriptions, although in some cases (particularly during the weeks where you are responsible for presenting) it may be advisable to purchase a new or used copy for yourself.

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

・Students are required to read through assigned readings and prepared for the discussions and presentations each week.
・Students are expected to actively participate in preparations for the final project.

（その他（オフィスアワー等））

・Office hours will be held once a week at a fixed time (to be determined) and by appointment.

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(3)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(3)

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目86

科目ナンバリング	G-LET36 7JK22 SE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Colloquim) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Colloquim)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　児玉　聡				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水3	授業形態	演習	使用言語	英語
題目	An Introduction to Bioethics										

[授業の概要・目的]

Is it okay to take pills to help you ace exams? Should you be able to choose the sex of your child? Is abortion murder?
These controversial questions will be explored in this bioethics course. Bioethics is an interdisciplinary field of study that looks into ethical, legal, and social implications of life sciences and health care.
This course will help you understand key ethical issues surrounding crucial problems that profoundly impact your life from birth to death.
Topics include:
Reproductive technology such as surrogacy and sex-selection of the baby Abortion
Informed consent
Euthanasia
The use of medical technology for the purpose of enhancement
You will also learn about ethical arguments and regulations in Japan and other countries concerning life sciences and healthcare. The hope is, through this course, you will better understand and formulate your own opinions on these important issues.
This course is based on the idea of flip teaching: you need to watch the lecture video before attending the class and have a discussion with other students.
Study Focus: Knowledge, Belief and Religion; Society, Economy and Governance. Modules: Focus I -- Foundations I.

[到達目標]

You will learn:
Basic terms for bioethics
Basics of ethical arguments
How decisions are made on critical bioethics issues
Regulations and public policies related to bioethical issues in Japan and other countries

[授業計画と内容]

Discussion topics include:
1. What is Bioethics?
2. The Ethics of Assisted Reproductive Technology
3. The Ethics of Truth-Telling
4. Is Abortion “ Murder ”?
5. What ’ s Wrong with Enhancement?
6. Is Euthanasia Wrong?
7. Living-Donor Organ Transplantation
8. Cloning Technology
9. ES Cells and iPS Cells
10. Lifespan and Eternal Life

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Colloquim)(2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Colloquim)(2)

11. Brain Death and Organ Transplants
12. Genome Editing and Ethics
13. The Problem with "Suicide Tourism"
14. Forgoing Life-Sustaining Treatment
15. The Ethics of Ageing

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Class attendance and active participation (70%), completing small quiz tests and active participation in discussion forums (30%).

[教科書]

Kodama, Satoshi & Natsutaka 『EXPLORING BIOETHICS THROUGH MANGA: Questions on the Meaning of "Life" 』（Kyoto: Kagakudojin）ISBN:978-4759827774

[参考書等]

（参考書）

Tony Hope and Michael Dunn 『Medical Ethics: A Very Short Introduction 2nd ed.』（Oxford University Press）ISBN:978-0198815600

[授業外学修（予習・復習）等]

This course is based on the idea of flip teaching: you need to read the textbook and complete a small quiz test before the class in which you will have a discussion with other students.

（その他（オフィスアワー等））

Students are encouraged to try to understand each other's perspective on issues related to life and death.

*Please visit KULASIS to find out about office hours.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 6JK23 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (KBR/VMC)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/VMC)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　吉井　秀夫 文学研究科　教授　下垣　仁志 人文科学研究所 教授　FORTE，Erika				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月5	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	East Asian Origins: Ancient History and Material Culture										

[授業の概要・目的]

In this special lecture, we offer an overview of various archaeological studies about the prehistoric and ancient East Asia, with the results of our researches and studies. We also examine the characteristics of the archaeological studies of the East Asia in Japan, by comparison of the studies in Europe and the US.
The department of archaeology in Kyoto University has excavated archaeological sites in Japan, Korea, and China, and has gathered various artifacts from all areas of the world. These archaeological data will be introduced in this special lecture.

Study Focus: Visual, Media and Material Culture; Knowledge, Belief and Religion.
Modules: Mobility & Research 1; Mobility & Research 2; Research 3.

[到達目標]

By the end of this special lecture, student will get familiar with the artifacts of East Asia, and have general understanding of the issues about the prehistoric and ancient archaeology in East Asia.

[授業計画と内容]

This special lecture will be offered in accordance with the following general structure. The detailed plan for each class will be announced in the introduction.

1 Introduction (1 week)
　Introduction of the special lecture.

2 History of the East Asian archaeology in Japan (5weeks)
　This section will outline the history of archaeological investigations, studies and gathering artifacts in Japan, Korea and China by Japanese archaeologists,

3 Archaeology of daily life cultures in prehistoric and ancient Japan(4weeks)
　This section will outline prehistoric and ancient daily life cultures (clothes, foods, toilet and so on) from structural remains and artifacts excavated in Japan.

4 The Eastward Transmission of Buddhist Culture from Archaeological Perspective (3weeks)
　This section will deal with the transmission of Buddhism to central Asia, with a focus on the material culture of the Tarim Basin area (present Xinjiang Uyghur Autonomous Region in China), a region crossed in antiquity by the network of routes known as the Silk Road.

5 Discussion (1 week)

6 Feedback(1week)

Research 1~3-Seminar (KBR/VMC)(Lecture) (2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (KBR/VMC)(Lecture) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Attendance and participation: 40%, Course Essay:60%

[教科書]

使用しない
Not used

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する
To be announed in class

[授業外学修（予習・復習）等]

The participants are expected to spend a certain amount of time outside of this class reading the reference papers and books announced in class.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 7JK26 SE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Colloquim) Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Colloquim)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　講師　Bjorn-Ole Kamm				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水4	授業形態	演習	使用言語	英語
題目	Actors, Processes, and Networks: Studying (Sub-) Cultural Practices										

[授業の概要・目的]

Research into (sub-) cultures, for example, fan studies, often focuses either on the content or on the communities of fandom, at times essentializing involved persons or drawing borders around things that are highly interconnected and dynamic. Cultural practices, however, are performative, meaning that they exist through “doing,” through recreating, tracing the network of involved human and also non-human elements. With a focus on doing, transforming, and ordering, this course borrows from Wittgenstein, Foucault, Butler, Schatzki, and Reckwitz but favors the heuristic device of the network: Practices are drawn as networks that have gained a certain durability that makes them recognizable for others with the consequence that they can be spoken about and be treated as a resource when doing the practice. A practice-as-network consists of interdependent material and non-material elements encompassing bodies, body parts, bodily movements, materials or things, practical knowledge or know-how/competencies, and concepts/theoretical knowledge of the practice. Practices-as-networks are recursive: With each performance, the network is slightly reconfigured. With the example practice-as-network often abridged as role-playing games, this course introduces students to a (trans-) cultural studies approach of practices, actors, and processes.

Study Focus: Society, Economy and Governance, Visual, Media and Material Culture.
Modules: Mobility & Research 1; Mobility & Research 2; Research 3.

[到達目標]

Building on a Wittgensteinian approach to cultural practices, students will acquire knowledge and skills in how to develop a matching research design for studies sensitive to the role of actors and materials alike. They will be introduced to theories of agency, networks, and practices on a general level, and learn about their concrete application with the example of non-digital role-playing games, focusing on games in and from Japan but in a global context.

[授業計画と内容]

Course sessions will be held in accordance with the following general structure. A detailed plan for each class will be determined depending on the number of and the feedback from the participants and will be announced in class. Student presentations may be organized as block sessions or as videos on demand followed by discussion.
The first five sessions introduce students to actor, network, and practice theories as well as the case subject, roleplaying games. Students will further be provided with guidelines for class preparation and exercises. Subsequent sessions look at the transcultural history of role-playing game practices, at game design theories, such as the Big Model, discussions about inclusion and exclusion among player groups, and detail tools for practice-oriented studies at home in the qualitative social sciences and engaging online as well as offline spheres of interaction.
Students apply the tools they learned to a subject of their own research interest in the following five sessions, culminating in student presentations. The last five sessions of the semester will concern a review of the

Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Colloquim) (2)へ続く↓↓↓

student projects, collecting additional data, and the writing of term papers about their research.

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

To JDTS/MATS students: This course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.
Students will have much flexibility in gaining points through various tasks they need to fulfill during the semester, such as actively guiding the discussion, translating course material into their own understanding, or presenting a topic in class. Evaluation depends on the number of fulfilled quests. For 8 ECTS, however, the term paper dungeon needs to be cleared.

[教科書]

Fine, Gary Alan. 1983. Shared Fantasy: Role-Playing Games as Social Worlds. Chicago: University of Chicago Press.
Foucault, Michel. 1991. The Foucault Effect. Chicago: University of Chicago Press.
Kamm, Bjorn-Ole. 2020. Role-Playing Games of Japan: Transcultural Dynamics and Orderings. New York: Palgrave Macmillan.
Latour, Bruno. 2005. Reassembling the Social. An Introduction to Actor-Network-Theory. Oxford: Oxford University Press.
Law, John, and Annemarie Mol, eds. 2002. Complexities: Social Studies of Knowledge Practices. Durham: Duke University Press.
Schatzki, Theodore R. 1996. Social Practices: A Wittgensteinian Approach to Human Activity and the Social. Cambridge: Cambridge University Press.
Zagal, Jose Pablo, and Sebastian Deterding, eds. 2018 Role-Playing Game Studies: Transmedia Foundations. New York: Routledge.
Excerpts will be provided in class.

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

The course materials as well as lecture slides will be made available via the course PandA webpage.

[授業外学修（予習・復習）等]

Regular homework as well as exercises will play an important role in this course. Participants need to prepare one reading before each class session and are asked to write short comprehension essays afterward, both of which will require at least one hour. Participants present at least one topic in class, which also necessitates preparation outside of class.

（その他（オフィスアワー等））

Consultation (office hours) by appointment. The course webpage will be available to download the course

Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Colloquim) (3)へ続く↓↓↓

material.
Please contact Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

科目ナンバリング	G-LET36 7JK30 PJ36										
授業科目名 <英訳>	Research 2-Advanced English Research 2-Advanced English					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定講師 ERICSON, Kjell David				
配当学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火3	授業形態	実習	使用言語	日本語
題目	Weekly Writing Practicum										

[授業の概要・目的]

****
IMPORTANT: At least during October, this class will be offered in an online or hybrid format. Please check “ Class support ” or PandA for detailed information.
注意：少なくとも10月中に本科目はオンライン・ハイブリッド形式で提供される予定です。詳しくは「授業サポート」またはPandAをご確認ください。
****

This course will introduce graduate students to different approaches to the craft of historical writing in English. Topics to be covered include grant/fellowship proposal writing, journal article submissions, and academic presentations. The central concern is to hone the historian's most important skill for international communication: the writing of clear, persuasive, and gripping English-language prose. As noted below, there are multiple reasons for taking this kind of course.

(Students from different research backgrounds are likely to participate. Thus, depending on student preferences, in-class discussion can be in English, Japanese, or a combination thereof.)

[到達目標]

Objectives for the course include:
Preparing and delivering a spoken conference-style presentation.
Writing a short research proposal for an overseas fellowships.
Identifying concrete steps for submitting your research to English-language journals (as well as, of course, working to improve your writing in general).

[授業計画と内容]

The precise outline of the course will be determined in concert with student preferences. Here is one possible format:

Week 1: Introduction
Week 2: The Craft of History Writing
Week 3: Identifying Your Research Goals
Weeks 4-6: Preparing a Research Proposal with Peer Review Feedback
Week 7: Mini-presentation of Research Proposals
Weeks 8-11: Working on a Longer Paper Topic
Weeks 12-14: Developing Presentations and Peer Review Feedback on Papers
Week 15: Final Presentations

Research 2-Advanced English (2)へ続く↓↓↓

Research 2-Advanced English (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Evaluation will consist of the following components:
Attendance, assignments, peer-review assessments, and discussion 40%
Shorter in-class presentations and final presentation 20%
Final paper 40%

This course is intended for graduate students with interests in historical research. Registration is capped at 8 students in order to ensure plenty of time for individualized discussion and feedback.

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Please be sure to make time to prepare the written and oral assignments outside of class.

（その他（オフィスアワー等））

Office hours will be determined at the beginning of the course.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 79829 SB36										
授業科目名 <英訳>	Heidelberg-Strasbourg Student Workshop Heidelberg-Strasbourg Student Workshop					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　講師　Bjorn-Ole Kamm 文学研究科　特任教授　Sandra Schaal				
配当学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2023・後期不定	曜時限	その他	授業形態	演習	使用言語	日本語及び英語
題目	Heidelberg-Strasbourg Student Workshop on Transcultural Topics										

[授業の概要・目的]

Each year, the Kyoto University Graduate School of Letters sends a student delegation to its partners in Europe, Heidelberg University and Strasbourg University. At each partner university, the students will come together with researchers and fellow students of the Japanese Studies department (Strasbourg) and the Master in Transcultural Studies (Heidelberg) to hold joint workshops about a given topic of historical and contemporary concern. Kyoto University GSL students currently studying in Heidelberg are invited to join this program.

In the previous years, topics included “Nationalism in the Era of Globalization,” “Peace and Conflict in Asia and Europe” and will continue to explore questions of transculturality in and between Asia and Europe. The purpose of the two joined workshops is to engage with academic background talks by senior researchers, followed by an exchange of ideas with fellow students concerning cultural negotiation and transculturation. Students will deepen their understanding about the dynamics of transculturality and cultural exchange by studying policies, social movements but also representations in art and literature, and by expressing their own thoughts in talks.
Additionally, students will visit institutions, museums of Heidelberg and Strasbourg to learn about the history and current affairs of the cities where the partner universities are located.

[到達目標]

Students will acquire competence in writing, presenting, and discussing an English-language paper that relates to the topic of the workshops. They will gain practice in commenting and critiquing other papers to assist each other in giving and receiving constructive feedback. Furthermore, students will gain knowledge about EU institutions, French and German history, and the history of partner universities.

[授業計画と内容]

The course will be offered in accordance with the following general structure. A detailed plan will be determined during the preparation weeks for the student delegation (December to January).

In Heidelberg:
* Guidance [1 hour].
* Field research at the Documentation and Culture Center of German Sinti and Roma [2 hours].
* One-day student workshop [6 hours].

In Strasbourg:
* Guidance [1 hour].
* Field research at an institution of the European Union, e.g. parliament [2 hours].
* Student workshop [3 hours].

Heidelberg-Strasbourg Student Workshop(2)へ続く↓↓↓

Heidelberg-Strasbourg Student Workshop(2)

The students are asked to prepare readings for the workshops from December when they are announced by the instructor. By the end of January, they need to submit a presentation file (PowerPoint or Keynote) and a draft of their script.

The actual workshops will take place in the first week(s) of February.
Note: Depending on the schedule, parts of the visits may fall within Heidelberg University ’s lecture period. The program will be scheduled so that it does not interfere with regular classes.

[履修要件]

Completion of module "Introduction to Transcultural Studies." Mainly for first-year student of Joint Degree M. A. Program in Transcultural Studies.

[成績評価の方法・観点]

Presentation during the workshops (80%), active participation in discussions (20%).

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Participants need to prepare the readings designated for the workshop topic and prepare a 20-minute paper.

（その他（オフィスアワー等））

*Please visit KULASIS to find out about office hours.
Consultation (office hours) by appointment. The course webpage will be available to download the course material.
Please contact Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目91

科目ナンバリング	G-LET36 7JK29 SE36										
授業科目名 <英訳>	Research 3&MA Thesis-Research Colloquium Research 3&MA Thesis-Research Colloquium					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　安里　和晃 文学研究科　教授　VASUDEVA, Somdev 文学研究科　教授　Mitsuyo Wada-Marciano 文学研究科　講師　Bjorn-Ole Kamm				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期不定	曜時限	その他	授業形態	演習	使用言語	英語
題目	Research Colloquium										

[授業の概要・目的]

During the Research Colloquium students develop, present, and discuss their research plans in front of their supervisors and fellow students. Furthermore, writing samples from the master's thesis are presented and discussed. This regular feedback will facilitate a structured completion of the thesis.
In the master's thesis students apply relevant methodologies and theories of Transcultural Studies, as well as linguistic competences, regional knowledge, and project management skills to a research project of their own design and in line with the chosen study focus. In consultation with their supervisor, students develop a specific research question and select relevant methods and research material. They contextualize their project within the state of the art of scientific debates and present their findings in written academic English.

Study Focus: all.
Modules: Research 3; Master's Thesis.

[到達目標]

Students will learn to independently design and realise a research project (research question, line of argumentation etc.). They will gain the ability to relate and critically discuss complex research issues within the field of Transcultural Studies. Additionally, thy will acquire advanced time and project management skills.

[授業計画と内容]

The respective supervisor of the master's thesis will guide the students in choosing their research question and in the concrete planning of their projects. Depending on the number of students and the needs of the group, each course week is either devoted to the discussion of a particular theory or methodology (which will be based on readings out of class), or offers the students a space to present the current status of their master's theses (one session can allow for one to two presentations).
The concrete schedule will be determined in the first session of the course.

[履修要件]

Completion of modules "Introduction to Transcultural Studies," "Skills for Transcultural Studies," "Focus 1" and "Focus 2" (Master Program in Transcultural Studies).

[成績評価の方法・観点]

Presentation (40%), discussion (40%), active participation (20%).

[教科書]

使用しない

Research 3&MA Thesis-Research Colloquium(2)へ続く↓↓↓

Research 3&MA Thesis-Research Colloquium(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

The participants are expected to spend a certain amount of time outside of this class for this course. The planning of the master's thesis, in-class presentations and discussions will play an important role in this course, so the preparation of presentations and literature as well as the review of feedback received during the class requires at least about an hour.

（その他（オフィスアワー等））

*Please visit KULASIS to find out about office hours.
Consultation (office hours) by appointment.
Please contact the respective thesis supervisor for any questions regarding this course syllabus.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 7JK29 SE36										
授業科目名 <英訳>	Research 3&MA Thesis-Research Colloquium Research 3&MA Thesis-Research Colloquium					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　安里　和晃 文学研究科　教授　VASUDEVA, Somdev 文学研究科　講師　Bjorn-Ole Kamm				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期不定	曜時限	その他	授業形態	演習	使用言語	英語
題目	Research Colloquium										

[授業の概要・目的]

During the Research Colloquium students develop, present, and discuss their research plans in front of their supervisors and fellow students. Furthermore, writing samples from the master's thesis are presented and discussed. This regular feedback will facilitate a structured completion of the thesis.
In the master's thesis students apply relevant methodologies and theories of Transcultural Studies, as well as linguistic competences, regional knowledge, and project management skills to a research project of their own design and in line with the chosen study focus. In consultation with their supervisor, students develop a specific research question and select relevant methods and research material. They contextualize their project within the state of the art of scientific debates and present their findings in written academic English.

Study Focus: all.
Modules: Research 3; Master's Thesis.

[到達目標]

Students will learn to independently design and realise a research project (research question, line of argumentation etc.). They will gain the ability to relate and critically discuss complex research issues within the field of Transcultural Studies. Additionally, thy will acquire advanced time and project management skills.

[授業計画と内容]

The respective supervisor of the master's thesis will guide the students in choosing their research question and in the concrete planning of their projects. Depending on the number of students and the needs of the group, each course week is either devoted to the discussion of a particular theory or methodology (which will be based on readings out of class), or offers the students a space to present the current status of their master's theses (one session can allow for one to two presentations).
The concrete schedule will be determined in the first session of the course.

[履修要件]

Completion of modules "Introduction to Transcultural Studies," "Skills for Transcultural Studies," "Focus 1" and "Focus 2" (Master Program in Transcultural Studies).

[成績評価の方法・観点]

Presentation (40%), discussion (40%), active participation (20%).

Research 3&MA Thesis-Research Colloquium (2)へ続く↓↓↓

Research 3&MA Thesis-Research Colloquium (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

The participants are expected to spend a certain amount of time outside of this class for this course. The planning of the master's thesis, in-class presentations and discussions will play an important role in this course, so the preparation of presentations and literature as well as the review of feedback received during the class requires at least about an hour.

（その他（オフィスアワー等））

*Please visit KULASIS to find out about office hours.
Consultation (office hours) by appointment.
Please contact the respective thesis supervisor for any questions regarding this course syllabus.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET36 8J980 GE36										
授業科目名 <英訳>	Oral Master Examination - Oral Examination Oral Master Examination - Oral Examination					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　安里　和晃 文学研究科　教授　VASUDEVA, Somdev 文学研究科　教授　Mitsuyo Wada-Marciano 文学研究科　講師　Bjorn-Ole Kamm				
配当学年	1回生以上	単位数	0	開講年度・開講期	2023・前期不定	曜時限	その他	授業形態		使用言語	英語
題目	Oral Examination										

[授業の概要・目的]

Oral examination (30 min.) on overall knowledge in the field of Transcultural Studies plus one topic from the chosen study focus. Registration or completion prerequisite for Master Thesis registration at Heidelberg University.

Study Focus: all.

[到達目標]

Objectives of module:
With the successful completion of this module students have acquired the following competences:
- Ability to present, analyse, and critically discuss the state of the art of their exam topics;
- Ability to critically relate specific research questions to a broader disciplinary field;
- Ability to present arguments in line with academic standards.

[授業計画と内容]

Date of the examination to be agreed upon by student and supervisor at least one month in advance.
For content, e.g., reading material to be prepared, see Method, Point of view below.

[Important Notice] For students with Kyoto University as their home institution, this oral examination will be conducted together with their thesis defense. Students with Heidelberg University as their home institution will need to present their thesis topic pro forma in an oral defense at Kyoto University in addition to this Module “ Oral Examination ” after the thesis submission.

[履修要件]

Completion of modules "Introduction to Transcultural Studies", "Skills for Transcultural Studies", "Focus 1" and "Focus 2". Only for students in Division of Joint Degree M.A. Program in Transcultural Studies.

Oral Master Examination - Oral Examination (2)へ続く↓↓↓

Oral Master Examination - Oral Examination (2)

[成績評価の方法・観点]

The oral examination lasts approximately 30 minutes. The examination is held by two examiners. The first examiner is the supervisor of the master’s thesis. Student and supervisor agree on three topics for the examination from the general field of Transcultural Studies and the chosen study focus. In the oral examination, students demonstrate their knowledge of the state of art in the chosen topics and their ability to contextualize specific research questions in the larger disciplinary contexts of transcultural studies.

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

Not used

（関連ＵＲＬ）

https://www.cats.bun.kyoto-u.ac.jp/elearn

[授業外学修（予習・復習）等]

Participants need to prepare the readings designated for the Oral Master Examination.

（その他（オフィスアワー等））

Consultation (office hours) by appointment.

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

科目ナンバリング	G-LET36 8J980 GE36										
授業科目名 <英訳>	Oral Master Examination - Oral Examination Oral Master Examination - Oral Examination					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　安里　和晃 文学研究科　教授　VASUDEVA, Somdev 文学研究科　講師　Bjorn-Ole Kamm				
配当学年	1回生以上	単位数	0	開講年度・開講期	2023・後期不定	曜時限	その他	授業形態		使用言語	英語
題目	Oral Examination										

[授業の概要・目的]

Oral examination (30 min.) on overall knowledge in the field of Transcultural Studies plus one topic from the chosen study focus. Registration or completion prerequisite for Master Thesis registration at Heidelberg University.

Study Focus: all.

[到達目標]

Objectives of module:
With the successful completion of this module students have acquired the following competences:
- Ability to present, analyse, and critically discuss the state of the art of their exam topics;
- Ability to critically relate specific research questions to a broader disciplinary field;
- Ability to present arguments in line with academic standards.

[授業計画と内容]

Date of the examination to be agreed upon by student and supervisor at least one month in advance.
For content, e.g., reading material to be prepared, see Method, Point of view below.

[Important Notice] For students with Kyoto University as their home institution, this oral examination will be conducted together with their thesis defense. Students with Heidelberg University as their home institution will need to present their thesis topic pro forma in an oral defense at Kyoto University in addition to this Module “ Oral Examination ” after the thesis submission.

[履修要件]

Completion of modules "Introduction to Transcultural Studies", "Skills for Transcultural Studies", "Focus 1" and "Focus 2". Only for students in Division of Joint Degree M.A. Program in Transcultural Studies.

[成績評価の方法・観点]

The oral examination lasts approximately 30 minutes. The examination is held by two examiners. The first examiner is the supervisor of the master ’ s thesis. Student and supervisor agree on three topics for the examination from the general field of Transcultural Studies and the chosen study focus. In the oral examination, students demonstrate their knowledge of the state of art in the chosen topics and their ability to contextualize specific research questions in the larger disciplinary contexts of transcultural studies.

[教科書]

使用しない

Oral Master Examination - Oral Examination(2)へ続く↓↓↓

Oral Master Examination - Oral Examination(2)

[参考書等]

（参考書）

Not used

（関連ＵＲＬ）

https://www.cats.bun.kyoto-u.ac.jp/elearn

[授業外学修（予習・復習）等]

Participants need to prepare the readings designated for the Oral Master Examination.

（その他（オフィスアワー等））

Consultation (office hours) by appointment.

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**